

IBM

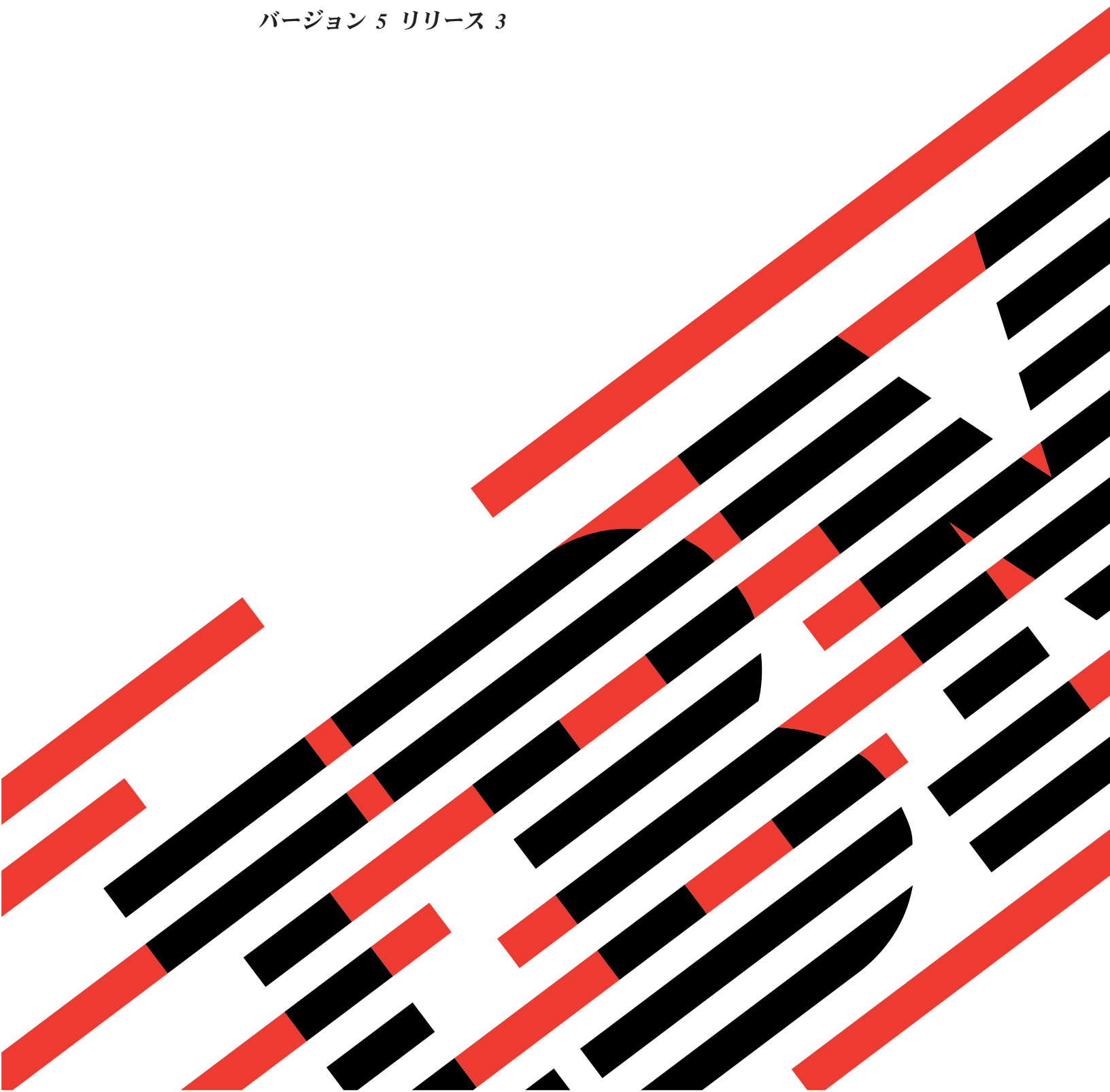
@server

iSeries

OS/400 コマンド

DSPOPTSVR (光ディスク・サーバー表示) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

DSPOPTSVR (光ディスク・サーバー表示) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、393 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with DSPOPTSVR (Display Optical Server)
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

光ディスク・サーバー表示 (DSPOPTSVR)	1
パラメーター	1
タイプ (TYPE)	1
出力 (OUTPUT)	1
DSPOPTSVRの例	2
エラー・メッセージ: DSPOPTSVR	2
一時変更表示 (DSPOVR)	3
パラメーター	3
一時変更されるファイル名 (FILE)	3
一時変更組み合わせ (MRGOVR)	4
呼び出しレベル (LVL)	4
活動化グループ (ACTGRP)	5
出力 (OUTPUT)	5
DSPOVRの例	5
エラー・メッセージ: DSPOVR	5
PDGプロファイルの表示 (DSPPDGPRF)	7
パラメーター	7
ユーザー (USER)	7
出力 (OUTPUT)	7
DSPPDGPRFの例	8
エラー・メッセージ: DSPPDGPRF	8
物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)	9
パラメーター	9
ファイル (FILE)	9
メンバー (MBR)	9
開始レコード (FROMRCD)	10
DSPPFMの例	10
エラー・メッセージ: DSPPFM	11
プログラム表示 (DSPPGM)	13
パラメーター	13
プログラム (PGM)	13
出力 (OUTPUT)	14
詳細 (DETAIL)	14
DSPPGMの例	15
エラー・メッセージ: DSPPGM	15
プログラム借用表示 (DSPPGMADP)	17
パラメーター	17
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	17
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	18
出力 (OUTPUT)	18
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	18
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	19
DSPPGMADPの例	19
エラー・メッセージ: DSPPGMADP	20
プログラム参照表示 (DSPPGMREF)	21

パラメーター	22
プログラム (PGM)	23
出力 (OUTPUT)	24
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	24
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	25
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	25
DSPPGMREFの例	26
エラー・メッセージ: DSPPGMREF	26

プログラム変数表示 (DSPPGMVAR)	29
パラメーター	29
プログラム変数 (PGMVAR)	29
出力形式 (OUTFMT)	30
出力 (OUTPUT)	30
プログラム (PGM)	31
文字出力開始位置 (START)	31
表示する文字数 (LEN)	31
反復レベル (RCRLVL)	32
DSPPGMVARの例	32
エラー・メッセージ: DSPPGMVAR	32

問題の表示 (DSPPRB)	33
パラメーター	33
問題識別コード (PRBID)	34
状況タイプ (STATUS)	34
重大度 (SEV)	35
期間 (PERIOD)	35
ハードウェア (HARDWARE)	36
資源名 (RESOURCE)	37
プロダクト (LICPGM)	37
機能 (FUNCTION)	38
プログラム (PGM)	40
メッセージ識別コード (MSGID)	41
起点 (ORIGIN)	41
サービス番号 (SRVID)	42
ユーザー割り当て (ASNUSER)	42
グループ割り当て (GROUP)	42
問題タイプ (PRBTYPE)	42
問題カテゴリ (PRBCGY)	43
出力 (OUTPUT)	43
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	43
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	44
情報のタイプ (TYPE)	44
DSPPRBの例	45
エラー・メッセージ: DSPPRB	46

PSF構成の表示 (DSPPSFCFG)	47
パラメーター	47
PSF構成 (PSFCFG)	47
出力 (OUTPUT)	48
DSPPSFCFGの例	48

エラー・メッセージ： DSPPSFCFG 48

プログラム一時修正表示 (DSPPTF) 49

パラメーター 49
プロダクト (LICPGM) 49
選択するPTF番号 (SELECT) 50
リリース (RLS) 50
カバー・レターのみ (COVERONLY) 51
出力 (OUTPUT) 51
出力を受け取るファイル (OUTFILE) 51
出力メンバー・オプション (OUTMBR) 52
DSPPTFの例 52
エラー・メッセージ： DSPPTF 53

PTFカバー・レターの表示 (DSPPTFCVR) 55

パラメーター 55
プロダクト (LICPGM) 55
選択するPTF番号 (SELECT) 55
リリース (RLS) 56
属性 (CVRATR) 56
カバー・レター言語 (CVRLTRLNG) 57
出力 (OUTPUT) 58
DSPPTFCVRの例 58
エラー・メッセージ： DSPPTFCVR 58

電源オン/オフ・スケジュールの表示 (DSPPWSCD) 61

パラメーター 61
出力 (OUTPUT) 61
開始日付 (STRDATE) 61
日数 (DAYS) 62
DSPPWSCDの例 62
エラー・メッセージ： DSPPWSCD 62

レコード・ロック表示 (DSPRCDLCK) 63

パラメーター 63
物理ファイル (FILE) 63
メンバー (MBR) 64
レコード番号 (RCDNBR) 64
出力 (OUTPUT) 64
DSPRCDLCKの例 64
エラー・メッセージ： DSPRCDLCK 64

アクセス・パスの回復の表示 (DSPRCYAP) 67

パラメーター 67
出力 (OUTPUT) 67
ASP装置 (ASP) 68
ASPグループ (ASPGRP) 68
DSPRCYAPの例 68
エラー・メッセージ： DSPRCYAP 69

RDBディレクトリー項目の表示 (DSPRDBDIRE) 71

パラメーター 71
項目 (RDB) 71
出力 (OUTPUT) 72
出力を受け取るファイル (OUTFILE) 72
出力メンバー・オプション (OUTMBR) 73
DSPRDBDIREの例 73
エラー・メッセージ： DSPRDBDIRE 73

リモート定義の表示 (DSPRMTDFN) 75

パラメーター 75
システム名 (SYSTEM) 75
出力 (OUTPUT) 76
出力を受け取るファイル (OUTFILE) 76
出力メンバー・オプション (OUTMBR) 77
DSPRMTDFNの例 77
エラー・メッセージ： DSPRMTDFN 77

S/36構成の表示 (DSPS36) 79

パラメーター 79
出力 (OUTPUT) 79
DSPS36の例 79
エラー・メッセージ： DSPS36 79

保管ファイル表示 (DSPSAVF) 81

パラメーター 81
保管ファイル (FILE) 81
出力 (OUTPUT) 82
DSPSAVFの例 82
エラー・メッセージ： DSPSAVF 82

サブシステム記述表示 (DSPSBSD) 85

パラメーター 85
サブシステム記述 (SBSD) 85
出力 (OUTPUT) 86
DSPSBSDの例 86
エラー・メッセージ： DSPSBSD 86

機密保護属性の表示 (DSPSECA) 89

パラメーター 89
出力 (OUTPUT) 89
DSPSECAの例 90
エラー・メッセージ： DSPSECA 90

機密保護監査の表示 (DSPSECAUD) 91

パラメーター 91
出力 (OUTPUT) 91
DSPSECAUDの例 91
エラー・メッセージ： DSPSECAUD 92

ソフトウェア資源の表示 (DSPSFWRSC) 93

パラメーター 93
出力 (OUTPUT) 93
出力を受け取るファイル (OUTFILE) 94
出力メンバー・オプション (OUTMBR) 94
DSPSFWRSCの例 95
エラー・メッセージ： DSPSFWRSC 95

制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS)	97
パラメーター	97
出力 (OUTPUT)	97
詳細 (DETAIL)	97
DSPSOCSTSの例	98
エラー・メッセージ: DSPSOCSTS	98
スプール・ファイル表示 (DSPSPLF)	99
パラメーター	99
スプール・ファイル (FILE)	99
ジョブ名 (JOB)	100
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	100
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	100
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	101
レコードの折り返し (FOLD)	101
DSPSPLFの例	102
エラー・メッセージ: DSPSPLF	102
サービス属性の表示 (DSPSRVA)	105
パラメーター	105
DSPSRVAの例	105
エラー・メッセージ: DSPSRVA	105
サービス・エージェントの表示 (DSPSRVAGT)	107
パラメーター	107
タイプ(TYPE)	107
装置(DEVICE)	108
カテゴリ(CATEGORY)	108
センス・バイトの形式(SENSEFMT)	108
システムまたは論理区画(SYSNAME)	109
出力(OUTPUT)	109
IBMサービス技術員(SRVREP)	109
IBMサービスの電話番号(SRVTELNBR)	109
推奨事項(RECOMMEND)	110
エラー・ログ識別コード(ERRLOGID)	110
DSPSRVAGTの例	110
エラー・メッセージ: DSPSRVAGT	110
サービス・プログラムの表示 (DSPSRVPGM)	111
パラメーター	111
サービス・プログラム (SRVPGM)	111
出力 (OUTPUT)	112
詳細 (DETAIL)	112
DSPSRVPGMの例	113
エラー・メッセージ: DSPSRVPGM	113
サービス状況表示 (DSPSRVSTS)	115
パラメーター	115
ジョブ名 (JOB)	115
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	116
DSPSRVSTSの例	116
エラー・メッセージ: DSPSRVSTS	116

サーバー認証項目の表示 (DSPSVRAUTE)	117
パラメーター	117
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	117
出力 (OUTPUT)	117
DSPSVRAUTEの例	118
エラー・メッセージ: DSPSVRAUTE	118
システム状況の表示 (DSPSYSSTS)	119
パラメーター	119
出力 (OUTPUT)	119
状況統計リセット (RESET)	119
援助レベル (ASTLVL)	120
DSPSYSSTSの例	120
エラー・メッセージ: DSPSYSSTS	120
システム値表示 (DSPSYSVAL)	121
パラメーター	122
システム値 (SYSVAL)	123
出力 (OUTPUT)	149
DSPSYSVALの例	149
エラー・メッセージ: DSPSYSVAL	149
テープ表示 (DSPTAP)	151
パラメーター	151
装置 (DEV)	152
ボリューム識別コード (VOL)	152
ファイル・ラベル (LABEL)	152
順序番号 (SEQNBR)	152
データ・タイプ (DATA)	153
出力 (OUTPUT)	154
テープ終了オプション (ENDOPT)	154
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	154
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	155
DSPTAPの例	155
エラー・メッセージ: DSPTAP	155
テープ・カテゴリの表示 (DSPTAPCGY)	159
パラメーター	159
出力 (OUTPUT)	159
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	160
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	160
DSPTAPCGYの例	161
エラー・メッセージ: DSPTAPCGY	161
テープ・カートリッジの表示 (DSPTAPCTG)	163
パラメーター	163
ライブラリー装置 (DEV)	163
カートリッジID (CTG)	163
カテゴリ (CGY)	164
出力 (OUTPUT)	165
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	165
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	166

DSPTAPCTGの例	166
エラー・メッセージ: DSPTAPCTG	167
テープ状況の表示 (DSPTAPSTS)	169
パラメーター	169
ライブラリー装置 (DEV)	169
出力 (OUTPUT)	170
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	170
出力メンバー・オプション (OUTMBR).	170
出力メンバー・オプション (OUTFILFMT).	171
DSPTAPSTSの例	171
エラー・メッセージ: DSPTAPSTS	171
商標の表示 (DSPTM)	173
パラメーター	173
DSPTMの例	173
エラー・メッセージ: DSPTM	173
追跡表示 (DSPTRC)	175
パラメーター	175
出力 (OUTPUT)	175
プログラム (PGM).	175
DSPTRCの例	176
エラー・メッセージ: DSPTRC	176
追跡データ表示 (DSPTRCDTA)	177
パラメーター	177
出力 (OUTPUT)	177
消去 (CLEAR)	178
DSPTRCDTAの例	178
エラー・メッセージ: DSPTRCDTA.	178
ユーザー定義FSの表示 (DSPUDFS)	179
パラメーター	179
ユーザー定義ファイル・システム (UDFS).	179
出力 (OUTPUT)	179
DSPUDFSの例	180
エラー・メッセージ: DSPUDFS.	180
アップグレード準備の表示 (DSPUPGPRP)	181
パラメーター	181
情報のタイプ (TYPE).	181
出力 (OUTPUT)	182
例	182
エラー・メッセージ	182
ユーザー認可表示 (DSPUSRPMN)	183
パラメーター	183
ユーザー・プロファイル (USER).	183
認可先/認可元 (GRANTED)	183
出力 (OUTPUT)	184
DSPUSRPMNの例	184
エラー・メッセージ: DSPUSRPMN	184

ユーザー・プロファイル表示 (DSPUSRPRF)	187
パラメーター	187
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	188
情報のタイプ (TYPE).	188
出力 (OUTPUT)	189
出力を受け取るファイル (OUTFILE).	189
出力メンバー・オプション (OUTMBR).	190
DSPUSRPRFの例	190
エラー・メッセージ: DSPUSRPRF	191
ユーザー印刷情報の表示 (DSPUSRPRTI)	193
パラメーター	193
ユーザー (USER)	193
出力 (OUTPUT)	193
DSPUSRPRTIの例	194
エラー・メッセージ: DSPUSRPRTI	194
ワークステーション・ユーザーの表示 (DSPWSUSR)	195
パラメーター	195
出力 (OUTPUT)	195
DSPWSUSRの例	195
エラー・メッセージ: DSPWSUSR	196
ディスクレット複写 (DUPDKT)	197
パラメーター	198
取り出し装置 (FROMDEV).	198
受け取り装置 (TODEV)	198
コピー枚数 (COPIES).	198
ボリューム再編成 (RGZVOL)	199
DUPDKTの例	199
エラー・メッセージ: DUPDKT	199
光ディスク複製 (DUPOPT)	201
パラメーター	201
FROMボリューム識別コード (FROMVOL).	201
TOボリューム識別コード (TOVOL)	202
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	202
消去 (CLEAR)	202
取り出し装置 (FROMDEV).	203
受け取り装置 (TODEV)	203
媒体エラーの許可 (ALWMEDERR)	203
出力 (OUTPUT)	203
FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)	204
TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)	204
DUPOPTの例	204
エラー・メッセージ: DUPOPT	205
テープの複製 (DUPTAP)	209
パラメーター	209
取り出し装置 (FROMDEV).	210
受け取り装置 (TODEV)	210
開始順序番号 (FROMSEQNBR)	210

終了順序番号 (TOSEQNBR)	211
FROMボリューム識別コード (FROMVOL)	211
TOボリューム識別コード (TOVOL)	211
テープ密度 (TODENSITY)	212
データ短縮 (COMPACT)	216
複製するファイル (FILES)	216
ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)	217
FROM装置終了オプション (FROMENDOPT)	217
TO装置終了オプション (TOENDOPT)	218
活動ファイルの検査 (CHECK)	218
ファイル満了日 (EXPDATE)	218
DUPTAPの例	219
エラー・メッセージ: DUPTAP	219
権限リスト編集 (EDTAUTL)	221
パラメーター	221
権限リスト (AUTL)	221
EDTAUTLの例	221
エラー・メッセージ: EDTAUTL	221
バックアップ・リストの編集 (EDTBCKUPL)	223
パラメーター	223
バックアップ・リスト (BCKUPL)	223
EDTBCKUPLの例	223
エラー・メッセージ: EDTBCKUPL	223
CHKPND制約の編集 (EDTCPCST)	225
パラメーター	225
EDTCPCSTの例	225
エラー・メッセージ: EDTCPCST	225
DLファイル属性の編集 (EDTDLFA)	227
パラメーター	227
EDTDLFAの例	227
エラー・メッセージ: EDTDLFA	227
DLO権限編集 (EDTDLOAUT)	229
パラメーター	229
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	229
フォルダー (FLR)	230
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	230
EDTDLOAUTの例	230
エラー・メッセージ: EDTDLOAUT	231
ファイル編集 (EDTF)	233
パラメーター	233
ストリーム・ファイル, または (STMF)	233
データベース・ファイル (FILE)	234
ファイル・メンバー (MBR)	234
EDTFの例	234
エラー・メッセージ: EDTF	234
DBCS変換辞書編集 (EDTIGCDCT)	237
パラメーター	237
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	237

辞書項目 (ENTRY)	238
EDTIGCDCTの例	238
エラー・メッセージ: EDTIGCDCT	238
ライブラリー・リスト編集 (EDTLIBL)	241
パラメーター	241
EDTLIBLの例	241
エラー・メッセージ: EDTLIBL	241
オブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT)	243
パラメーター	243
オブジェクト (OBJ)	244
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	244
ASP装置 (ASPDEV)	245
EDTOBJAUTの例	245
エラー・メッセージ: EDTOBJAUT	245
質問・回答の編集 (EDTQST)	247
パラメーター	247
Q/Aデータベース (QSTDB)	247
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	248
EDTQSTの例	248
エラー・メッセージ: EDTQST	248
アクセス・パスの再作成の編集 (EDTRBDAP)	249
パラメーター	249
EDTRBDAPの例	249
エラー・メッセージ: EDTRBDAP	249
アクセス・パスの回復の編集 (EDTRCYAP)	251
パラメーター	251
EDTRCYAPの例	252
エラー・メッセージ: EDTRCYAP	252
S/36プログラム属性編集 (EDTS36PGMA)	255
パラメーター	255
S/36プログラム (PGM)	255
EDTS36PGMAの例	256
エラー・メッセージ: EDTS36PGMA	256
S/36プロシージャ属性編集 (EDTS36PRCA)	257
パラメーター	257
S/36 プロシージャ・メンバー (MBR)	257
ソース・ファイル (FILE)	257
EDTS36PRCAの例	258
エラー・メッセージ: EDTS36PRCA	258
S/36ソース属性編集 (EDTS36SRCA)	261
パラメーター	261
S/36ソース・メンバー (MBR)	261
ソース・ファイル (FILE)	261

EDTS36SRCAの例	262
エラー・メッセージ： EDTS36SRCA	262

**ワークステーション・オブジェクト権限
編集 (EDTWSOAUT) 265**

パラメーター	265
ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)	266
EDTWSOAUTの例	267
エラー・メッセージ	267

**エミュレーション出力エジェクト
(EJTEMLOUT) 269**

パラメーター	270
エミュレーション装置 (EMLDEV)	270
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)	270
印刷装置 (PRTDEV)	270
EJTEMLOUTの例	271
エラー・メッセージ： EJTEMLOUT	271

要素定義 (ELEM) 273

パラメーター	273
値のタイプ (TYPE)	274
値の長さ (LEN)	276
定数値 (CONSTANT)	277
制約された値 (RSTD)	278
省略時の値 (DFT)	278
有効な値 (VALUES)	279
比較式 (REL)	280
値の範囲 (RANGE)	280
特殊値 (SPCVAl)	280
単一値 (SNGVAL)	281
許される最小値 (MIN)	282
許される最大値 (MAX)	282
印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)	283
変数名使用可能 (ALWVAR)	283
ELEMはプログラムである (PGM)	283
ELEMはデータ域である (DTAARA)	283
ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILE)	284
全桁入力必須 (FULL)	284
式の評価 (EXPR)	284
可変の長さ (VARY)	285
属性バイト受け渡し (PASSATR)	285
大文字・小文字(CASE)	286
画面入力 (DSPINPUT)	286
テキスト選択 (CHOICE)	286
プログラム選択 (CHOICEPGM)	287
初期プロンプト長 (INLPMTLEN)	288
プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)	288
ELEMの例	289
エラー・メッセージ： ELEM	289

ELSE (ELSE) 291

パラメーター	291
コマンド (CMD)	291

ELSEの例	292
エラー・メッセージ： ELSE	293

**印刷装置キーのエミュレート
(EMLPRTKEY) 295**

パラメーター	295
エミュレーション装置 (EMLDEV)	295
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)	296
印刷装置 (PRTDEV)	296
エミュレート印刷装置キー (PRTKEY)	296
EMLPRTKEYの例	296
エラー・メッセージ： EMLPRTKEY	296

**エージェント・サービスの終了
(ENDAGTSRV) 299**

パラメーター	299
設定ファイル・ディレクトリー (PREFDIR)	299
ENDAGTSRVの例	299
エラー・メッセージ： ENDAGTSRV	300

ASPバランス化終了 (ENDASPBAL) 301

パラメーター	301
ASP番号 (ASP)	301
ASP装置 (ASPDEV)	302
ENDASPBALの例	302
エラー・メッセージ： ENDASPBAL	302

ジョブ終了 (ENDBCHJOB) 305

パラメーター	305
ENDBCHJOBの例	305
エラー・メッセージ： ENDBCHJOB	305

CHTサーバーの終了 (ENDCHTSVR) 307

パラメーター	307
サーバー (SERVER)	307
ノード (NODE)	308
ENDCHTSVRの例	308
エラー・メッセージ： ENDCHTSVR	308

終結処置の終了 (ENDCLNUP) 311

パラメーター	311
ENDCLNUPの例	311
エラー・メッセージ： ENDCLNUP	311

**クラスター・ノードの終了
(ENDCLUNOD) 313**

パラメーター	313
クラスター (CLUSTER)	314
ノードID (NODE)	314
オプション (OPTION)	314
ENDCLUNODの例	314
エラー・メッセージ	314

通信サーバーの終了 (ENDCMNSVR) 315

パラメーター	315
------------------	-----

終了方法 (OPTION)	315
制御された終了遅延時間 (DELAY)	316
ENDCMNSVRの例	316
エラー・メッセージ: ENDCMNSVR	316
通信追跡の終了 (ENDCMNTRC)	317
パラメーター	317
構成オブジェクト (CFGOBJ)	317
タイプ (CFGTYPE)	318
ENDCMNTRCの例	318
エラー・メッセージ: ENDCMNTRC	318
コミットメント制御終了 (ENDCMTCTL)	321
パラメーター	321
ENDCMTCTLの例	321
エラー・メッセージ: ENDCMTCTL	322
画面コピー終了 (ENDCPYSCN)	323
パラメーター	323
ソース装置 (SRCDEV)	323
ENDCPYSCNの例	323
エラー・メッセージ: ENDCPYSCN	324
クラスター資源グループの終了 (ENDCRG)	325
パラメーター	325
クラスター (CLUSTER)	325
クラスター資源グループ (CRG)	326
出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)	326
ENDCRGの例	326
エラー・メッセージ: ENDCRG	326
制御装置回復終了 (ENDCTLRCY)	327
パラメーター	327
制御装置 (CTL)	327
ENDCTLRCYの例	327
エラー・メッセージ: ENDCTLRCY	327
デバッグ・モード終了 (ENDDBG)	329
パラメーター	329
ENDDBGの例	329
エラー・メッセージ: ENDBG	329
デバッグ・サーバー終了 (ENDDBGSVR)	331
パラメーター	331
ENDDBGSVRの例	331
エラー・メッセージ: ENDBGSVR	331
データベース・モニター終了 (ENDDBMON)	333
パラメーター	333
ジョブ名 (JOB)	333
注記 (COMMENT)	334
ENDDBMONの例	334

エラー・メッセージ: ENDDBMON	334
入出力装置回復終了 (ENDDEVRCY)	337
パラメーター	337
装置 (DEV)	337
ENDDEVRCYの例	337
エラー・メッセージ: ENDDEVRCY	337
ディレクトリー・シャドウ化の終了 (ENDDIRSHD)	339
パラメーター	339
終了方法 (OPTION)	339
制御された終了遅延時間 (DELAY)	340
ENDDIRSHDの例	340
エラー・メッセージ: ENDDIRSHD	340
DOグループ終了 (ENDDO)	341
パラメーター	341
ENDDOの例	341
エラー・メッセージ: ENDDO	342
ディスク再編成の終了 (ENDDSKRGZ)	343
パラメーター	343
補助記憶域プールID (ASP)	343
ASP装置 (ASPDEV)	343
ENDDSKRGZの例	344
エラー・メッセージ: ENDDSKRGZ	344
EPM環境終了 (ENDEPMENV)	345
エラー・メッセージ: ENDEPMENV	345
パラメーター	345
環境名 (EPMENV)	345
環境番号 (ENVNBR)	346
例	346
エラー・メッセージ: ENDEPMENV	346
グループ・ジョブ終了 (ENDGRPJOB)	347
パラメーター	347
グループ・ジョブ (GRPJOB)	347
再開するグループ・ジョブ (RSMGRPJOB)	347
ジョブ・ログ (LOG)	348
ENDGRPJOBの例	348
エラー・メッセージ: ENDGRPJOB	348
ホスト・サーバーの終了 (ENDHOSTSVR)	351
エラー・メッセージ: ENDHOSTSVR	351
パラメーター	351
サーバー・タイプ (SERVER)	352
活動状態接続の終了 (ENDACTCNN)	352
例	353
エラー・メッセージ: ENDHOSTSVR	353
入力終了 (ENDINP)	355
パラメーター	355
ENDINPの例	355

エラー・メッセージ： ENDINP 355

SNA インターフェース上のIPの終了 (ENDIPSIFC) 357

パラメーター 357
IPアドレス (INTNETADR) 357
ENDIPSIFCの例 357
エラー・メッセージ： ENDIPSIFC 357

ジョブ終了 (ENDJOB) 359

パラメーター 359
ジョブ名 (JOB) 360
終了方法 (OPTION) 360
制御された終了遅延時間 (DELAY) 361
スプール・ファイル削除 (SPLFILE) 361
ログ項目の最大数 (LOGLMT) 362
追加の対話式ジョブ数 (ADLINTJOBS) 362
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT) 363
ENDJOBの例 363
エラー・メッセージ： ENDJOB 363

ジョブ異常終了 (ENDJOBABN) 365

パラメーター 366
ジョブ名 (JOB) 367
重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT) 367
ENDJOBABNの例 367
エラー・メッセージ： ENDJOBABN 368

ジャーナルの終了 (ENDJRN) 369

パラメーター 369
オブジェクト (OBJ) 370
ファイル識別コード (OBJFID) 370
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE) 371
名前パターン (PATTERN) 371
ジャーナル (JRN) 372
ENDJRNの例 372
エラー・メッセージ： ENDJRN 373

アクセス・パス・ジャーナル終了 (ENDJRNAP) 375

パラメーター 375
ジャーナル処理ファイル (FILE) 376

ジャーナル (JRN) 376
ENDJRNAPの例 377
エラー・メッセージ： ENDJRNAP 377

ジャーナル・オブジェクト終了 (ENDJRNOBJ) 379

パラメーター 379
オブジェクト (OBJ) 380
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE) 380
ジャーナル (JRN) 380
ENDJRNOBJの例 381
エラー・メッセージ： ENDJRNOBJ 381

ジャーナル物理ファイルの終了 (ENDJRNPFF) 383

パラメーター 383
ジャーナルされた物理ファイル (FILE) 384
ジャーナル (JRN) 384
ENDJRNPFFの例 385
エラー・メッセージ： ENDJRNPFF 385

回線回復終了 (ENDLINRCY) 387

パラメーター 387
行 (LINE) 387
ENDLINRCYの例 387
エラー・メッセージ： ENDLINRCY 387

モード終了 (ENDMOD) 389

パラメーター 389
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME) 389
装置 (DEV) 390
モード (MODE) 390
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME) 390
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID) 391
保留された要求の完了 (CPLPNDRQS) 391
ENDMODの例 391
エラー・メッセージ： ENDMOD 391

付録. 特記事項 393

商標 394
資料に関するご使用条件 395
コードに関する特記事項 396

光ディスク・サーバー表示 (DSPOPTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・サーバー表示(DSPOPTSVR)コマンドは、光ディスク・サーバー追加(ADDOPTSVR)コマンドを使用して追加されたすべての光ディスク・サーバーの構成に関する情報を表示します。情報は印刷または表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	<u>*DEST</u> , *CONV	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション、位置 2

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

表示される情報のタイプを指定します。

*DEST

宛先情報が表示されます。この情報には、階層ファイル・システム(HFS) APIを使用してアクセスできるすべての光ディスク・サーバーのリストおよび各宛先の現在の状況が含まれます。

*CONV

会話情報が表示されます。この情報には、活動状態のすべての光ディスク会話のリスト、各会話の宛先、会話を使用するジョブ、および各オープン・ファイルのパスが含まれます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。

* 要求されたデータは表示装置に表示されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPOPTSVRの例

DSPOPTSVR TYPE(*DEST)

このコマンドは、開始済みの光ディスク・サーバーのすべての各宛先の現行状況を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPOPTSVR

*ESCAPEメッセージ

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF6A1C

印刷機能を追加することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

OPT6710

光ディスク・サーバー・サポートが活動状態でない。

[トップ](#)

一時変更表示 (DSPOVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

一時変更表示(DSPOVR)コマンドは、ジョブの活動状態にある呼び出しレベルでのファイルの一時変更を表示します。すべてのファイルの一時変更、または特定のファイルに対する一時変更を表示することができます。

ファイル一時変更は、表示する前に組み合わせることができます。組合されたファイル一時変更は、呼び出しレベル1から指定の呼び出しレベルまでのファイルに対するすべての一時変更を組み合わせられた結果であり、そのファイルが、指定された呼び出しレベルでオープンされる時点で適用される一時変更を意味します。

呼び出しレベルは、呼び出しスタックの各呼び出しスタック項目に対応しています。プログラムまたはプロシージャの呼び出しにより、呼び出しスタックに別の呼び出しスタック項目が追加されます。TFRCTL (制御権転送) コマンドを使用してプログラムまたはプロシージャが呼び出された時には、この呼び出しスタックは、呼び出しスタックにすでにある呼び出しスタック項目に置き換わります。新しい呼び出しレベル番号は作成されません。

注: この機能は、ジョブ処理(WRKJOB)コマンドのオプション15によってもアクセスすることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更されるファイル名	名前, *ALL, *PRTF	オプション、定位置 1
MRGOVR	一時変更組み合わせ	*YES, *NO	オプション
LVL	呼び出しレベル	1-999, *, *JOB	オプション
ACTGRP	活動化グループ	文字値, *	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

一時変更されるファイル名 (FILE)

すべてのファイルの一時変更を表示するか、あるいは特定のファイルに対するファイル一時変更を表示するかを指定します。

***ALL** 呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでのすべてのファイルの一時変更が表示されません。

***PRTF** このコマンドが入力された呼び出しレベルに存在している*PRTFファイルの一時変更が表示されません。

一時変更されるファイル名

呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでの表示するすべてのファイル一時変更の名前を指定してください。

トップ

一時変更組み合わせ (MRGOVR)

ファイル一時変更を組み合わせるかどうかを指定します。組み合わせられた一時変更用に使用された最後の一時変更のタイプと同じタイプの一時変更のパラメーターだけが、指定された呼び出しレベルでの有効な一時変更を決定するために使用されます。

***YES** 表示されるファイルの一時変更は組み合わせられます。

***NO** 表示されるファイルの一時変更は組み合わせられません。

トップ

呼び出しレベル (LVL)

表示されるファイル一時変更の呼び出しレベルを指定します。WRKJOBコマンドによる呼び出しスタック上に表示される呼び出しスタック項目とその呼び出しスタック項目の呼び出しレベルとの間に、1対1の対応関係があります。

呼び出しスタック上に最初に表示される呼び出しスタック項目名（リストの最上部）は、呼び出しレベル1の呼び出し先プログラムまたはプロシージャです。2番目に表示される呼び出しスタック項目名は、呼び出しレベル2のプログラムまたはプロシージャです。最後に表示される呼び出しスタック項目名は、そのジョブの最高の呼び出しレベルのプログラムまたはプロシージャです。

- 組み合わせられたファイル一時変更が表示される場合には、呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでのファイルの一時変更が、組み合わせられたファイル一時変更の作成に提供されます。
- 一時変更組み合わせプロンプト (MRGOVRパラメーター) に*NOを指定し、一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に*ALLを指定した場合には、呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでのすべてのファイルの一時変更（およびそれらが見つかった呼び出しレベル）が表示されます。
- 一時変更組み合わせプロンプト (MRGOVRパラメーター) に*NOを指定し、一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) にファイル一時変更名を指定した場合には、呼び出しレベル1から指定した呼び出しレベルまでの指定したファイルのすべてのファイルの一時変更（およびそれらが見つかった呼び出しレベル）が表示されます。

*
- 表示されるファイル一時変更の呼び出しレベルは、DSPOVRコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの呼び出しレベルです。このコマンドがQCMDEXCに対する呼び出しによって開始された場合には、呼び出しレベルはQCMDEXCの呼び出し元と同じ呼び出しレベルです。999より大きい呼び出しレベル番号での一時変更は表示されません。

***JOB** ジョブ・レベルにOVRSCOPE(*JOB)が指定された一時変更のみが削除されます。

呼び出しレベル番号

表示するファイル一時変更の特定の呼び出しレベルを指定してください。特定の呼び出しレベルは、実行中の呼び出しレベルより低い呼び出しレベルでのファイル一時変更の表示に使用されません。有効な値の範囲は1 - 999です。

トップ

活動化グループ (ACTGRP)

活動化グループについて表示するためにレベル一時変更を指定します。MRGOVR(*YES)が指定された時には、活動化グループで最も古いプロシージャの呼び出しレベル以上のすべての呼び出しレベル一時変更が処理された後で、活動化グループ・レベルの一時変更が処理されます。

* 要求元端末の活動化グループからのレベル一時変更が表示されます。

活動化グループ名

活動化グループ・レベルの一時変更を指定する活動化グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPOVRの例

例1:組み合わせられた一時変更の表示

```
DSPOVR FILE(REPORTS) MRGOVR(*YES) LVL(3) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、呼び出しレベル3でファイルREPORTSで組み合わせられた一時変更を表示する画面を、各キーワードとパラメーターのテキスト記述付きで作成します。呼び出しレベル1, 2,および3での適用可能な一時変更が、組み合わせられた一時変更を形成するのに使用されます。

例2:ファイル一時変更の表示

```
DSPOVR FILE(REPORTS) MRGOVR(*NO) LVL(2) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、呼び出しレベル2までのファイルREPORTSのすべてのファイル一時変更を表示します。これは、ファイル名を表示する画面、一時変更が要求された呼び出しレベル、一時変更のタイプ、および一時変更パラメーターを作成します。ファイル一時変更が指定した呼び出しレベルまでのファイルで見つからない場合には、エスケープ・メッセージCPF9842が送信されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPOVR

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

CPF9842

ファイル&1の一時変更が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9852

ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

[トップ](#)

PDGプロファイルの表示 (DSPPDGPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷記述子グループ・プロファイル表示(DSPPDGPRF)コマンドは、ユーザーと現在関連づけられている印刷記述子グループ(PDG)および印刷記述子名を表示します。

制約事項:

ユーザーのプロファイルに対して*OBJOPR権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ユーザー (USER)

画面に表示するPDGプロファイルをもっているユーザーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

現行ジョブのユーザーのユーザー・プロファイルを検査します。

ユーザー名

表示されるPDGプロファイルをもっているユーザーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはスパール・ファイルに記憶されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はスプール・ファイルに記憶されます。

[トップ](#)

DSPPDGPRFの例

DSPPDGPRF USER(TPDEXTER)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルTPDEXTERの印刷記述子および印刷記述子グループを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPPDGPRF

***ESCAPEメッセージ**

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

物理ファイル・メンバー表示 (DSPPFM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー表示(DSPPFM)コマンドは物理データベース・ファイル・メンバーを表示します。ファイルがキー順アクセス・パスであっても、レコードは到着順に表示されます。ファイルを通覧したり、レコード番号によって特定のレコードを見つけたり、レコード内の開始位置を指定したりすることができます。また、レコードの文字表示または16進表示を選択することもできます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
FROMRCD	開始レコード	符号なし整数, 1, *END, *ALLDATA	オプション

[トップ](#)

ファイル (FILE)

表示するメンバーが入っている物理ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

表示するファイル・メンバーの名前を指定します。

*FIRST

指定された物理ファイルの最初のメンバーが表示されます。

*LAST 指定された物理ファイルの最後のメンバーが表示されます。

メンバー名

ファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

開始レコード (FROMRCD)

初期画面の最上行に表示する物理ファイル中のレコードを指定します。指定したレコード番号が削除済みレコードの場合には、削除されたレコードに続く最初のレコードに画面が位置づけられます。前ページおよびPAGE DOWN（次ページ）キーを使用して必要なだけのレコードを表示することができます。

考えられる値は次の通りです。

1 物理ファイルのレコード番号1，または削除済みでない最初のレコードが表示されます。ファイルが分散ファイルの場合には，これは，ローカル・メンバーの削除済みでない最初のレコードとなり，ローカル・データだけが表示されます。

*END 物理ファイル中の削除済みでない最後のレコードが表示されます。*END値は，物理ファイル中の最後のレコードが画面の終わりに表示されるように，最後の完了ページを表示します。ファイルが分散ファイルの場合には，これは，ローカル・メンバーの削除済みでない最後のレコードとなり，ローカル・データだけが表示されます。

*ALLDATA

分散ファイルのすべてのデータが，リモート・データも含めて表示されます。非分散ファイルに*ALLDATAが指定された場合には，これはFROMRCD(1)と同じに扱われます。

レコード番号

初期画面の最上行に表示するレコードの番号を指定してください。ファイルが分散ファイルの場合には，これは，ローカル・メンバーのレコード番号となり，ローカル・データだけが表示されま

す。

トップ

DSPPFMの例

例1:先頭ファイル・メンバーの表示

```
DSPPFM FILE(TESTA)
```

このコマンドは，TESTAという名前の物理ファイルの先頭メンバーを表示します。ファイルを見つけるために，ライブラリー・リストが使用されます。

例2:ファイル・メンバーの表示

```
DSPPFM FILE(SAMPLE/TESTB) MBR(PROGRAM)
```

このコマンドは，ライブラリーSAMPLE内の物理ファイルTESTBのメンバーPROGRAMを表示します。

トップ

エラー・メッセージ： DSPPFM

*ESCAPEメッセージ

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

プログラム表示 (DSPPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム表示(DSPPGM)コマンドは、プログラムに関する情報を表示します。表示されるのは、コンパイラーに関する情報、そこからプログラムが作成されたソース、プログラムの特定の処理属性、プログラムのサイズ、および、プログラムを呼び出したときに渡さなければならないパラメーターの数などです。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、プログラムに対する読み取り(*READ)権限およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
- DETAIL(*MODULE)を指定する時には、プログラムに対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _,	オプション, 定位置 2
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *MODULE, *ACTGRPEXP, *ACTGRPIMP, *SRVPGM, *COPYRIGHT	オプション

[トップ](#)

プログラム (PGM)

情報が表示されるプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示される(対話式ジョブによって要求された場合)か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます(バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

詳細 (DETAIL)

サービス・プログラムについて表示される情報のタイプを指定します。複数の値を指定することができますが、値のリストに*ALLを含めないでください。*ALLは単一値として指定しなければなりません。

注: DETAIL(*ALL)またはDETAIL(*BASIC)は、オリジナル・プログラム・モデル(OPM)プログラムでのみ有効な値です。*ALLまたは*BASIC以外のすべての値はOPMプログラムで無視されます。

*ALL すべてのDETAIL情報タイプ(*BASIC, *SIZE, *MODULE, *SRVPGM, *ACTGRPEXP, *ACTGRPIMP, および*COPYRIGHT)が画面に表示されます。ユーザーが画面に表示する情報を選択している場合には、それぞれのDETAILの情報をスクロールすることができますが、DETAILからDETAILに進むためには実行キー (またはPF12)を押す必要があります。

*BASIC

一般的なプログラム情報が表示されます。

*SIZE このプログラムのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

*MODULE

このプログラムによってバインドされたモジュール・オブジェクトのリストが表示されます。各モジュールに示されているライブラリーは、プログラムが最初に作成された時に入っていたライブラリーです。このモジュールが異なるライブラリーからのモジュールによって置き換えられた場合にも、このライブラリー名は、プログラムが作成された時にモジュールが入っていたライブラリーの名前のままです。モジュールの作成の元となったソースを判別するためには、オプション5=記述の表示を使用して、ソース・ファイル、ライブラリー、およびメンバー名を調べてください。

*SRVPGM

このプログラムによってバインドされたサービス・プログラムのリストが表示されます。

*ACTGRPEXP

バインド仕様のデータ・エクスポート項目に指定された活動化グループにエクスポートされたデータ項目のリストが表示されます。

*ACTGRPIMP

活動化グループ・ディレクトリーにエクスポートされたウィーク・エクスポートによって解決されたインポートのリストが表示されます。

*COPYRIGHT

このサービス・プログラムの著作権のリストが表示されます。

注: **DETAIL**値の***SIZE**, ***MODULE**, ***SRVPGM**,および***COPYRIGHT**が有効となるのは、統合化言語環境(ILE)プログラムの場合だけです。オリジナル・プログラム・モデル(OPM)に対してこれらの値の1つを指定すると、***BASIC**情報が表示される結果となります。

[トップ](#)

DSPPGMの例

例1:プログラム情報の表示

```
DSPPGM  PGM(LIB01/PAYROLL)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB01内にあるPAYROLLという名前のプログラムに関する情報を表示します。対話式ジョブによって要求された場合は表示装置に画面が表示され、バッチ・ジョブによって要求された場合は画面が印刷されます。

例2:プログラム情報の印刷

```
DSPPGM  PGM(CUSINQ)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、CUSINQという名前のプログラムに関する情報を表示します。ライブラリー・リストを使用してプログラムを見つけ、情報は印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPPGM

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF8123

ライブラリー&4のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF8129

&9のプログラム&4に損傷がある。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

プログラム借用表示 (DSPPGMADP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム借用状況表示(DSPPGMADP)コマンドは、指定されたユーザー・プロファイルの特殊権限および私用認可を借用するオブジェクトを表示します。これは、プログラム借用による機密保護の開示を検査する便利な方法です。

制約事項:

1. ユーザー・プロファイルに対するオブジェクト管理権限が必要です。
2. このコマンドの実行時には、コマンドで指定されたユーザー・プロファイルがロックされます。このロックによって、所有権を持っているオブジェクトの変更などが防止されます。このプロファイルが多数のオブジェクトを所有している場合には、長時間にわたってプロファイルをロックすることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *PGM, *SQLPKG, *SRVPGM	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

権限が借用されるユーザー・プロファイルの名前。

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクトのタイプ。

***ALL** ユーザー・プロファイルプロンプト(USRPRFパラメーター) に指定されたユーザー・プロファイル
を借用するすべてのオブジェクトが示されます。

***PGM** 指定されたユーザー・プロファイルを借用するプログラムだけが示されます。

***SQLPKG**

指定されたユーザー・プロファイルを借用する構造化照会言語(SQL)パッケージだけが示されま
す。

***SRVPGM**

指定されたユーザー・プロファイルを借用するサービス・プログラムだけが表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷
するかを指定します。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのプール出力で
印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイル
に送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリー。ファイルが存在していない
場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが
作成される場合には、ファイルに対する共通認可は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成
権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示
(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラ
リーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリー(QSYS)中の様式名QSYPGMADをもつシステム・ファイルQADPGMADがモデルとして使用されます。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

指定できる名前の値は次の通りです。

要素1:出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバー。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

要素2:メンバーで実行する操作

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPPGMADPの例

```
DSPPGMADP  USRPRF(ABC)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルABCの特殊権限および専用認可を借用するオブジェクトのすべてを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPPGMADP

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

プログラム参照表示 (DSPPGMREF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドは、指定したプログラムによって参照されるシステム・オブジェクトのリストを提供します。次のリストは、それぞれのプログラム・タイプごとに提供されるシステム・オブジェクトを示したものです。

BASIC

*FILE (外部記述) および*PGM

C ILE C言語プログラム(CLE)を除いてC言語プログラムの情報は提供されません

CBLLLE

*FILE, *PGM, および*SRVPGM

CL *FILE, *PGM, および*DTAARA

CLE *SRVPGM

CLLE *FILE, *PGM, *DTAARA, および*SRVPGM

COBOL

*FILE および*PGM (CALLコマンドのリテラル名)

CSP *FILE, *PGM, *MSGF, *CSPMAP, および*CSPTBL

PASCAL

PASCALプログラムの情報は提供されません

PL/I *FILE および*PGM

RPG *FILE, *DTAARA, および*PGM

RPGLE

*FILE, *PGM, *DTAARA, および*SRVPGM

この情報は、表示、印刷、またはデータベース出力ファイルに入れることができます。

この情報を表示または印刷すると、各プログラムによって参照されるオブジェクトとともに、指定されたユーザー認可プログラムのリスト（ライブラリー別）が作成されます。ファイルの場合には、各ファイルの使用状況（入力、出力、更新、無指定、またはこれら4つの組み合わせ）についての情報も表示または印刷されます。

この情報をデータベース・ファイルに書き出すと、データベース・ファイルはQWHDRPPRという名前のレコード様式となります。レコード様式QWHDRPPRのフィールドは、ライブラリーQSYSのファイルQADSPPGMにあるIBM提供様式QWHDRPPRのフィールドと同じです。データベース・ファイルには、次の情報が入ります。

- プログラムの名前およびそのテキスト記述
- プログラムが入っているライブラリーの名前
- プログラムによって参照されるオブジェクトの数

- システム・オブジェクトの修飾名
- 情報検索日付
- 参照オブジェクトのオブジェクト・タイプ

ファイルの場合には、次の追加のフィールドがレコードに入ります。

- プログラム中のファイルの名前（プログラム作成時に上書きが有効となっていた場合には、システム・オブジェクト名と異なる可能性があります）
- ファイルのプログラム使用状況(1=入力, 2=出力, 4=更新, 8=無指定, またはこれら4つの組み合わせを表す数。たとえば、コード11は1, 2, および8の組み合わせであり、入力, 出力, 無指定となります)
- 参照されるレコード様式の数（存在する場合）
- ファイルによって使用されるレコード様式の名前およびそのレコード様式レベル識別コード
- 各様式で参照されるフィールドの数

注: このコマンドは、UPDPGMまたはUPDSRVPGMを使用してオブジェクトを作成または更新する時に参照されるオブジェクトをリストします。この情報はプログラム作成時に保管されるために、参照オブジェクト名およびリストされるライブラリーがそのオブジェクトの実際の名前と異なる場合があります。項目の追加は、UPDPGMまたはUPDSRVPGMを使用してILEプログラムまたはサービス・プログラムを更新する時に実行できますが、項目を除去することはできません。プログラムが作成されてからオブジェクトが移動された場合、あるいは作成時に上書きが有効となっていた場合には、リストされる名前が実際の名前と異なる場合があります。

制約事項:

1. ユーザーはプログラムに対するオブジェクト操作権を持っていない限りなりません。
2. また、ライブラリー修飾子によって指定されたライブラリーについては、ユーザーが読み取り権限を持つライブラリー中のプログラムだけが検索されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *PGM, *SQLPKG, *SRVPGM, *MODULE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

トップ

プログラム (PGM)

その情報が表示されるプログラムの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

プログラム名として指定できる値は次の通りです。

プログラム名

プログラムの完全な名前を指定してください。指定したプログラムの情報だけが表示されます。

総称*プログラム名

総称プログラム名を指定してください。指定された文字で始まる名前のすべてのプログラムの情報が表示されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリーの中のすべてのプログラムの情報が表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXX    QUSRIJS    QUSRVXRXMX
```

QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA
QMQMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) に指定されたデータベース出力ファイルに送られます。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

情報が表示されるオブジェクト・タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***PGM** プログラム情報だけが表示されます。

***ALL** プログラム情報およびSQLパッケージ情報が表示されます。

*SQLPKG

SQLパッケージ情報だけが表示されます。

***SRVPGM**

サービス・プログラム情報が表示されます。

***MODULE**

モジュール情報が表示されます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドは、指定したライブラリーの中にデータベース出力ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 出力ファイル形式はシステム・ファイルQADSPPGMのQWHDRPPRと同じでなければなりません。

OUTFILE形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報の資料に示されています。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。そのファイルにメンバーが存在しない場合には、システムは、**出力を受け取るファイルプロンプト** (OUTFILEパラメーター) に指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。この名前前のメンバーが存在していない場合には、システムが作成します。

情報の保管方法について指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードが出力データで置き換えられます。

***ADD** 指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードの終わりに、出力データが追加されます。

DSPPGMREFの例

例1:プログラムのリストの保管

```
DSPPGMREF PGM(LIBRARY1/*ALL) OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(LIB2/FILE2)
```

このコマンドは、LIBRARY1で見つかったすべての許可プログラムと、そのプログラムが参照するファイルおよびその他のシステム・オブジェクトのリストを作成します。ここでは、リストがLIB2のFILE2という名前のデータベース・ファイルに保管されます。

例2:オブジェクトのリストの印刷

```
DSPPGMREF PGM(LIBRARY1/BILLING) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、LIBRARY1のBILLINGプログラムによって参照されるシステム・オブジェクトのリストを作成します。出力は印刷のためにスプールされます。

エラー・メッセージ： DSPPGMREF

*ESCAPE メッセージ

CPF3033

ライブラリー&2でオブジェクト&1が見つからない。

CPF3034

ライブラリー&2のオブジェクト&1を表示することができない。

CPF3052

ファイル&1の記述が使用できない。

CPF3061

出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

CPF3063

&2の出力ファイル&1は物理ファイルではない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3066

&2の出力ファイル&1の作成中にエラー。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3070

ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。

CPF3072

&2のファイル&1はシステム・ファイルである。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3075

ライブラリー&1が使用できない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF3084

ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

[トップ](#)

プログラム変数表示 (DSPPGMVAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム変数表示(DSPPGMVAR)コマンドは、デバッグ中のプログラムの1つまたは複数のプログラム変数の現在の値を表示します。変数は、変数名または機械語命令のオブジェクト定義テーブル・ベクトル(MI ODV)番号によって指定することができます。最大10個の変数を指定することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムの変数を表示することはできません。
- ユーザーに*SERVICE特殊権限がない場合には、このコマンドを使用して、システム・ドメイン内の変数を表示することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGMVAR	プログラム変数	値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: プログラム変数	文字値, *CHAR	
	要素 2: 基底ポインター変数	値 (最大 5 回の繰り返し): 文字値	
OUTFMT	出力形式	*CHAR, *HEX	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
PGM	プログラム	名前, <u>DFTPGM</u>	オプション
START	文字出力開始位置	整数, <u>1</u>	オプション, 定位置 2
LEN	表示する文字数	整数, <u>DCL</u>	オプション
RCRLVL	反復レベル	整数, <u>LAST</u>	オプション

[トップ](#)

プログラム変数 (PGMVAR)

値を表示する最大10個までのプログラム変数の名前を指定します。その変数は、高水準言語(HLL)または機械語命令(MI)プログラムに入れることができます。

これは必須パラメーターです。

*CHAR

基底ポインタを指定した場合には、この特殊値を変数名の代わりに指定することができます。これは基底付変数を使用せずに示されるポインタの文字ビューを示します。

プログラム変数

表示する最大10個までのプログラム変数の名前を指定してください。特殊文字が入っている場合には、名前をアポストロフィで囲まなければなりません。

プログラム変数が配列の場合には、配列中の要素を表す添え字を指定することができます。添え字なしで配列名を指定した場合には、すべての配列要素が記録されます。また、単次元クロスセクションも指定することができます。このプログラム変数項目には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、ブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、マシン・インターフェースのオブジェクト定義テーブル・ベクトル(MI ODV)番号、アスタリスク（単次元クロスセクション）、または数値変数名を指定することができます。

基底ポインタ

基底ポインタ名を指定してください。一部の言語では、プログラム変数はポインタ変数を基礎とすることができます。このような値の組み合わせを用いることにより、記録する変数の基底ポインタを明示的に指定することができます。特殊文字を含む基底ポインタ名の場合には、各基底ポインタ名はアポストロフィで囲まなければなりません。

基底ポインタが配列である場合には、配列内の要素を示す添え字を指定しなければなりません。基底ポインタ名には、最大132文字を指定することができます。これには、修飾子、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマが含まれます。ただし、特殊文字が含まれている場合の両端のアポストロフィは、この文字数には含まれません。添え字には、整数、MI ODV番号、または数値変数名を指定することができます。

トップ

出力形式 (OUTFMT)

プログラム変数の値をどの形式で表示するかを指定します。変数のタイプによっては、変数値のほかに、補足の記述情報が、システムによってあらかじめ定められている形式で表示されることがあります。

*CHAR

プログラム変数は文字形式で表示されます。

*HEX

プログラム変数16進数形式で表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

プログラム (PGM)

表示するプログラム変数の入っているプログラムの名前を指定します。

***DFTPGM**

表示する変数は、前に省略時のプログラムとして指定されているプログラムに入っています。

プログラム名

表示したいプログラム変数の入っているプログラムの名前を指定してください。

トップ

文字出力開始位置 (START)

文字列変数の場合にだけ、変数の値が表示されている文字列の開始位置を指定します。**プログラム変数 (PGMVAR)**パラメーターに複数の文字列変数を指定した場合には、それぞれに同じ開始位置の値が使用されます。ビット・文字列の場合には、値は開始ビット位置を指定し、文字文字列の場合には、値は開始文字位置を指定します。

1 変数は、最初の桁から**表示する文字数 (LEN)**パラメーターに指定された長さまで表示されます。

開始桁 表示されている文字列の最初の桁を指定してください。**文字出力開始位置 (START)**パラメーターに指定する値は、指定した変数のどれかの最大文字列長を超えるものではありません。ただし、文字列の最大長がゼロである場合には、STARTパラメーターに**1**の値を指定することができます。LENパラメーターに指定した値にSTARTパラメーターに指定した値を加え、それから1を引いた値が、最大文字列長を超えてはなりません。これらの検査は、PGMVARパラメーターに指定した各文字列変数について行われます。

トップ

表示する文字数 (LEN)

文字列変数の場合にだけ、停止点に達した時に、**文字出力開始位置 (START)**パラメーターによって指定された位置から順に示される文字列の長さを指定します。**プログラム変数 (PGMVAR)**パラメーターに複数の文字列変数を指定した場合には、それぞれに同じ値が使用されます。この値は、ビット・文字列の場合には表示されるビット数を示し、文字文字列の場合には表示される文字数を示します。

***DCL** 文字列変数は、文字列の終わりまであるいは200バイトのいずれか少ない方の文字数分だけ表示されます。文字列変数の最大長がゼロである場合には、LENパラメーターに使用できる唯一の値は*DCLです。

表示桁数

表示されるデータの長さを指定してください。STARTパラメーターおよびLENパラメーターの値の組み合わせの場合と同様に、この桁数も、PGMVARパラメーターによって指定された最も短い文字列の桁数を超えるものではありません。

トップ

反復レベル (RCRLVL)

値を表示したい変数が、どの反復レベルのプログラムに入っているかを指定します。反復レベル1はプログラムの最初の（最も早い）呼び出しであり、反復レベル2 はプログラムの2番目の呼び出しです。同様に、スタック内の最後の（最新の）反復レベルまで番号が付けられます。たとえば、プログラムAがプログラムBを呼び出し、プログラムBが再びプログラムAを呼び出すとすれば、プログラムAの新しい反復レベルが形成されます。表示したい変数がプログラムAの最初の呼び出しに含まれているのであれば、**反復レベル (RCRLVL)**パラメーターには1の値を指定しなければなりません。高水準言語によっては、再帰的プロシージャが使用できるものもあります。

***LAST** 指定したプログラムの最後の（最新の）呼び出しでの、指定した変数の値が表示されます。

反復レベル番号

値を表示したい変数の入っているプログラムの反復レベルを指定してください。

[トップ](#)

DSPPGMVARの例

例1:プログラム変数の表示

```
DSPPGMVAR PGMVAR('&QUANT') PGM(MYPROG)
```

プログラムMYPROGがデバッグ・モードにあるとすると、このコマンドは、&QUANTと呼ばれるCL変数の名前と現行値を表示します。そのタイプおよび長さも表示されます。

例2:プログラム変数の表示

```
DSPPGMVAR PGMVAR(TOTSALES MANHRS) PGM(REGION) RCRLVL(1)
```

このコマンドは、プログラムREGIONの最初の呼び出しのプログラム変数TOTSALESおよびMANHRSを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPPGMVAR

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

問題の表示 (DSPPRB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

問題表示(DSPPRB)コマンドによって、ハードウェアまたはソフトウェアのメンテナンスの実行に関連した保守情報を表示または印刷することができます。問題ログ項目に入っている保守情報はDSPPRB表示画面に表示するか、ジョブの出力と一緒に印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに記憶します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRBID	問題識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
STATUS	状況タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 6 回の繰り返し): *OPENED, *READY, *PREPARED, *SENT, *ANSWERED, *VERIFIED, *CLOSED	オプション
SEV	重大度	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 1, 2, 3, 4	オプション
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u> , *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*END</u> , *CURRENT	
HARDWARE	ハードウェア	要素リスト	オプション
	要素 1: 装置タイプ	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 型式番号	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 3: 製造番号	文字値, <u>*ALL</u>	
RESOURCE	資源名	名前, <u>*ALL</u>	オプション
LICPGM	プロダクト	要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: リリース	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 3: モディフィケーション・レベル	文字値, <u>*ALL</u>	
FUNCTION	機能	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
PGM	プログラム	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
MSGID	メッセージ識別コード	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ORIGIN	起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *ALL , *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, *ALL , *NETATR	
SRVID	サービス番号	文字値, *ALL	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	単純名, *ALL	オプション
GROUP	グループ割り当て	文字値, *ALL	オプション
PRBTYPE	問題タイプ	*ALL , 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション
PRBCGY	問題カテゴリー	*ALL , *REPORT, *CRITICAL, *LOGONLY	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
TYPE	情報のタイプ	*BASIC , *CAUSE, *FIX, *USRTXT, *SPTDTA	オプション

トップ

問題識別コード (PRBID)

選択される問題の ID を指定します。異なる起点システムをもつ問題が同じ識別コードをもつ場合があります。このパラメーターと一緒に**起点 (ORIGIN)**パラメーターを指定すると、1つの問題だけが選択されるものとみなされます。

***ALL** 他の選択基準に一致するすべての問題が選択されます。

問題ID 選択される問題の10文字の問題識別コードを指定してください。

トップ

状況タイプ (STATUS)

問題ログ項目の状況を指定します。次の7つのタイプの状況があります。

*OPENED

問題はオープンされた状況になっています。問題が識別されていて、問題レコードは作成されました。

*READY

問題は送信可能状況になっています。問題分析情報が問題レコードに追加されました。

*PREPARED

問題は準備完了状況になっています。問題を報告する準備が完了しました。

***SENT**

問題は送信状況になっています。問題がサービス提供元に送信されましたが、返答が戻ってきません。

***ANSWERED**

問題が回答状況になっています。サービス提供元によって返答が戻されたか、システムの操作員によって追加されました。

***VERIFIED**

問題が検査状況になっています。問題は解決し、システム操作員はプログラムが正しいことを検査しました。

***CLOSED**

問題がクローズされました。

***ALL** 問題ログ項目のすべてのタイプの状況が表示されます。

状況タイプ

表示する状況のタイプを指定してください。

[トップ](#)

重大度 (SEV)

問題の重大度レベルを指定します。重大度レベルは、問題の報告準備がととのった時に、ユーザーによって割り当てられます。次の4つの重大度レベルがあります。

- 1 高
- 2 中
- 3 低
- 4 なし

***ALL** すべての問題ログ項目が表示されます。

重大度 表示する問題ログ項目の重大度のレベルを指定してください。

[トップ](#)

期間 (PERIOD)

問題データが選択される時間を指定します。日付および時刻は、問題ログ項目がいつ作成されたかを示します。

指定できる**開始時刻**の値は、次の通りです。

***AVAIL**

指定した開始日に作成された問題項目が表示されます。

開始時刻

組み込む最初のデータ・レコードの作成時刻（指定した日付の）を指定してください。

この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のstring (HHMMまたはHHMMSS) を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁としなければなりません (必要な場合には、先行ゼロを使用してください)。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のstringを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、stringをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

指定できる**開始日付**の値は、次の通りです。

***BEGIN**

ログの始めの使用可能な問題が表示されます。*BEGINを指定した場合には、開始時刻として*AVAIL以外の時刻の値は無視されます。

***CURRENT**

現在日の指定した開始時刻から終了時刻 (指定した場合) までに作成された問題ログ項目が表示されます。

開始日 問題ログ項目を表示することができるようになる日付を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

指定できる**終了時刻**の値は、次の通りです。

***AVAIL**

指定した終了日に作成された問題ログ項目が表示されます。

終了時刻

作成された問題ログ項目が表示されなくなる時刻を指定してください。時刻の指定方法の詳細については、このパラメーターの説明の中の開始時刻の項を参照してください。

可能な**終了日**の値は、次の通りです。

***END** 問題ログ項目が作成された最後の日が、問題ログ項目が表示される最後の日となります。*ENDを指定した場合には、終了時刻の*AVAIL以外の値は無視されます。

***CURRENT**

表示する最後に提示された問題の日付として現在の日付が使用されます。

終了日 その後に問題ログ項目を表示できない日付を指定してください。日付の指定方法の詳細については、このパラメーターの開始日の説明を参照してください。

トップ

ハードウェア (HARDWARE)

指定された障害のあるハードウェアを識別する問題ログ項目だけが表示されることを指定します。

指定できる**機種値**は、次の通りです。

***ALL** どのハードウェアが障害として識別されたかに関係なく、すべての項目が表示されます。

注: *ALLを指定した場合には、モデルおよび製造番号の*ALL以外の値はすべて無視されます。

タイプ ハードウェアの4文字のタイプ・コードを指定してください。

指定できる**型式番号値**は、次の通りです。

***ALL** 指定したタイプの障害のあるハードウェアを識別するすべての項目が表示されます。

注: *ALLを指定した場合には、製造番号の*ALL以外の値は無視されます。

型式 ハードウェアの3文字の型式番号を指定してください。

指定できる**製造番号値**は、次の通りです。

***ALL** 指定した機種型式の障害のあるハードウェアを識別するすべての項目が表示されます。

製造番号

Nが0から9の範囲の10進文字である次の形式の1つで、ハードウェアの製造番号を指定してください。

- NNNNN
- NNNNNNN
- NN-NNNNN
- NN-NNNNNNN

[トップ](#)

資源名 (RESOURCE)

指定された障害のある資源名を識別する問題ログ項目だけを表示することを指定します。

***ALL** 問題によって識別される資源名（ある場合）に関係なく、すべての項目が表示されます。

資源名 資源名を指定してください。

[トップ](#)

プロダクト (LICPGM)

指定した障害のあるソフトウェアを識別する問題ログ項目が表示されることを指定します。

指定できる**プログラムID**の値は、次の通りです。

***ALL** ソフトウェアの障害が識別されるかどうかに関係なく、すべての項目が表示されます。

注: *ALLを指定した場合には、リリースおよびモディフィケーションの*ALL以外の値は無視されます。

プログラムID

ライセンス・プログラムの識別番号を指定してください。

指定できる**リリース値**は、次の通りです。

***ALL** 指定されたライセンス・プログラムから障害のあるソフトウェアを識別するすべての項目が表示されます。

注: *ALLを指定した場合には、モディフィケーションの*ALL以外の値は無視されます。

リリース・レベル

ライセンス・プログラムのリリース・レベルを指定してください。

指定できる**モディフィケーション値**は、次の通りです。

***ALL** 指定されたライセンス・プログラムおよびリリースから障害のあるソフトウェアを識別するすべての項目が表示されます。

モディフィケーション

リリースのモディフィケーション番号を指定してください。

[トップ](#)

機能 (FUNCTION)

指定した機能を識別する問題ログ項目だけが表示されることを指定します。機能は、ユーザー検出の問題ログ項目だけに入れられ、主要な機能域またはプロダクトを示します。

***ALL** 識別される機能ID（ある場合）に関係なく、すべての項目が表示されます。

総称*機能ID

総称機能IDを指定してください。総称IDは、機能IDの先頭部分の1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。途中に空白が入っている場合には、文字ストリングをアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

機能ID

機能ID全体を指定してください。途中に空白が入っている場合には、文字ストリングをアポストロフィ(')で囲まなければなりません。

機能IDに可能な値は次の通りです。

ID	説明
ALRT	警報
APF	拡張印刷機能
APPC	拡張プログラム間通信機能
APPN	拡張分散ネットワーク機能
APS	多機能印刷サポート・ユーティリティー
ASYNC	非同期通信
BAS	AS/400 BASIC
BGU	AS/400ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー(BGU)
BSC	2進データ同期通信
CBL	AS/400 COBOLおよびCOBOL/400
CGU	文字作成ユーティリティー
CL	制御言語
CRYPT	暗号サポート/400
CSM	通信およびシステム管理機能
C400	C/400
DDM	分散データ管理機能(DDM)

DFU データ・ファイル・ユーティリティー
DHCF 分散ホスト・コマンド機能
DICT 言語辞書/400
DSNX 分散システム・ノード管理機能
ECS エレクトロニック支援
FINANCE
金融機関用通信
FTN FORTRAN/400
FTS ファイル転送サポート
GDDM
グラフィック・データ表示管理プログラム
ICF システム間通信機能
IDU 対話式データ定義ユーティリティー(IDDU)
INTRA
システム内通信
IPDS 高機能印刷装置データ・ストリーム
ITF 端末対話機能
LPDA リンク問題判別および分析
MIA MIアSEMBラー
MIGR 移行
OBJD オブジェクト配布
OCL S/36操作員制御言語(OCL)
OFC OFFICEVISION FOR AS/400
OSP OPERATING SYSTEM/400
PAS AS/400 PASCAL
PASSTHRU
パススルー
PC400
CLIENT ACCESS/400
PDM プログラム開発管理機能
PL1 AS/400 PL/I
POSCOM
POS通信ユーティリティー/400
QRY QUERY/400
RETAIL
小売業通信
REXX REXX/400

RJE リモート・ジョブ入力
RLU 報告書設計ユーティリティー
RPFT パフォーマンス測定ツール/400
RPG RPG/400
RSCS リモート・スプール通信サブシステム
RWS リモート・ワークステーション
SDA 画面設計機能
SDLC 同期データ・リンク制御
SEU ソース・ステートメント入力ユーティリティー
SMU SYSTEMVIEW SYSTEM MANAGER/400
SNADS
SNA配布サービス
SNUF SNAアップライン機能
SORT AS/400分類
SQL SQL/400
SUU システム拡張ユーティリティー
TCPIP TCP/IP通信ユーティリティー/400
TRLAN
トークンリング・ネットワーク
TXT38 システム/38互換テキスト管理機能
VMC 垂直ライセンス内部コード
VNET RSCS/PROFS
WRD ワード処理
X21 X.21公衆データ・ネットワーク
X25 X.25パケット交換データ・ネットワーク
3270EM
3270装置エミュレーション
802.3 イーサネット

[トップ](#)

プログラム (PGM)

指定した障害のあるプログラムを識別する問題ログ項目だけが表示されるかどうかを指定します。機械が検出した問題の場合には、障害のあるプログラムがあれば、最も考えられる原因によって識別されます。

***ALL** プログラムが識別されるかどうかに関係なく、すべての項目が表示されます。

総称 * プログラム名

総称プログラム名を指定してください。総称名はアスタリスク（*）が後に続く1つまたは複数の文字を含む文字ストリングです。

プログラム名

プログラム名を指定してください。

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

指定したメッセージを識別する問題ログ項目だけが表示されるかどうかを指定します。

***ALL** どのメッセージIDが問題と関連したかに関係なく、すべての項目が表示されます。

総称 * MSG-ID

総称メッセージ識別コード（ID）を指定してください。総称IDはアスタリスク（*）が後に続く1つまたは複数の文字を含む文字ストリングです。

メッセージ識別コード

メッセージ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

起点 (ORIGIN)

指定したシステムを起点とする問題ログ項目だけが表示されることを指定します。

可能なネットワークID値は、次の通りです。

***ALL** 起点システムのネットワークIDと関係なく、すべての項目が表示されます。

*NETATR

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル・ネットワークIDのシステムで始まっている項目だけが表示されます。

ネットワークID

ネットワークIDを指定してください。このローカル・ネットワークIDのシステムで始まっている項目だけが表示されます。

可能な制御点名の値は次の通りです。

***ALL** 指定されたネットワークIDのシステムで始まるすべての項目が表示されます。

*NETATR

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル制御点名のシステムで始まっている項目だけが表示されます。

制御点名

制御点名を指定してください。

[トップ](#)

サービス番号 (SRVID)

指定された保守割り当て番号をもつ問題ログ項目だけを表示するかどうかを指定します。この番号は、問題が弊社保守サポートに報告された時に割り当てられます。

***ALL** 保守割り当て番号に関係なくすべての項目が表示されます（それがあった場合）。

保守割り当て番号

保守割り当て番号を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー割り当て (ASNUSER)

このユーザーに割り当てられた問題ログ項目だけを表示するかどうかを指定します。

***ALL** すべての問題ログ項目が表示されます。

ユーザー名

表示される問題に割り当てられたユーザーIDを指定してください。

[トップ](#)

グループ割り当て (GROUP)

問題が割り当てられるフィルター中のグループを指定します。

***ALL** すべての問題ログ項目が、それらに割り当てられるグループに関係なく、表示されます。

グループ名

項目に割り当てられる10文字の問題フィルター・グループを指定してください。

注: 問題ログ・フィルターを使用しない場合には、値はブランクです。

[トップ](#)

問題タイプ (PRBTYPE)

表示する問題のタイプを指定します。

***ALL** 問題タイプに関係なくすべての問題ログ項目が表示されます。

- 1 機械検出の問題だけが表示されます。
- 2 ユーザー検出の問題だけが表示されます。
- 3 PTF発注の問題だけが表示されます。
- 4 アプリケーション検出の問題だけが表示されます。
- 5 クライアント機械検出の問題だけが表示されます。
- 6 クライアント・ユーザー検出の問題だけが表示されます。

[トップ](#)

問題カテゴリー(PRBCGY)

表示する問題のカテゴリーを指定します。

***ALL** すべての問題が表示されます。

***REPORT**

ログされ、サービス提供元に報告される問題が表示されます。

***CRITICAL**

重要な問題が表示されます。

***LOGONLY**

ログされたが、サービス提供元に報告されなかった問題が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、**DSPPRB**の**OUTFILE**とテキストに示され、特定権限、グループ権限、または権限リストからの権限をもつユーザー以外のユーザーの権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(**DSPLIBD**)コマンドを使用してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定し、そのメンバーに対する出力が既存のレコードを置き換えるか、あるいは既存のレコードに追加されるかどうかを指定します。

新しいレコードの追加の可能な方法は、次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。**OUTMBR(*FIRST)**を指定した時に、メンバーが存在していない場合には、システムは、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。メンバー名が指定されたが、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

オプションの値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

注: **OUTFILE**および**OUTMBR**キーワードは、**OUTPUT(*OUTFILE)**によって決まります。

OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、データベース・ファイル名が必要となります。

トップ

情報のタイプ (TYPE)

出力ファイルに入れられた問題情報のタイプを指定します。各ファイルには1つのタイプのデータしか入れることはできません。このパラメーターは、**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターにも値を指定した時にだけ有効です。

***BASIC**

問題タイプ、状況（装置タイプ、型式、および通し番号）、プロダクトID、連絡先情報、および追跡データを含めた基本問題データは出力ファイルに入れられます。

***CAUSE**

問題の考えられる原因が出力ファイルに入れられます。

***FIX** プログラム一時修正(PTF)が出力ファイルに入れられます。

***USRTXT**

ユーザー提供のテキスト（メモ・レコード）は出力ファイルに入っています。

*SPTDTA

サポートするデータの識別コードが出力ファイルに入れられます。

[トップ](#)

DSPPRBの例

例1:当日の問題ログ項目の表示

```
DSPPRB PERIOD>(*AVAIL *CURRENT) (*AVAIL *CURRENT))
```

このコマンドは、当日作成された問題ログ項目をすべて表示します。

例2:出力ファイルの作成

```
DSPPRB OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(*CURLIB/NEWFILE)
```

このコマンドは、問題ログ中の問題ログ項目ごとのレコードが入るメンバーを、現行ライブラリー内の物理ファイルNEWFILE中に作成します。

例3:ハードウェア障害のリストの表示

```
DSPPRB SEV(1 2) HARDWARE(9347 001 10-7523489)
```

このコマンドは、ユーザーが指定したハードウェアによる問題が含まれているリストを表示します。ユーザーは、コマンドで中から高レベルの重大度を追跡することを指定しています。

例4:未解決問題のリストの表示

```
DSPPRB STATUS(*OPENED)
        PERIOD((*AVAIL *CURRENT) (120000 *CURRENT))
        LICPGM(5716SS1 03 00) PGM(QNOPGM)
```

このコマンドは、現在日の真夜中から始まり、正午で終わる期間中にオープンされて、まだ分析済みではない問題が含まれているリストを表示します。また、このコマンドは、指定されたライセンス・プログラム識別コードおよびプログラム名を障害の推定原因として識別します。

例5:マシン検出問題のリストの表示

```
DSPPRB RESOURCE(TAP01) MSGID(CPF6788)
```

このコマンドは、システム・オペレーターのメッセージ待ち行列に送信済みのメッセージ(CPF6788)が原因でオープンされたマシン検出の問題が含まれているリストを表示します。この問題リストには、ユーザー検出の問題が含まれます。ユーザー検出の問題を表示するには、ユーザーは問題分析(ANZPRB)コマンドを使用して資源名およびメッセージ識別コードを指定しました。

例6:報告された問題のリストの表示

```
DSPPRB SRVID(12345)
```

このコマンドは、IBMサービス・サポート・センターに報告済みであり、保守識別コードとして12345をもつ問題が含まれているリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPPRB

*ESCAPE メッセージ

CPF7A9C

この時点で、問題ログを処理することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

PSF構成の表示 (DSPPSF CFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PSF構成の表示 (DSPPSF CFG)コマンドは、印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定したライブラリーから表示します。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PSFCFG	PSF構成	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: PSF構成	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

トップ

PSF構成 (PSFCFG)

表示する印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: PSF構成

名前 表示するPSF構成オブジェクトの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ジョブ・ライブラリーを検索します。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションで表示されるか、それともジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブで要求された場合には出力が表示され、バッチ・ジョブで要求された場合にはジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPPSFCFGの例

DSPPSFCFG PSFCFG(PSFCFG1) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、PSFCFG1という名前の印刷サービス機能(PSF)構成オブジェクト(*PSFCFG)の記述を印刷します。ジョブのライブラリー・リスト内のライブラリーで、PSFCFG1構成オブジェクトが検索されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPPSFCFG

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

プログラム一時修正表示 (DSPPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正表示(DSPPTF)コマンドは、指定されたプロダクトのプログラム一時修正(PTF)を表示します。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
SELECT	選択するPTF番号	文字値, <u>*ALL</u> , *PTFAVF, *ONORDER, *ACTRQD	オプション, 位置 2
RLS	リリース	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
COVERONLY	カバー・レターのみ	<u>*NO</u> , *YES	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

トップ

プロダクト (LICPGM)

表示されるPTFのプロダクトを指定します。LICPGM(*ALL)が指定された場合には、導入されてサポートされるすべてのプロダクトのPTFが表示されます。

考えられる値は次の通りです。

*ALL 導入されてサポートされるすべてのプロダクトのPTFが表示されます。

ライセンス・プログラム

PTFが表示されるプロダクトを指定します。

選択するPTF番号 (SELECT)

指定したプロダクトについて表示されるPTFを指定します。PTF番号が**選択するPTF番号**プロンプト (SELECTパラメーター) に指定された場合には、**プロダクト**プロンプト(LICPGMパラメーター) に*ALLを指定することはできません。

LICPGM(*ALL)およびSELECT(*ALL)が指定された場合には、導入されてサポートされるすべてのプロダクトのすべてのPTFが表示されます。

LICPGM (ライセンス・プログラム) およびSELECT(*ALL)が指定された場合には、指定されたプロダクトのすべてのリリースのPTFが表示されます。考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定したプロダクトのすべてのPTFの状況が表示されます。

*PTFSAVF

指定したプロダクト用の、ライブラリーQGPLに保管ファイルが入っているすべてのPTFの状況が表示されます。この特殊値は、必要でないPTF保管ファイルを判別するのに有効です。これはまた、配布できるPTFを判別するサービス・プロバイダーにも有効です。

*ONORDER

指定したプロダクト用の、発注中のすべてのPTFの状況が表示されます。

*ACTRQD

保留中の必要な処置のあるPTFが表示されます。この特殊値は、活動状態にするための処置を必要としているPTFを判別する際に、ユーザーにとって有用です。

注: *ACTRQDを指定した場合には、出口プログラムの実行に長い時間がかかり、結果として最初の画面の表示が遅延することになります。

PTF番号

表示されるPTFのPTF識別番号を指定します。

リリース (RLS)

表示されるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** サポートおよび導入済みプロダクトのすべてのリリースのPTFが表示されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0-9の数字、変数Zは0-9の数字またはA-Zの文字とすることができます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの導入済み基本オプションのリリース・レベルである場合には、オプションのリリース・レベルとは無関係に、その製品のすべての導入済みオプションのPTFが表示されます。このリリース・レベルでサポートされるオプションのすべてのPTFも表示されます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの導入済み基本オプションのリリース・レベルでない場合には、そのリリース・レベルでサポートされるかまたは導入済みの製品オプションのPTFだけが表示されます。

[トップ](#)

カバー・レターのみ (COVERONLY)

カバー・レターのみを表示するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** カバー・レターは表示されません。

***YES** カバー・レターが表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。スパール出力ファイルの名前はQSYSPRTです。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

PTFレコードが送られる物理データベース・ファイルを指定します。出力ファイルがすでに存在している場合には、システムはそれを使用しようとします。システムは、指定されたライブラリー中に、物理データベース・ファイルを作成します（**OUTFILE**パラメーターに指定された名前で）。ファイルのメンバーは、**出力メンバー・オプション**プロンプト（**OUTMBR**パラメーター）に指定されている名前で作成されます。新しいファイルを作成する場合には、システム・ライブラリー（**QSYS**）中の様式名**QSCPTF**のシステム・ファイル**QADSPPTF**をモデルとして使用します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルを見つけるライブラリーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

ファイル名

PTFを受け取るファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。2番目の値は、既存のデータを新しいデータで置き換えるか、あるいはすでにファイル・メンバー中にあるデータの終わりに新しいデータを追加するかを指定します。

使用できるメンバー名の値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

メンバー名

出力を受け取るファイル中のメンバーの名前を指定してください。指定した名前のメンバーが存在しない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

使用できる配置の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPPTFの例

例1: PTFの状況の印刷

```
DSPPTF LICPGM(5722SS1) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、製品5722SS1のPTFの状況を含む印刷出力を作成します。

例2: 情報の印刷

```
DSPPTF LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00034) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、製品5722SS1のPTF SI00034についての詳細情報を含む印刷出力を作成します。

エラー・メッセージ： DSPPTF

*ESCAPEメッセージ

CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF24B4

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラー。

CPF35BE

プロダクト&1 &3がサポートされていないか、または導入されていない。

CPF35F5

PTF &1-&2 &3のカバー・レターが見つからなかった。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

CPF6601

プロダクト&1にはPTF活動が存在していない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

CPF6603

PTFが見つからなかった。

CPF6613

選択基準と一致するPTFがない。

CPF8191

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

CPF8193

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

PTFカバー・レターの表示 (DSPPTFCVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正カバー・レター表示(DSPPTFCVR)コマンドは、指定されたプロダクトのプログラム一時修正(PTF)のカバー・レターを表示します。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	オプション, 位置 1
SELECT	選択するPTF番号	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値, *NOTAPY , *ALL	オプション, 位置 2
RLS	リリース	文字値, *ALL	オプション
CVRATR	属性	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *SPCINST, *PREIMM, *PREDLY, *PREOPR, *POSTOPR, *UNKNOWN	オプション
CVRLRLNG	カバー・レター言語	文字値, *DFT , *ALL	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

カバー・レターが表示されるプロダクトを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての導入済みまたはサポートされるプロダクトのカバー・レターが表示されます。

ライセンス・プログラム

カバー・レターが表示されるプロダクトを指定します。

トップ

選択するPTF番号 (SELECT)

指定したプロダクトについて表示されるカバー・レターを指定します。

PTF番号が選択するPTF番号プロンプト（SELECTパラメーター）に指定された場合には、プロダクトプロンプト（LICPGMパラメーター）に*ALLを指定することはできません。

LICPGM(*ALL)およびSELECT(*ALL)が指定された場合には、すべての導入済みまたはサポートされるプロダクトのカバー・レターが表示されます。

LICPGM（ライセンス・プログラム）およびSELECT(*ALL)が指定された場合には、指定されたプロダクトのすべてのリリースのカバー・レターが表示されます。考えられる値は次の通りです。

***NOTAPY**

指定されたプロダクトのまだ適用されていないかまたは延期されたPTFのすべてのカバー・レターが表示されます。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのカバー・レターが表示されます。

PTF番号

表示されるカバー・レターのPTF識別番号を指定します。最大300個のPTF番号を指定することができます。

トップ

リリース (RLS)

表示されるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 導入済みまたはサポートされるプロダクトのすべてのリリースのカバー・レターが表示されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0-9の数字、変数Zは0-9の数字またはA-Zの文字とすることができます。

指定されたリリースがプロダクトの導入済み基本オプションのリリースである場合には、オプションのリリースとは無関係に、そのプロダクトのすべての導入済みオプションのカバー・レターが表示されます。このリリースでサポートされるオプションのすべてのカバー・レターも表示されます。

指定されたリリースがプロダクトの導入済み基本オプションのリリースでない場合には、そのリリースでサポートされるかまたは導入済みのプロダクト・オプションのカバー・レターだけが表示されます。

トップ

属性 (CVRATR)

カバー・レターに含まれている属性に基づいて表示するカバー・レターを指定します。

注: CVRATRパラメーターが指定できるのは、SELECT(*ALL)またはSELECT(*NOTAPY)と一緒にの場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべてのカバー・レターが表示されます。

***SPCINST**

特別な指示のあるカバー・レターだけが表示されます。

***PREIMM**

即時に適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

***PREDLY**

IPL（遅延）時に適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

***PREOPR**

（即時または遅延）適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

***POSTOPR**

適用または除去する前に従う必要のある特別な指示があるカバー・レターだけが表示されます。

***UNKNOWN**

カバー・レターに属性がある場合にシステムが検出できないカバー・レターを表示します。考えられる理由は、PTFカバー・レターがオペレーティング・システム・リリースV5R1M0より前に作成されたか、あるいはカバー・レターがシステム・マネージャー・ライセンス・プログラムを使用して作成された場合です。

[トップ](#)

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

カバー・レターを表示するために使用される言語機能コードを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***DFT** カバー・レターは省略時の言語機能コードで表示されます。PTFのカバー・レターが1つだけであった場合には、それが表示されます。PTFに複数のカバー・レターがあった場合には、以下の基準を使用して、表示するカバー・レターが決定されます。

保守サポート連絡先情報(WRKCNTINF)と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報と一致する言語機能コードがない場合には、オペレーティング・システムの1次言語と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報の言語機能コードまたはオペレーティング・システムの言語機能コードと一致するカバー・レターがない場合には、PTFのすべてのカバー・レターが表示されます。ユーザーに選択すべき言語機能コードのリストが表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはすべてのカバー・レターがジョブのスパール出力で表示されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***ALL** すべての言語の場合のカバー・レターが表示されます。

言語機能コード

選択された言語機能コードのカバー・レターが表示されます。選択された言語機能コードのカバー・レターが使用できない場合には、そのPTFのカバー・レターは表示されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションで表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。スパール出力ファイルの名前はQSYSPRTです。

[トップ](#)

DSPPTFCVRの例

例1: PTFカバー・レターの印刷

```
DSPPTFCVR LICPGM(5722SS1) SELECT(SI00034) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、製品5722SS1中のPTF SI00034のカバー・レターの印刷出力を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPPTFCVR

*ESCAPEメッセージ

CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF35BE

プロダクト&1 &3がサポートされていないか、または導入されていない。

CPF35D5

カバー・レターNLVが正しくない。

CPF35F5

PTF &1-&2 &3のカバー・レターが見つからなかった。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF6601

プロダクト&1にはPTF活動が存在していない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

CPF6603

PTFが見つからなかった。

[トップ](#)

電源オン/オフ・スケジュールの表示 (DSPPWRSCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

電源オン/オフ・スケジュール表示(DSPPWRSCD)コマンドによって、電源オン/オフ・スケジュールを表示または印刷することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* -, *PRINT	オプション、位置 1
STRDATE	開始日付	日付, * TODAY	オプション
DAYS	日数	1-366, 40	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

開始日付 (STRDATE)

電源オン/オフ・スケジュールで表示または印刷する最初の日付を指定します。

*TODAY

現在の日付が使用されます。

日付 将来の日付または現行日付を指定してください。日付の入力は、ジョブ属性で指定した形式と同じ形式で行なわなければなりません。

[トップ](#)

日数 (DAYS)

電源オン/オフ・スケジュールが印刷される日数を指定します。

40 40日のスケジュールが印刷されます。

1-366 日数を指定してください。

[トップ](#)

DSPPWRSCDの例

例1:電源オン/オフ・スケジュールの表示

DSPPWRSCD

このコマンドは、電源オン/オフ・スケジュールを表示します。

例2:30日間の電源オン/オフ・スケジュールの印刷

DSPPWRSCD OUTPUT(*PRINT) DAYS(30)

このコマンドは、現在日付で始まる30日間の電源オン/オフ・スケジュールを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPPWRSCD

***ESCAPEメッセージ**

CPF1E2B

電源スケジューラーおよび終結処置オプションが見つからない。

CPF1E23

電源スケジュールまたは終結処置オプションは別のユーザーが使用中である。

CPF1E27

電源オン/オフ・スケジュールの変更は認可されていない。

CPF1E28

指定したSTRDATEでスケジュールを印刷することはできない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

レコード・ロック表示 (DSPRCDLCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

レコード・ロック表示(DSPRCDLCK)コマンドによって、特定のデータベース物理ファイル・メンバーの現行レコードのロック状況を表示することができます。このコマンドは、特定の相対レコード番号のロック状況、あるいはメンバー中でロックされたすべてのレコードのロック状況を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 2
RCDNBR	レコード番号	1-4294967288, *ALL	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

物理ファイル (FILE)

レコード・ロックが表示されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

ファイル内においてレコード・ロックが表示されるメンバーの名前を指定します。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

レコード番号 (RCDNBR)

特定の相対レコード番号、またはメンバーのすべてのレコードを指定します。

***ALL** 物理ファイル・メンバー内で現在ロックされているすべてのレコードのロック状況が表示されます。

1-4294967288

ロック状況が表示されるレコードのレコード番号を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPRCDLCKの例

```
DSPRCDLCK FILE(MASTER/PAYROLL) MBR(*FIRST) RCDNBR(1)
           OUTPUT(*)
```

このコマンドは、MASTERライブラリーにあるPAYROLLという名前の物理ファイル中の最初のメンバーの相対レコード番号1のロック状況を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPRCDLCK

*ESCAPEメッセージ

CPF3130

メンバー&2はすでに使用中である。

CPF3210

ライブラリー&2のファイル&1のタイプが正しくない。

CPF3247

レコード番号&4はメンバー&3に存在しない。

CPF3275

&2のファイル&1のメンバー&3が見つからない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

アクセス・パスの回復の表示 (DSPRCYAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス回復表示(DSPRCYAP)コマンドは、システムおよび現在活動状態かまたはシステム上で使用可能な状態にあるすべての補助記憶域プール(ASP)のアクセス・パス回復状況および目標アクセス・パス回復時間を表示または印刷するために使用されます。さらに、この出力には、システム管理アクセス・パス保護の対象とならない最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスと、それらが対象とならない理由が含まれます。また、この出力には、現在システム管理アクセス・パス保護によって保護されている最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスが含まれます。

システム異常終了後の初期プログラム・ロード(IPL)中または独立ASPのオンへの変更中にアクセス・パスを回復する場合には、システムは指定された目標アクセス・パス回復時間より多くを使用することはありません。アクセス・パス回復時間が目標であるために、パフォーマンスはその目標に近い範囲となります。

ファイル・コピー(CPYF)、物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)、またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドの実行時に表示されるアクセス・パスを再作成するための時間は、このコマンドを使用して保護されるアクセス・パスの目標アクセス・パス回復時間には含まれません。

このコマンドの使用法の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))の「ジャーナル管理」に関する部分を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 1
ASP	ASP装置	文字値, *ALL, *ASPGRP	オプション
ASPGRP	ASPグループ	名前	オプション

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。バッチ・ジョブで要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。QSYSのファイルQSYSPRTが印刷出力に使用されます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASP)

表示されるアクセス・パスが入っているASPを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(*PRINT)が選択されている場合だけです。

***ALL** 要求される出力は、活動状態または使用可能なすべてのASPの上位500のアクセス・パスとなります。

*ASPGRP

要求される出力は、入力ASPグループの上位500のアクセス・パスとなります。

ASP識別コード

上位500のアクセス・パスをリストする基本ユーザーASPのIDを指定するために、1-32の範囲内の値を指定してください。あるいは、上位500のアクセス・パスをリストする独立ユーザーASPのASP装置名を指定してください。有効な値は、システム上で活動状態にあるかまたは使用可能なASPによって異なります。

注: 値1はシステムASPです。値2-32はすべての基本ユーザーASPを示します。独立ASPは装置名として入力されます。

[トップ](#)

ASPグループ (ASPGRP)

表示されるアクセス・パスが入っているASPグループを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(*PRINT)およびASP(*ASPGRP)が指定されている場合だけです。

ASPグループ名

上位500のアクセス・パスをリストする補助記憶域プール(ASP)グループの名前を指定します。ASPグループ名は、ASPグループ内の主要な独立ASP装置の名前です。

[トップ](#)

DSPRCYAPの例

例 1: アクセス・パスのすべての回復時間の表示

DSPRCYAP

このコマンドは、ターゲット・アクセス・パス回復時間、システムの回復状況情報、および活動状態または使用可能な補助記憶域プールを表示します。このコマンドからの出力は、コマンドが対話式で実行された場合はワークステーションで表示され、コマンドがバッチで実行された場合はジョブのスパール出力を使用して印刷されます。

例 2: ASPグループのアクセス・パスの回復時間の印刷

```
DSPRCYAP OUTPUT(*PRINT) ASP(*ASPGRP) ASPGRP(WAREHUS1)
```

このコマンドは、独立ASPグループWAREHUS1のターゲット・アクセス・パス回復時間および回復状況情報を表示します。このコマンドからの出力は、ジョブのスパール出力を使用して印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPRCYAP

*ESCAPEメッセージ

CPF70FB

コマンドを使用する権限がない。

CPF70F4

エラーが起きました。

CPF700F

&1のアクセス・パス回復時間は*NONEに設定された。

CPF702E

アクセス・パスの回復時間がシステムの省略時の値に設定された。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

RDBディレクトリー項目の表示 (DSPRDBDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目表示(DSPRDBDIRE)コマンドによって、リレーショナル・データベース(RDB)ディレクトリー中の1つの項目、総称項目、またはすべての項目を表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDB	項目	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション, 位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

トップ

項目 (RDB)

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を指定します。項目に別名がない場合には、リレーショナル・データベース名が項目名として使用されます。項目に別名がある場合には、その別名が項目名として使用されます。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** リレーショナル・データベース・ディレクトリー中のすべての項目。

総称*リレーショナル・データベース名

リレーショナル・データベース項目の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。

リレーショナル・データベース名

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は出力ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られる出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在していない場合には、作成されます。新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリー QSYS中のレコード様式名RWRDDSPのシステム・ファイルQADSPDEがモデルとして使用されます。ファイルがすでに存在する場合には、そのファイルはこの形式でなければなりません。

このパラメーターが有効なのは、出力プロンプト（OUTPUTパラメーター）に*OUTFILEを指定した場合だけです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力ファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力ファイルが検索されるライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

出力が入れられるファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

可能な出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

要求された情報が入られる出力ファイル・メンバーの名前として最大10文字を指定してください。

レコードの置き換えまたは追加に指定できる値は次の通りです。

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPRDBDIREの例

例1:情報を出力ファイルに指示

```
DSPRDBDIRE OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、すべてのリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目からの情報をスプール・ファイルに指示します。

例2:情報を出力ファイルに指示

```
DSPRDBDIRE OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(SAVEDIR)
```

このコマンドは、すべてのリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目を名前SAVEDIRの出力ファイルに指示します。これは、リレーショナル・データベース・ディレクトリーの内容をバックアップする通常の方法です。これらの項目は、CLプログラムを使用して復元できますが、このプログラムは、出力ファイルから情報を読み取り、情報をリレーショナル・データベース・ディレクトリーに戻して追加するためのリレーショナル・データベース・ディレクトリー項目追加(ADDRDBDIRE)コマンドを出します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPRDBDIRE

*ESCAPE メッセージ

CPF3EC3

リレーショナル・データベース・ディレクトリー項目の表示が失敗しました。

[トップ](#)

リモート定義の表示 (DSPRMTDFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート定義表示(DSPRMTDFN)コマンドでは、ユーザーはシステムのリモート定義を表示または印刷することができます。出力は表示または印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに送ることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSTEM	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY, *ALL	
	要素 2: システム・グループ	文字値	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	

[トップ](#)

システム名 (SYSTEM)

表示されるリモート・システムのシステム名およびシステム・グループを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ANY** 他の項目によって処理されないリモート・システムの省略時の定義を表示します。

***ALL** リモート・システムのすべての定義を表示します。

指定できるシステム名の値は次の通りです。

システム名

表示するリモート・システムの名前を指定してください。

指定できるシステム・グループの値は次の通りです。

システム・グループ

表示するリモート・システムのグループ名を指定してください。グループ名がブランクの場合には、この値を指定しないでください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。このパラメーターについては、AS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の付録A「パラメーターの詳細な説明」に詳細な説明があります。

考えられる値は次の通りです。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト(OUTFILEパラメーター)で指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在しない場合には、システムは指定されたライブラリーにファイルを作成します。新しいファイルが作成される場合には、システムはRMTDFNのレコード様式名のシステム・ライブラリーQSYSのシステム・ファイルQAOCRMTDFNをモデルとして使用します。ファイルがすでに存在する場合には、そのファイルはこの形式でなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ファイル名

出力ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されて、そのメンバーが存在しない場合には、システムは、出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) で指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

*REPLACE

出力データが、指定されたメンバーの既存のレコードと置き換えられます。

***ADD** 出力データが、指定されたメンバーの既存のレコードの後に追加されます。

[トップ](#)

DSPRMTDFNの例

例1:特定リモート定義の表示

```
DSPRMTDFN  SYSTEM(RCHAS1)
```

このコマンドは、リモート・システムRCHAS1の現行属性を表示します。

例2:定義の出力ファイルへの書き込み

```
DSPRMTDFN  SYSTEM(*ALL)  OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(RMTDFNOUT)
```

このコマンドは、定義済みのリモート・システムのすべての現行属性を出力ファイルRMTDFNOUTに書き込みます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPRMTDFN

*ESCAPEメッセージ

CPF6A50

表示装置ファイルまたは印刷装置ファイルの操作中にエラーが見つかった。

CPF6DCA

SYSTEMパラメーターをローカル・システムにできない。

CPF6DCC

システム&1 &2のリモート定義が見つからない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

S/36構成の表示 (DSPS36)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36表示(DSPS36)コマンドによって、システム/36環境構成の説明を表示または印刷することができます。システム/36印刷装置、表示装置、一般環境値および（認可済み）MRT機密保護値の説明を組み込みます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはそのジョブのspool出力で印刷するかを指定します。

***:** 対話式ジョブによって要求された場合には、出力は要求元ワークステーションに表示されます。これが対話式ジョブでない場合には、出力はそのジョブのspool出力で印刷されます。

***PRINT:**
出力はジョブのspool出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPS36の例

DSPS36 OUTPUT(*)

このコマンドによって、対話式ジョブのユーザーはシステム/36環境記述を表示することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPS36

なし

[トップ](#)

保管ファイル表示 (DSPSAVF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

保管ファイル表示(DSPSAVF)コマンドは保管ファイルの保管情報を表示します。これには、保管操作および保管ファイルに保管された各オブジェクトの記述に関する要約情報が含まれています。

制約事項:

- 保管ファイルに対する使用(*USE)権限と、指定されたライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	保管ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

保管ファイル (FILE)

表示する保管ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 保管ファイル

名前 保管ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 保管ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

DSPSAVFの例

DSPSAVF FILE(ONLINE) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、保管ファイルONLINEに保管されたオブジェクトを表示します。出力はジョブのスパール出力を使用して印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ： DSPSAVF

*ESCAPE メッセージ

CPD375A

保管媒体で媒体エラー。

CPF3704

要求が終了した。データ管理エラーが起っています。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3782

&2のファイル&1は保管ファイルでない。

CPF3792

情報は表示されなかった。エラーが起こった。

CPF3793

マシンの記憶域限界に達した。

CPF3812

&2の保管ファイル&1は使用中である。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

サブシステム記述表示 (DSPSBSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述表示 (DSPSBSD)コマンドは、サブシステム記述に入っている情報を表示します。情報のタイプ（別々の画面に表示される）には次のものがあります。すなわち、操作属性、プール定義、自動始動ジョブ項目、ワークステーション項目（名前およびタイプ別）、ジョブ待ち行列項目、経路指定項目、通信項目、リモート・ロケーション項目、および事前開始ジョブ項目です。このコマンドがバッチ・ジョブで入力された場合には、すべての使用可能な情報がジョブのスパール出力を使用して印刷されます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - サブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

サブシステム記述 (SBSD)

表示するサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 サブシステム記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

サブシステム記述を見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPSBSDの例

DSPSBSD SBSDB(LIB6/ORDER) OUTPUT(*)

このコマンドは、（バッチ・ジョブから入力された場合に）ORDERという名前のサブシステム記述(LIB6ライブラリーに保管されています)に関する表示情報の完全なセットを印刷のためにジョブのスパール出力待ち行列に送ります。この情報には、そのサブシステム記述の現在のサブシステムの属性、すべてのジョブ項目、およびすべての経路指定項目が含まれます。このコマンドが対話式ジョブで入力された場合には、そこからオプションを選択できる画面にサブシステム記述メニューが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSBSD

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1692

サブシステム記述&1は表示されなかった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9861

出力ファイル&1がライブラリー&2に作成された。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

機密保護属性の表示 (DSPSECA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機密保護属性表示(DSPSECA)コマンドは、次のようなシステムの機密保護属性を表示します。

- 次回にユーザー・プロファイルにユーザーID番号が作成される時に使用されるユーザーID番号。
- 次回にユーザー・プロファイルにグループID番号が作成される時に使用されるグループID番号。
- マシンの機密保護レベル。現行の機密保護レベルと異なる場合には、保留中の機密保護レベルが表示されます。
- マシンのパスワード・レベルです。保留中のパスワード・レベルが現行パスワード・レベルと異なる場合には、それが表示されます。
- 機密保護関連のシステム値を変更できるかどうかを示す標識。
- デジタル証明書を証明書ストアに追加できるかどうか、証明書ストアのパスワードをデジタル証明書マネージャー(DCM)を使用してリセットできるかどうかを示す標識。
- 満了した省略時パスワードをもつ保守ツール・ユーザーIDがその独自のパスワードを変更できるかどうかを示す標識。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPSECAの例

DSPSECA OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、現行機密保護属性を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSECA

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

機密保護監査の表示 (DSPSECAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機密保護情報の表示(DSPSECAUD)コマンドは、機密保護監査ジャーナルに関する現行の情報およびそのシステム上で行っている監査の内容を制御するシステム値の現行の設定を表示します。

制約事項:このコマンドを使用するには、*AUDIT特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* _, *PRINT	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPSECAUDの例

DSPSECAUD

このコマンドは、機密保護監査ジャーナルに関する現在の情報、およびシステム上で監査されているものを制御するシステム値の現在の設定を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSECAUD

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

ソフトウェア資源の表示 (DSPSFWRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソフトウェア資源の表示(DSPSFWRSC)コマンドによって、導入済みソフトウェア資源のリストを表示するか、印刷するか、あるいは出力ファイルに書き込むことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 1
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)を使用する場合には、データベース・ファイルの名前が必要です。

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が向けられるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルを作成する場合には、システムはライブラリー・リスト内の物理ファイル QARZLCOF をモデル・ファイルとして使用します。このファイルのレコード様式名は QARZLCGD です。フィールド・レベルの情報は、ファイル・フィールド記述表示 (DSPFFD) コマンドを使用し、ファイル名として QARZLCOF、ライブラリーとして *LIBL を指定して入手できます。この機能でファイルを作成した場合には、テキストに "OUTPUT FILE FOR DSPSFWRSC" と示されます。特定の権限、グループ権限、または権限リストからの権限が付与されているユーザー以外のユーザーの権限は、ファイルを作成する先のライブラリーに指定された作成権限と同じです。このパラメーターが有効であるのは、OUTPUT(*OUTFILE) が指定されている場合だけです。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)** パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。メンバーが存在する場合には、既存のメンバーの終りにレコードを追加するか、あるいは既存のメンバーを消去してから、新しいレコードを追加するオプションがあります。

オプションの値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

DSPSFWRSCの例

DSPSFWRSC OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(*CURLIB/NAMES)

このコマンドは、コマンドからの出力を現行ライブラリーのファイルNAMESの最初のメンバーに送ります。この出力は、メンバー中の情報を置き換えます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSFWRSC

***ESCAPE** メッセージ

CPF0C4A

プロダクト・レコードが見つからない。

CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF0C54

プロダクト・レコードのデータが正しくない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

制御範囲状況表示 (DSPSOCSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御範囲状況表示(DSPSOCSTS)コマンドは、一次ノード、省略時ノード、バックアップ・ノード、および要求ノードを含めて、制御の範囲の状況を表示します。

制御範囲の状況の表示およびDSPSOCSTSコマンドの使用に関する詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1
DETAIL	詳細	* BASIC , *FULL	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

コマンドからの出力がノードのリストとして印刷されるか、あるいは制御の範囲の各ノードの詳細記述として印刷されるかを指定します。このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(*PRINT)が指定されている場合だけです。

***BASIC**

制御の範囲内のノードのリストが印刷されます。

***FULL** 制御の範囲内のノードのリストが、各ノードごとに詳細記述を表示して印刷されます。

[トップ](#)

DSPSOCSTSの例

DSPSOCSTS

このコマンドは、「制御状況の範囲」画面を要求側ワークステーションに表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSOCSTS

なし

[トップ](#)

スプール・ファイル表示 (DSPSPLF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル表示(DSPSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルのデータ・レコードを表示します。スプール・ファイルの項目が出力待ち行列上にある場合には、そのファイルの現在の内容（データ・レコード）をいつでも表示することができます。この画面には、ファイルの各部分を表示し、特定の文字ストリングをスキャンするための各種の機能が提供されています。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
FOLD	レコードの折り返し	*NO, *YES	オプション

トップ

スプール・ファイル (FILE)

レコードを表示するスプール・ファイルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

スプール・ファイル名

表示するスプール・ファイルのファイル名を指定してください。

トップ

ジョブ名 (JOB)

データ・レコードを表示するスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* このコマンドを出したジョブが、そのスプール・ファイルを作成したジョブです。

ジョブ名

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。

ユーザー名

そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

番号 システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

表示するジョブのスプール・ファイルの番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

データ・レコードを表示する指定されたファイル名のスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決断するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

トップ

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日の値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

指定できる作成時刻の値は次の通りです。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

トップ

レコードの折り返し (FOLD)

最初の画面で、表示行の長さより長いレコードを折り返して（ラップして）表示するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** レコードは折り返し表示されません。レコードの長さが1行を超える場合、レコードの残りの文字位置は表示されません。

***YES** 初期表示画面で、最初のレコードが1行の長さを超える場合に2行以上の表示行に折り返し表示されます。

トップ

DSPSPLFの例

DSPSPLF FILE(QPRINT) JOB(PAYROLL01) SPLNBR(4) FOLD(*NO)

この例では、スプール・ファイルQPRINTが表示されます。このファイルは、ジョブPAYROLL01によって作成された4番目のファイルです。表示行の長さより長いレコード位置は、最初の表示行で切り捨てられます。

トップ

エラー・メッセージ： DSPSPLF

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3308

データを表示しようとした時にエラーが起こった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3359

データを表示することができない。

CPF3386

&2のファイル&1はデータベース・ファイルではない。

CPF3387

&2のファイル&1のデータを表示することができない。

CPF3394

スプール・ファイル・データを変換することはできない。

CPF33F9

ファイル&1,番号&6を表示中にエラーが起こった。

CPF3427

ジョブ&5/&4/&3は対話式ジョブでない。

CPF3428

ファイル&1番号&8でDSPSPLFコマンドが終了した。

CPF3429

ファイル&1番号&7を表示, コピー, または送信することができない。

CPF3434

&2のファイル&1メンバー&3のデータが必要な形式になっていない。

CPF3435

要求されたデータは&2のファイル&1のメンバー&3に見つからなかった。

CPF3478

ファイル&1はライブラリー&7の出力待ち行列&6のジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に, エラーが起こった。

トップ

サービス属性の表示 (DSPSRVA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス属性表示(DSPSRVA)コマンドはシステムのセットアップ方法についての次の情報を表示します。

- 外部サポートに報告する接続番号
- このシステムをコールバックする接続番号
- 障害が発生した時に問題分析ルーチンを自動的に実行するかどうか
- 指定されたサービス提供元に問題を通知する方法
- サービス提供元への接続番号
- PTFを導入する時点
- 重要システム・メッセージの送り先

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPSRVAの例

DSPSRVA

このコマンドは、システムの現行サービス属性を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPSRVA

*ESCAPEメッセージ

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・エージェントの表示 (DSPSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの表示(DSPSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントのいくつかの特徴を表示できます。表示される域は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*DEVICE, *INV, *MAINT, *PRDACTLOG, *SRVREGINF	必須, 定位置 1
DEVICE	装置	文字値	オプション
CATEGORY	カテゴリー	*DASD, *TAPE, *PROCESSOR, *OPTICAL, *FSIOP, *OTHER	オプション
SENSEFMT	センス・バイトの形式	0, 4, 2, 8, C	オプション
SYSNAME	システムまたは論理区画	文字値, <u>LOCAL</u>	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
SRVREP	IBMサービス技術員	文字値, <u>BLANK</u>	オプション
SRVTELNBR	IBMサービスの電話番号	文字値, <u>BLANK</u>	オプション
RECOMMEND	推奨事項	文字値, <u>BLANK</u>	オプション
ERRLOGID	エラー・ログ識別コード	文字値	オプション

[トップ](#)

タイプ(TYPE)

表示されるサービス・エージェントの特徴を指定します。

これは必須パラメーターです。

*DEVICE

装置のサービス・エージェント限界値テーブルからの情報が表示されます。

***INV** サービス・エージェントのインベントリー伝送についての情報が表示されます。

*MAINT

IBMサービス予防保守チェックリストが表示または印刷されます。これは、システムまたは論理区画での予防保守呼び出しの時に推奨されるアクションのリストです。このリストは、予防保守サービスの呼び出しのたびにその後で印刷されるか、カスタマーに表示されます。

*PRDACTLOG

プロダクト活動ログからのレコードが表示または印刷されます。

*SRVREGINF

システムまたは論理区画をサービス・エージェントとして登録するために必要な情報が表示されます。

[トップ](#)

装置(DEVICE)

限界値テーブル情報の表示対象の装置を指定します。

注: TYPE(*DEVICE)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 限界値テーブル情報の表示対象の4文字の装置タイプを指定してください。たとえば、2420テープ装置の場合には、DEVICE(2420)を指定できます。

[トップ](#)

カテゴリー(CATEGORY)

限界値テーブル情報の表示対象の装置のタイプを指定します。

注: TYPE(*DEVICE)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

*DASD

装置はDASD装置です。

*TAPE

装置はテープ装置です。

*PROCESSOR

装置はプロセッサです。

*OPTICAL

装置は光ディスク装置です。

*FSIOP

装置はFSIOP装置です。

*OTHER

装置は以上にリストされた以外の装置です。

[トップ](#)

センス・バイトの形式(SENSEFMT)

テープ装置のボリューム統計データの形式を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、CATEGORY(*TAPE)を指定した場合だけです。

- 0** 装置は取り外し可能媒体統計を報告しません。
- 4** 形式は1/4インチ・カートリッジ・テープ装置用のものです。
- 2** 形式は1/2インチ・リール・テープ装置用のものです。
- 8** 形式は8 MMテープ装置用のものです。

C 形式は1/2インチ・カートリッジ・テープ装置用のものです。

トップ

システムまたは論理区画(SYSNAME)

情報の表示対象のシステムまたは論理区画の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*INV)を指定した場合だけです。

*LOCAL

ローカル・システムまたは論理区画の情報が表示されます。

文字値 情報の表示対象のシステムまたは論理区画の名前を指定してください。

トップ

出力(OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*MAINT)またはTYPE(*PRDACT)が指定された場合だけです。

* 出力は、対話式ジョブの場合には表示され、非対話式ジョブの場合にはジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

IBMサービス技術員(SRVREP)

このサービス呼び出しを行っているIBMサービス技術員または実行されるサービスについて疑問がある時にカスタマーが連絡を取るIBMサービス技術員の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*MAINT)およびOUTPUT(*PRINT)を指定した場合だけです。

*BLANK

値は指定されません。

文字値 IBMサービスの連絡先の名前を指定してください。OUTPUT(*PRINT)が指定されると、この値が出力に組み込まれます。

トップ

IBMサービスの電話番号(SRVTELNBR)

カスタマーがIBMサービスに連絡する時にコールする電話番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*MAINT)およびOUTPUT(*PRINT)を指定した場合だけです。

***BLANK**

値は指定されません。

文字値 IBMサービスに連絡するための完全な電話番号列を指定してください。OUTPUT(*PRINT)が指定されると、この値が出力に組み込まれます。

トップ

推奨事項(RECOMMEND)

IBMサービス技術員がカスタマーに対してもっている推奨事項を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*MAINT)およびOUTPUT(*PRINT)を指定した場合だけです。

***BLANK**

値は指定されません。

文字値 IBMサービスがカスタマーに示す推奨事項を指定してください。OUTPUT(*PRINT)が指定されると、この値が形式設定され、出力に組み込まれます。

トップ

エラー・ログ識別コード(ERRLOGID)

表示されるプロダクト活動ログ・レコードのレコード識別コードを指定します。

注: TYPE(*PRDACTLOG)を指定した場合には、このパラメーターは必須です。

文字値 表示されるプロダクト活動ログ・レコードの識別コードを指定してください。識別コードは、TYPE(*EVENT)を指定したサービス・エージェント処理(WRKSRVAGT)コマンドを使用するか、保守ツール開始(STRSST)コマンドを使用して見つけることができます。

トップ

DSPSRVAGTの例

```
DSPSRVAGT TYPE(*DEVICE) DEVICE(2420) CATEGORY(*TAPE)
```

このコマンドは、装置2420（テープ装置）のサービス・エージェント限界値テーブル中の情報を表示します。

トップ

エラー・メッセージ： DSPSRVAGT

***ESCAPE** メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

トップ

サービス・プログラムの表示 (DSPSRVPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラム表示(DSPSRVPGM)コマンドは、サービス・プログラムの作成および処理属性を含むサービス・プログラムに関する情報、コンパイラーに関する情報、およびサービス・プログラムのサイズを表示します。

制約事項:

- 表示するサービス・プログラムに対して実行(*EXECUTE)権限または使用(*USE)権限 (DETAIL(*MODULE)が指定されている時) が必要です。
- サービス・プログラムが存在しているライブラリーに対して読み取り(*READ)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *MODULE, *SRVPGM, *PROCEXP, *DTAEXP, *ACTGRPEXP, *ACTGRPIMP, *SIGNATURE, *COPYRIGHT	オプション

[トップ](#)

サービス・プログラム (SRVPGM)

情報を表示または印刷するサービス・プログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

名前 サービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

これは必須パラメーターです。

***** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

詳細 (DETAIL)

サービス・プログラムについて表示される情報のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** すべてのDETAIL情報タイプ(*BASIC, *SIZE, *MODULE, *SRVPGM, *PROCEXP, *DTAEXP, *ACTGRPEXP, *ACTGRPIMP, *SIGNATURE,および*COPYRIGHT)が画面に表示されます。情報を画面に表示することを選択する場合は、情報のタイプごとに情報をくまなくスクロールできるようになりますが、ENTER (またはPF12)を押して、ある情報セクションから別の情報セクションに移動することが必要になります。

その他の値 (最大 8 回の反復)

***BASIC**

一般的なサービス・プログラム情報が表示されます。

***SIZE** このサービス・プログラムのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

***MODULE**

このサービス・プログラムによってバインドされたモジュール・オブジェクトのリストが表示されます。各モジュールに表示されるライブラリーは、サービス・プログラムが最初に作成された時にモジュールがあったライブラリーです。モジュールが異なるライブラリーのモジュールによって置き換えられた場合にも、このライブラリー名は、サービス・プログラムが作成された時にモジュールがあったライブラリーの名前のままです。

***SRVPGM**

このサービス・プログラムによってバインドされたサービス・プログラム・オブジェクトのリストが表示されます。

***PROCEXP**

このサービス・プログラムからエクスポートされて、バインド言語に指定されたプロシージャのリストが表示されます。このエクスポートは、現行署名の場合だけです。

***DTAEXP**

このサービス・プログラムからエクスポートされて、バインド言語に指定されたデータ項目のリストが表示されます。このエクスポートは、現行署名の場合だけです。

***ACTGRPEXP**

バインド仕様のデータ・エクスポート項目に指定された活動化グループにエクスポートされたデータ項目のリストが表示されます。

***ACTGRPIMP**

活動化グループ・ディレクトリーにエクスポートされたウィーク・エクスポートによって解決されたインポートのリストが表示されます。

***SIGNATURE**

このサービス・プログラムの署名のリストが表示されます。このリストの最初の署名が現行署名です。

***COPYRIGHT**

このサービス・プログラムの著作権のリストが表示されます。

[トップ](#)

DSPSRVPGMの例

DSPSRVPGM SRVPGM(COACH)

このコマンドは、COACHという名前のサービス・プログラム・オブジェクトを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSRVPGM

ESCAPEメッセージ*CPF2150**

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF8123

ライブラリー&4のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF813D

&9のサービス・プログラム&4に損傷がある。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

サービス状況表示 (DSPSRVSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス状況表示(DSPSRVSTS)コマンドは、指定されたジョブの現在のサービス状況に関する情報を表示します。この情報には、指定されたジョブがサービスしているジョブの名前や指定されたジョブをサービスしているジョブの名前が含まれます。

制約事項:

- このコマンドを使用するためには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	* SELECT , *MSG	オプション

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

サービス状況を表示するジョブを指定します。

単一値

* このコマンドを入力するジョブに関する状況情報を表示します。

修飾子1: ジョブ名

名前 表示されるジョブのジョブ名を指定します。ユーザー名またはジョブ番号を指定しない場合には、システムに現在あるすべてのジョブについて単純ジョブ名を検索します。指定するジョブ名はシステム内で固有のものでなければなりません。

修飾子2: ユーザー

名前 表示されるジョブのユーザー名を指定します。

修飾子3: 番号

000000-999999

表示されるジョブのジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッションで重複ジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、エスケープ・メッセージが出されます。

***MSG** 重複ジョブが見つかった時には、エスケープ・メッセージが出されます。

[トップ](#)

DSPSRVSTSの例

DSPSRVSTS

このコマンドは、コマンドを入力したジョブのサービス状況情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSRVSTS

***ESCAPE** メッセージ

CPF3520

ジョブが見つからない。

CPF3524

指定した名前のジョブが複数個見つかった。

CPF3925

ファイル&1をオープンすることができない。

CPF3950

ファイル&1に対してエラー・メッセージ&2を受け取った。要求は終了しました。

[トップ](#)

サーバー認証項目の表示 (DSPSVRAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サーバー確認項目表示(DSPSVRAUTE)コマンドは、指定されたユーザー・プロファイルのサーバー確認項目のリストを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

サーバー確認項目を表示するユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーのサーバー確認項目を表示します。

名前 サーバー確認項目を表示するユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPSVRAUTEの例

DSPSVRAUTE

このコマンドは、現在実行中のユーザーについてのサーバー確認項目を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSVRAUTE

*ESCAPE メッセージ

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

[トップ](#)

システム状況の表示 (DSPSYSSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム状況の表示 (DSPSYSSTS)コマンドによって、システムの現在の状況に関する情報を表示または印刷することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、位置 1
RESET	状況統計リセット	*NO、*YES	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV、*USRPRF、*BASIC、*INTERMED、*ADVANCED	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

状況統計リセット (RESET)

システム状況の統計フィールドがこのジョブのDSPSYSSTSコマンドの最初のオカレンスであるかのように、これをゼロにリセットするかどうかを指定します。このパラメーターに指定された値は、*BASIC操作援助レベルで示される情報には影響しません。

*NO システム状況統計はリセットされません。

*YES システム状況統計はリセットされます。これは、また、システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドおよびQWCRSSTS APIにおける状況統計もリセットします。

[トップ](#)

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用された操作援助レベルが使用されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルに定義された操作援助レベルが示されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

***ADVANCED**

システム・ユーザー・インターフェース・エキスパート・モードが使用されます。

[トップ](#)

DSPSYSSTSの例

DSPSYSSTS OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、現在のシステム状況情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPSYSSTS

なし

[トップ](#)

システム値表示 (DSPSYSVAL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

システム値表示 (DSPSYSVAL)コマンドは、指定されたシステム値の名前および値を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSVAL	システム値	QABNORMSW, QACGLVL, QACTJOB, QADLACTJ, QADLSPLA, QADLTOTJ, QALWOBJRST, QALWUSRDMN, QASTLVL, QATNPGM, QAUDCTL, QAUDENDACN, QAUDFRCLVL, QAUDLVL, QAUDLVL2, QAUTOCFG, QAUTORMT, QAUTOSPRPT, QAUTOVRT, QBASACTLVL, QBASPOOL, QBOOKPATH, QCCSID, QCENTURY, QCFGMSGQ, QCHRID, QCHRIDCTL, QCMNARB, QCMNRCYLMT, QCNTYID, QCONSOLE, QCRTAUT, QCRTOBAUD, QCTLSBSD, QCURSYM, QDATE, QDATETIME, QDATFMT, QDATSEP, QDAY, QDAYOFWEEK, QDBFSTCCOL, QDBRCVYWT, QDECFMT, QDEVNAMING, QDEVRCYACN, QDSCJOBIV, QDSPSGNINF, QDYNPTYADJ, QDYNPTYSCD, QENDJOBMT, QFRCCVNRST, QHOUR, QHSTLOGSIZ, QIGC, QIGCCDEFNT, QIGCFNTSIZ, QINACTMSGQ, QINACTITV, QIPLDATTIM, QIPLSTS, QIPLTYPE, QJOBMSGQFL, QJOBMSGQMX, QJOBMSGQSZ, QJOBMSGQTL, QJOBSPLA, QKBDBUF, QKBDTYPE, QLANGID, QLEAPADJ, QLIBLCKLVL, QLMTDEVSSN, QLMTSECOFR, QLOCALE, QMAXACTLVL, QMAXJOB, QMAXSGNACN, QMAXSIGN, QMAXSPLF, QMCHPOOL, QMINUTE, QMLTTHDACN, QMODEL, QMONTH, QPASTHRSVR, QPFRADJ, QPRBFTR, QPRBHLDTIV, QPRCFEAT, QPRCMLTTSK, QPRTDEV, QPRTKEYFMT, QPRTTXT, QPWDEXPITV, QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDLVL, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, QPWDRQDDGT, QPWDRQDDIF, QPWDVLDPGM, QPWRDWNLMT, QPWRRSTIPL, QQRYDEGREE, QQRYTIMLMT, QRCLSPLSTG, QRETSVRSEC, QRMTIPL, QRMTSIGN, QRMTSRVATR, QSAVACCPH, QSCANFS, QSCANFCTL, QSCPFCONS, QSECOND, QSECURITY, QSETJOBATR, QSFWERRLOG, QSHRMEMCTL, QSPCENV, QSPLFACN, QSRLNBR, QSRTSEQ, QSRVDMP, QSTGLOWACN, QSTGLOWLMT, QSTRPRTWTR, QSTRUPPGM, QSTMSG, QSVRAUTITV, QSYSLIBL, QTHDRSCADJ, QTHDRSCAFN, QTIMADJ, QTIME, QTIMSEP, QTIMZON, QTOTJOB, QTSEPOOL, QUPSDLYTIM, QUPSMGQ, QUSEADPAUT, QUSRLIBL, QUTCFFSET, QVFYOBJRST, QYEAR	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

トップ

システム値 (SYSVAL)

表示されるシステム値の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

システム値は次の通りです。

QABNORMSW

前のシステム終了標識。この値は変更できません。

- '0'は直前の終了が正常であったことを意味します。
- '1'は直前の終了が異常であったことを意味します。

QACGLVL

会計レベル。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *NONE -会計情報はジャーナルに書き込まれません。
- *JOB -ジョブ資源の用途がジャーナルに書き込まれます。
- *PRINT -スプールおよび印刷装置ファイル資源の用途がジャーナルに書き込まれます。

QACTJOB

記憶域が割り振られる初期活動ジョブ数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QADLACTJ

記憶域が割り振られる追加の活動ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QADLSPLA

スプリーング制御ブロックを拡張するための追加の記憶域 (バイト数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QADLTOTJ

記憶域が割り振られる追加の合計ジョブ数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QALWOBJRST

オブジェクト復元の許可。このシステム値は、機密属性を持つオブジェクトが復元されるかどうかを決定します。詳細については、復元オプションを参照してください。

QALWUSRDMN

ライブラリーまたはディレクトリー中のユーザー・ドメイン・オブジェクトを許可します。このシステム値は、システム上のどのライブラリーにユーザー・ドメイン・ユーザー・オブジェクト *USRSPC (ユーザー空間), *USRIDX (ユーザー見出し), および*USRQ (ユーザー待ち行列)を入れることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QASTLVL

操作援助レベル。ASTLVL(*SYSVAL)が指定されたユーザー・プロファイルについてシステム画面の操作援助機能レベルを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *BASIC -操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。
- *INTERMED -システム・インターフェースが使用されます。

- *ADVANCED - EXPERTシステム・インターフェースが使用されます。

*ADVANCEDレベル・インターフェースがないコマンドの場合には、*INTERMEDが使用されます。

QATNPGM

アテンション・プログラム。このシステム値に対して*ASSISTが指定された場合には、ユーザーがアテンション(ATTN)キーを押した時に、操作援助機能メイン・メニューが呼び出されます。この値は、ユーザー・プロファイルにQATNPGM(*SYSVAL)が指定されたジョブでユーザーがATTNキーを押した時に呼び出されるプログラムの名前に変更することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDCTL

監査制御。このシステム値は、オブジェクトおよびユーザー処置の監査用のオンおよびオフ・スイッチを含みます。このシステム値は、オブジェクト監査の変更 (CHGOBJAUD)およびユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD)コマンドとQAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値によって選択されたシステム上の監査を活動化します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONE -システム上で機密保護監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL - QAUDLVLおよびQAUDLVL2システム値に指定された処置が機密保護ジャーナルに対して記録されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値によって指定された処置も監査されます。ユーザー・プロファイルの処置監査値は、CHGUSRAUDコマンドのAUDLVLパラメーターを通じて設定されます。
- *OBJAUD - *NONE以外のオブジェクト監査値を持つオブジェクトに対する処置が監査されます。オブジェクトの監査値は、変更監査値 (CHGAUD)コマンドまたはCHGOBJAUDコマンドを通じて設定されます。
- *NOQTEMP - QTEMP中のほとんどのオブジェクトの監査は行われません。*NOQTEMPは、*OBJAUD または*AUDLVLのいずれかと一緒に指定しなければなりません。*NOQTEMP単独で指定することはできません。

QAUDENDACN

監査ジャーナル・エラー処置。このシステム値は、オペレーティング・システムが機密保護監査ジャーナルに監査ジャーナル項目を送ろうとした時にエラーが起こった場合にシステムが取る処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOTIFY -障害通知がQSYSOPRおよびQSYSMSGメッセージ待ち行列に送られ、その後で、監査を試みる原因となった処置が続行されます。
- *PWRDWN SYS - システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出されます。システムはIPLの後で制限状態で立ち上げられ、監査(*AUDIT)および全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーだけがそのシステムにサインオンすることができます。

QAUDFRCLVL

強制監査ジャーナル。このシステム値は、ジャーナル項目データが補助記憶域に強制的に書き込まれる前に機密保護監査ジャーナルに書き出すことができる監査ジャーナル項目の数を指定します。有効な値の範囲は1から100または特殊値*SYSです。この特殊値は、内部システム処理に基づいてジャーナル項目を補助記憶域に書き出す時点をシステムが決定することを意味します。*SYSを10進変数で戻すことはできないので、値*SYSが指定された時にコマンドは0を戻してきます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QAUDLVL

機密保護監査レベル。システム上の処置監査のレベルを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -システム上で機密保護処置監査は行われません。これが配送値です。
- *AUDLVL2 - QAUDLVLとQAUDLVL2の両方のシステム値を使用して、監査する機密保護処置が決定されます。

注:

- QAUDLVL2システム値を排他的に使用したい場合には、QAUDLVLシステム値を*AUDLVL2に設定して、監査値をQAUDLVL2システム値に追加します。
- *AUDLVL2値とともに値をQAUDLVLシステム値に設定できる両方のシステム値を使用したい場合には、追加の値をQAUDLVL2処置に追加します。

- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワークングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われます。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK
- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECCKD -ソケット記述子が監査されます。

- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われま
す。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL

- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リストに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、OS/400機密保護解説書の資料を参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMGMT -システム管理タスクが監査されます。

QAUDLVL2

機密保護監査レベル拡張機能。このシステム値は、16更新されている場合超える監査値が必要であった場合に必要になります。*AUDLVL2を値の1つとしてQAUDLVLシステム値に指定すると、システムはQAUDLVL2システム値中の監査値も検索します。このシステム値に対して行われた変更は、システムで実行中のすべてのジョブに対して即時に有効となります。

- *NONE -このシステム値には監査値が含まれません。これが配送値です。
- *AUTFAIL -権限障害が監査されます。
- *CREATE -すべてのオブジェクト作成が監査されます。ライブラリーQTEMPに作成されたオブジェクトは監査されません。
- *DELETE -システム上の外部オブジェクトの削除がすべて監査されます。ライブラリーQTEMPから削除されたオブジェクトは監査されません。
- *JOBDTA -ジョブに影響する処置が監査されます。
- *NETBAS -ネットワーク基本機能が監査されます。
- *NETCLU -クラスターおよびクラスター資源グループの操作が監査されます。
- *NETCMN -ネットワーキングおよび通信機能が監査されます。

注: *NETCMNは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*NETCMNを指定した場合と同じ監査が行われま
す。*NETCMNは次の値で構成されています。

- *NETBAS
- *NETCLU
- *NETFAIL
- *NETSCK

- *NETFAIL -ネットワーク障害が監査されます。
- *NETSCK -ソケット・タスクが監査されます。
- *OBJMGT -総称オブジェクト・タスクが監査されます。
- *OFCSRV - OFFICEVISIONタスクが監査されます。
- *OPTICAL -すべての光ディスク機能が監査されます。
- *PGMADP -プログラム所有者からの権限の借用が監査されます。
- *PGMFAIL -プログラム障害が監査されます。
- *PRTDTA -印刷機能が監査されます。
- *SAVRST -保管および復元情報が監査されます。
- *SECCFG -機密保護構成が監査されます。
- *SECDIRSRV-ディレクトリー・サービス機能の実行時の変更または更新が監査されます。
- *SECIPC -プロセス間通信に対する変更が監査されます。
- *SECNAS -ネットワーク認証サービス処置が監査されます。
- *SECRUN -機密保護実行時機能が監査されます。
- *SECSCKD -ソケット記述子が監査されます。
- *SECURITY -すべての機密保護関連機能が監査されます。

注: *SECURITYは、監査より良好にカスタマイズできるようにするための複数の値から構成されています。すべての値を指定した場合には、*SECURITYを指定した場合と同じ監査が行われます。*SECURITYは次の値で構成されています。

- *SECCFG
- *SECDIRSRV
- *SECIPC
- *SECNAS
- *SECRUN
- *SECSCKD
- *SECVFY
- *SECVLDL
- *SECVFY -検査機能の使用が監査されます。
- *SECVLDL -妥当性検査リストに対する変更が監査されます。
- *SERVICE -監査されるすべてのサービス・コマンドおよびAPI呼び出しのリストについては、OS/400機密保護解説書の資料を参照してください。
- *SPLFDTA -スプール・ファイル機能が監査されます。
- *SYSMGT -システム管理タスクが監査されます。

QAUTOCFG

自動装置構成標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOSPRPT

自動システム使用不可報告。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QAUTORMT

リモート制御装置の自動構成。QAUTORMTシステム値は、リモート制御装置の自動構成を制御します。

- 0は自動構成がオフであることを意味します。
- 1は自動構成がオンであることを意味します。

QAUTOVRT

自動仮想装置構成標識。このシステム値を変更するためには、ユーザーは*ALLOBJ 権限を持っていなければなりません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、仮想装置の自動構成を参照してください。

QBASACTLVL

基本記憶域プールの活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBASPOOL

基本記憶域プールの最小サイズ（キロバイト数）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QBOOKPATH

ブックおよびブックシェルフの検索パス。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QCCSID

コード化文字セット識別コード。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QCENTURY

システム日付の世紀値。

- 0は、19XX年を示します。
- 1は、20XX年を示します。

QCFGMSGQ

通信メッセージを受け取るメッセージ待ち行列を指定するために使用される構成メッセージ待ち行列。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対する変更は、MSGQパラメーターをサポートする回線、制御装置、または装置記述がオンに構成変更されると有効となります。

QCHRID

データの表示または印刷に使用される省略時の図形文字セットおよびコード・ページ。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた後で作成、変更、または一時変更される表示装置ファイル、表示装置記述、および印刷装置ファイルに対して有効となります。

QCHRIDCTL

ジョブの文字識別コード制御。この属性は、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループに対して行われるCCSID変換のタイプを制御します。この属性を使用する前に、*CHRIDCTL特殊値を、表示装置ファイル、印刷装置ファイル、およびパネル・グループの作成、変更、または一時変更コマンドのCHRIDパラメーターに指定しなければなりません。

- 0は*DEVDS特殊値が使用されることを意味します。
- 1は*JOBCCSID特殊値が使用されることを意味します。

QCMNARB

通信アービター。制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数。この値に対する変更は次のIPL時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

- *CALC: オペレーティング・システムが通信アービター・ジョブの数を計算します。
- 0 - 99: 制御装置および装置の作業を処理するために使用できる通信アービター・ジョブの数を指定します。

注: このシステム値がゼロ(0)に設定された場合には、通信アービターとは対照的にこれらのジョブの作業はQSYSARBおよびQLUSシステム・ジョブで実行されます。

QCMNRCYLMT

システム通信回復の回復限界を提供します。回復を試みる回数と、指定された回復試行回数に達した場合に装置メッセージ待ち行列またはシステム操作員に対して照会メッセージを送る時点を指定します。このシステム値に対して行われた変更は現在オンに構成変更されている装置には影響しませんが、変更が行われた後で装置がオンに構成変更された時に有効になります。

QCNTYID

省略時の国別または地域識別コード。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QCONSOLE

システム・コンソール。この値を変更することはできません。

QCRTAUT

作成されたオブジェクトに対する共通認可。このシステム値を変更するためには、*ALLOBJおよび*SECADM特殊権限が必要です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *CHANGEは、ユーザーがオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。変更権限によって、ユーザーは、所有者に限定された以外のオブジェクトまたはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御されるオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。
- *ALLは、ユーザーがオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、オブジェクトの所有者を変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できることを意味します。全権限によりユーザーは、所有者にのみ許されるかあるいは権限リスト管理権によって制御されるオブジェクトを除くすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。オブジェクトが権限リストである場合には、ユーザーはユーザーの追加、変更、除去を行えず、また権限リストの所有権を移すことができません。
- *USEは、ユーザーがオブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなど基本的な操作を実行できることを意味します。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。使用権限はオブジェクト操作権限および読み取り権限を提供します。
- *EXCLUDE権限はユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。

QCRTOBJAUD

オブジェクト作成監査。このシステム値は、ライブラリーに作成されたオブジェクトに対する省略時のオブジェクト監査値を指定します。オブジェクト監査値は、オブジェクトが使用または変更された時に監査ジャーナル項目がシステム監査ジャーナルに送られるかどうかを判別します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONE -このオブジェクトについては、監査項目は送られません。
- *USRPRF -ユーザーが現在監査中の場合に、監査項目が送られます。
- *CHANGE -このオブジェクトが変更された場合に、監査項目が送られます。
- *ALL -このオブジェクトが使用または変更された場合に、監査項目が送られます。

QCTLSBSD

制御サブシステム記述名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QCURSYM

通貨記号。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATE

システム日付。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATETIME

システム日付および時刻。これは、単一値としてのローカル・システム時間の日付および時刻です。この値を検索または変更することは、単一の操作でQDATEおよびQTIMEを検索または変更することと類似しています。フィールドの形式は、YYYYMMDDHHNNSSXXXXXXです。ここで、YYYYは年、MMは月、DDは日、HHは時間、NNは分、SSは秒、およびXXXXXXはマイクロ秒です。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDATFMT

日付形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QDATSEP

日付区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QDAY 日（システム日付の形式が年間通算日形式の場合には、年の始めから数えた日付）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDAYOFWEEK

曜日。

- *SUN -日曜日
- *MON -月曜日
- *TUE -火曜日
- *WED -水曜日
- *THU -木曜日
- *FRI -金曜日
- *SAT -土曜日

QDBFSTCCOL

データベース・ファイル統計の収集。システム・ジョブQDBFSTCCOLによってバックグラウンドで処理することのできる統計収集要求のタイプを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ALLは、すべてのユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求と、データベース・マネージャーによって自動的に要求された統計収集が、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *SYSTEMは、自動的に要求されたデータベース統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *USERは、ユーザー要求のデータベース・ファイル統計収集要求だけが、データベース統計システム・ジョブによって処理できることを意味します。
- *NONEは、データベース・ファイル統計収集要求をデータベース統計システム・ジョブによって処理することができないことを意味します。

QDBRCVYWT

データベース回復待機標識。このシステム値に対する変更は、不在時モードで次のIPL時に有効となります。

- 0は待機しないことを意味します。
- 1は待機することを意味します。

QDECFMT

10進数形式。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QDEVNAMING

装置の命名規則を示します。このシステム値に対して行われた変更は、次回に装置が自動的に構成された時に有効となります。既存の構成済み装置名は変更されません。

- *NORMALはISERIES標準に従うことを意味します。
- *S36はS/36標準に従うことを意味します。
- *DEVADRは装置名が資源名から得られることを意味します。

QDEVRCYACN

ジョブの要求プログラム装置で入出力エラーが起こった時に取られる処置を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *DSCMSGはジョブを切り離します。再接続時に、ユーザーのアプリケーション・プログラムにエラー・メッセージが送られます。
- *DSCENDRQSはジョブを切り離します。再接続時に、取り消し要求機能を実行して、ジョブの制御を最後の要求レベルに戻す必要があります。
- *ENDJOBはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログが生成されます。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがジョブ・ログおよびQHSTログに送られます。
- *ENDJOBNO LISTはジョブを終了します。ジョブのジョブ・ログは生成されません。装置エラーのためにジョブが終了したことを示すメッセージがQHSTログに送られます。
- *MSGは入出力エラー・メッセージをアプリケーション・プログラムに送ります。アプリケーション・プログラムはエラー回復を自身で実行します。

QDSCJOBTV

ジョブを終了前に切断できる時間間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。対話式ジョブは、ある時間間隔中非活動状態であった（システム値QINACTIVおよびQINACTMSGQ）場合、あるいは対話式ジョブのワークステーションで入出力エラーが起こった（システム値QDEVRCYACN）場合に、ジョブの切り離し（DSCJOB）コマンドによって切断することができます。

- 5-1440がタイムアウトの間隔（分）です。
- *NONEはタイムアウト間隔がないことを意味します。

QDSPSGNINF

サインオン情報の表示を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はサインオン情報が表示されないことを意味します。
- 1はサインオン情報が表示されることを意味します。

QDYNPTYADJ

動的な優先度の調整。QDYNPTYADJシステム値は、対話式ジョブの優先順位を動的に調整して、ISERIESハードウェアでのバッチ・ジョブ処理を高パフォーマンスに維持するかどうかを制御しま

す。この調整機能が有効なのは、対話式および非対話式の両方のスループットが評価され、動的優先順位スケジューリングが使用可能になっているシステムの場合だけです。このシステム値に対する変更は、次のIPL で有効になります。

- 0は動的優先順位調整がオフにされることを意味します。
- 1は動的優先順位調整がオンにされることを意味します。

QDYNPTYSCD

動的優先順位スケジューラー。QDYNPTYSCDシステム値は、動的優先順位スケジューラーのアルゴリズムを制御します。この値によって動的優先順位スケジューリングを使用することができます。

- 0は、動的優先順位スケジューラーがオフであることを意味します。
- 1は、動的優先順位スケジューラーがオンであることを意味します。

QENDJOBLMT

ジョブの即時終了時にアプリケーションをクリーンアップするための最小時間（秒数）。

終了中のジョブに非同期信号SIGTERMのための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM信号が生成されます。SIGTERM信号のための信号処理プロシージャに制御が与えられた場合には、そのプロシージャでは、該当する処置を取って、部分的に更新されたアプリケーション・データなどの望ましくない結果を避けることができます。SIGTERM信号ハンドラーが指定された時間内に完了しない場合には、システムはジョブを終了します。

ジョブが制御された方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はコマンドに指定されます。ジョブが即時の方式で終了される場合には、SIGTERM信号ハンドラーの最大時間はこのシステム値によって指定されます。この時間制限は、1つのジョブの終了時、サブシステム内のすべてのジョブの終了時、またはすべてのサブシステムのすべてのジョブの終了時に使用されます。2分後に、システム操作員は、OPTION(*IMMED)を指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドを使用して、QENDJOBLMT値を一時変更し、それぞれの個別ジョブを即時に終了することができます。

この値に対する変更は即時に効力を持ちます。すでに終了中のジョブは影響されません。

QFRCCVNRST

復元時の強制変換。このシステム値を使用すると、プログラム、サービス・プログラム、SQLパッケージ、およびモジュール・オブジェクトを復元時に変換するかしないかを指定することができます。また、一部のオブジェクトを復元しないようにすることもできます。復元コマンドにおける省略時の値はこのシステム値の値を使用します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

- 0 何も変換しません。何も復元しないようにしません。
- 1 妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 2 オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要とするオブジェクトおよび妥当性検査エラーのあるオブジェクトが変換されます。
- 3 改ざんされていると考えられるオブジェクト、妥当性検査エラーのあるオブジェクト、およびオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要とするオブジェクトが変換されます。
- 4 変換に十分な作成データが入っていて有効なデジタル署名がないオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは変換されずに復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーション

グ・システムの現行バージョンで使用するために変換を必要としても変換できないオブジェクト（署名ありおよび未署名）は、復元されません。

- 5 十分な作成データが入っているオブジェクトが変換されます。十分な作成データが入っていないオブジェクトは復元されます。注: 妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。
- 6 有効なデジタル署名のないすべてのオブジェクトが変換されます。注: 有効なデジタル署名があり、さらに妥当性検査エラーがあるか、改ざんされていると考えられるか、あるいはオペレーティング・システムの現行バージョンで使用するために変換が必要であっても変換できないオブジェクトは、復元されません。
- 7 すべてのオブジェクトが変換されます。

オブジェクトを変換すると、そのデジタル署名は廃棄されます。変換されたオブジェクトの状態は、ユーザーの状態に設定されます。変換後は、オブジェクトは望ましい妥当性検査値を持ち、改ざんの懸念はありません。

QHOUR

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QHSTLOGSIZ

活動記録ログの各バージョンの最大レコード数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIGC システムの2バイト文字セット(DBCS)バージョンが導入されているかどうかを示します。この値は変更できません。

- 0はDBCSバージョンが導入されていないことを意味します。
- 1はDBCSバージョンが導入されていることを意味します。

QIGCCDEFNT

2バイト文字セット(DBCS)コード化フォント名。SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)に変換する時、およびデータにシフトイン/シフトアウト(SI/SO)文字が入っているAFPDSスプール・ファイルを作成する時に使用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIGCFNTSIZ

2バイト・コード化フォントのポイント・サイズ。システム値QIGCCDEFNT 2バイト・コード化フォントと一緒に使用されます。これが使用されるのは、SNA文字ストリング(SCS)を高機能印刷装置データ・ストリーム(AFPDS)に変形する時およびデータ内にシフト・イン/シフト・アウト(SI/SO)文字が存在しているAFPDSスプール・ファイルを作成する時です。

- *NONEは、ポイント・サイズがシステムに識別されないことを意味します。ポイント・サイズは、システムが使用する印刷装置のタイプを基にして選択します。
- 000.1 - 999.9は2バイト・コード化フォントのポイント・サイズを意味します。

QINACTIV

非活動状態の対話式ジョブのタイムアウト間隔(分数)。時間間隔が*NONE以外の値に変更されると、新しい非活動間隔が設定され、ジョブ非活動の分析が再び開始されます。システム値QINACTMSGQは、システムが行う処置を判別します。ターゲット・パススルーおよびTELNETセ

ッションの制約の説明については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「実行管理機能」情報を参照してください。

現在リモート・システムにサインオンされているローカル・ジョブは除外されます。たとえば、ワークステーションがシステムAに直接接続していて、システムAがQINACTIVに設定されているとします。システムBにサインオンするために表示装置パススルーまたはTELNETが使用された場合には、このワークステーションはシステムAで設定されたQINACTIV値による影響を受けません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEはシステムが非活動について検査を行わないことを意味します。
- 5 - 300は処置が取られる前にジョブが非活動状態でいられる時間（分数）を意味します。

QINACTMSGQ

QINACTMSGQが*NONEでない場合にジョブ非活動メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名。このメッセージ待ち行列が存在していなければ、システム値をメッセージ待ち行列名に変更することはできません。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *ENDJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが終了することを意味します。
- *DSCJOBは、対話式ジョブ、2次ジョブ、およびグループ・ジョブが切り離されることを意味します。
- メッセージ待ち行列名は、ジョブが非活動状態になった時にメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前です。

QIPLDATTIM

自動IPLの日付および時刻。このシステム値は各区画で個々に設定できます。2次区画で自動IPLを実行する必要がある時に1次区画の電源が遮断されている場合には、このIPLは実行されません。1次区画でIPLが実行される時、2次区画はそのIPLの日付および時刻が過ぎている場合は、IPLが実行されます。IPL処置が保留状態で構成されている場合には、2次区画のIPLは実行されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QIPLDATTIMは次の2つの部分から成る単一のシステム値です。

- 日付： システムでIPLが自動的に行われる日付。この日付は日付区切り記号を含まないQDATFMT形式で指定されます。
- 時刻： システムでIPLが自動的に行われる時刻。この時刻は時刻区切り記号なしで指定されません。

特定の日付と時刻の代わりに、時限自動IPLがスケジュールされないことを示す*NONEを指定することができます。

次の例は、IPLの日付と時刻を1993年9月10日(QDATFMTはMDY)の午前9時00分に変更する方法を示しています。

```
CHGSYSVAL SYSVAL(QIPLDATTIM) VALUE('091093 090000')
```

QIPLSTS

初期プログラム・ロード(IPL)状況標識。

- 0はコントロール・パネルのIPLを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。
- 2はIPLの再始動を意味します。

- 3はIPLの時刻を意味します。
- 4はリモートIPLを意味します。

QIPLTYPE

実行するIPLのタイプを示します。このシステム値に対して行われた変更は次回の手動IPL時に有効となります。

- 0は不在時IPLを意味します。
- 1は専用保守ツールによる在席IPLを意味します。
- 2はデバッグ・モードのコンソールによる在席IPLを意味します。

注: これを使用するとワークステーション制御装置上の他の装置が使用できなくなるので、問題分析のためだけにこれを使用するようにしてください。

QJOBMSGQFL

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯時の処置。このシステム値は、いっぱいになったと見なされた時のジョブ・メッセージ待ち行列の取り扱い方を指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *NOWRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しません。
- *WRAP -ジョブ・メッセージ待ち行列は折り返します。

QJOBMSGQMX

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ。このシステム値は、メッセージ待ち行列がいっぱいであると見なされる前にこの待ち行列をどれくらい大きさ（メガバイト数）にすることができるかどうかを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QJOBMSGQSZ

ジョブ・メッセージ待ち行列の初期サイズ（Kバイト(KB)数）。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBMSGQTL

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ(KB数)。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QJOBSPLA

ジョブのスプーリング制御ブロックの初期サイズ（バイト数）。このシステム値に対して行われた変更は、OS/400ライセンス・プログラムの導入時にコールド・スタートが要求された時に有効となります。

QKBDBUF

キーボード・バッファ。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがログオンした時に有効となります。

- *NOは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *TYPEAHEADは、先行入力機能をオンにするが、ATTNキー・バッファリング・オプションをオフにすることを意味します。
- *YESは、先行入力機能およびATTNキー・バッファリング・オプションをオンにすることを意味します。

QKBDTYPE

キーボード言語文字セット。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLANGID

省略時の言語識別コード。このシステム値に対する変更は、変更が行われた後で開始されるジョブに対して有効となります。

QLEAPADJ

うるう年の調整。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QLIBLCKLVL

ライブラリーのロック・レベル。ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーがそのジョブによってロックされるかどうかを指定します。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。

- 0は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをロックしないことを意味します。
- 1は、ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト中のライブラリーをそのジョブによってロックすることを意味します。

QLOCALE

ロケール・パス名。このシステム値は、システムのロケールを設定するために使用されます。ロケール・パス名は、ロケールを指定するパス名でなければなりません。ロケールは、1セットの言語規則を識別するために使用される言語、地域、およびコード・セットの組み合わせからなります。システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドのロケール・パス名に使用できるパスワードの最大長は1,024バイトです。

このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*NONEです。

- *NONEは、QLOCALEシステム値にロケール・パス名がないことを意味します。
- *Cは、Cロケールが使用されることを意味します。
- *POSIXは、POSIXロケールが使用されることを意味します。

QLMTDEVSSN

並行装置セッションを制限します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は複数装置でサインオンできることを意味します。
- 1は複数装置でサインオンできないことを意味します。

QLMTSECOFR

機密保護担当者の装置アクセスの制限。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーが任意のワークステーションにサインオンできることを意味します。
- 1は、*ALLOBJまたは*SERVICE特殊権限を持つユーザーがワークステーションに対して明示的な権限を持っていないなければならないことを意味します。

QMAXACTLVL

システムの最大活動レベル。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXJOB

システム上のジョブの許容最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMAXSGNACN

QMAXSIGNシステム値によって課された限界に達した時のシステムの応答。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

- 1は装置が使用禁止になることを意味します。

- 2はユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。
- 3は装置とユーザー・プロファイルが使用禁止になることを意味します。

QMAXSIGN

サインオンを試みて失敗しても許される最大回数。このシステム値に対して行われた変更は、次回に誰かがシステムにサインオンを試みた時に有効となります。

QMAXSPLF

ジョブ当たりで作成できるスプール・ファイルの最大数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。この値をより低い数に変更すると、スプール・ファイルは削除されなくなります。ジョブのスプーリングに対するこのシステム値の影響については、**PRINTER DEVICE PROGRAMMING**を参照してください。

QMCHPOOL

マシン記憶域プール・サイズ(KB数)。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMINUTE

分。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QMLTTHDACN

マルチスレッド・ジョブの処置。この値は、スレッド・セーフでない可能性がある機能がマルチスレッド・ジョブで呼び出される時に行う処置を制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は2です。

- 1はスレッド・セーフでない機能をメッセージの送信なしに実行することを意味します。
- 2はスレッド・セーフでない機能を通知メッセージを送信して実行することを意味します。
- 3はスレッド・セーフでない機能を実行しないことを意味します。

QMODEL

システムのモデル番号。システムのモデルを識別するために使用される数字または英字です。**QMODEL**を変更することはできませんが、ユーザー作成プログラム中で4桁の値を表示または検索することができます。システム・モデル番号のシステム値は、システム上の各区画で同じです。

QMONTH

月（年間通算日の場合には使用されない）。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPASTHRSVR

パススルー・サーバー。表示装置パススルー、**ISERIES ACCESS FOR WINDOWS**ワークステーション機能(WSF)、およびプログラム式ワークステーション上の他の5250エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能なターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*CALCです。

QPFRADJ

初期プログラム・ロード(IPL)時のパフォーマンスの調整および動的なパフォーマンスの調整。動的なパフォーマンスの調整は、共用記憶域プールの記憶域プール・サイズおよび活動レベルを自動的に変更します。私用記憶域プールは変更されません。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はパフォーマンス調整なしを意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。
- 1はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整は開始されません。

- 2はIPL時のパフォーマンス調整を意味します。動的なパフォーマンスの調整が開始されます。QPFRAJが2から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されません。
- 3は動的なパフォーマンスの調整が開始されることを意味します。QPFRAJが3から0または1に変更された場合には、動的なパフォーマンスの調整が停止されます。

ライブラリーQSYSにジャーナルQPFRAJを作成すれば、記憶域プール・サイズ、活動レベル、およびシステムのパフォーマンス・レベルに対して行われた変更は、その変更が行われた時に、動的調整プログラムによって記録されます（プール、プール・サイズ、および活動レベルごとの障害率）。

QPRBFTR

問題フィルター名。問題の処理時にサービス活動マネージャーが使用するフィルター・オブジェクトの名前を指定します。このシステム値に対する変更は即時に有効となります。

QPRBHLDTV

問題ログ項目保留間隔。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QPRCFEAT

プロセッサ機構。これはシステムのプロセッサ機構コード・レベルです。QPRCFEATを変更することはできませんが、ユーザー作成プログラムで4桁の値を表示または検索することはできません。プロセッサ機構システム値は、システムの各区画で同じです。

QPRCMLTTSK

プロセッサ・マルチタスキング。システム上のハードウェアがプロセッサ・マルチタスキングをサポートしている場合は、このシステム値によってマルチタスキング機能をオン、オフ、またはシステム制御にすることができます。使用可能になっていると、タスク・データの複数セットが各CPU内に常駐することになります。作業負荷によっては、キャッシングによってパフォーマンスが向上する場合があります。**注:**オペレーティング・システムは、ハードウェアがマルチタスキングをサポートしていないことを検出すると、次のIPL時にシステム値を0に設定します。この値をシステム制御に設定すると、システムがマルチタスキングを管理することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 0はプロセッサ・マルチタスキングがオフにされることを意味します。
- 1はプロセッサ・マルチタスキングがオンラインにされることを意味します。
- 2はプロセッサ・マルチタスキングがシステム制御下にあることを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QPRTDEV

省略時の印刷装置記述。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QPRTKYFMT

ページ印刷キー形式。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *PRTHDRは、ページ印刷キーが押された時に見出し情報が印刷されることを意味します。
- *PRTBDRは、ページ印刷キーが押された時に枠情報が印刷されることを意味します。

- *PRTALLは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されることを意味します。
- *NONEは、ページ印刷キーが押された時に枠情報および見出し情報が印刷されないことを意味します。

QPRTTXT

リストおよび分離ページの最下部に印刷できる最大30文字のテキスト。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QPWDEXPITV

パスワードが有効な日数。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NOMAXは、パスワードを使用できる日数に制限がないことを意味します。
- 1-366はパスワードが終了する前の日数を意味します。

QPWDLMTAJC

パスワードに隣接した番号を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は隣接番号が使用できることを意味します。
- 1は隣接番号が使用できないことを意味します。

QPWDLMTCHR

パスワードにある種の文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- *NONEは制限文字がないことを意味します。
- 制限文字は、10文字以内の制限文字をアポストロフィで囲んで指定できることを意味します。有効な文字は次の通りです。A-Z, 0-9, および特殊文字#, ¥, @, または下線(_)

注：システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、このシステム値は無視されます。

QPWDLMTREP

パスワードに繰り返し文字を使用することを制限します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は文字を複数回使用できることを意味します。
- 1は文字を複数回使用できないことを意味します。

QPWDLVL

パスワード・レベルを指定します。

このシステム値の変更には、慎重な考慮が必要です。システムがネットワーク内の他のシステムに接続される場合には、すべてのシステムが、有効になるパスワード規則で実行できなければなりません。

このシステム値を変更する前に、追加の考慮事項について、資料OS/400機密保護解説書を参照してください。

このシステム値に対する変更は、次のIPL時に有効になります。

- 0は、1 - 10文字のパスワードが使用できることを意味します。
- 1は、1 - 10文字のパスワードが使用できることを意味します。WINDOWS 95/98/MEクライアント用のISERIES NETSERVERパスワードは、このプロダクトを使用不能にしようとしているシステムから除去されることとなります。
- 2は、1 - 128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。

- 3は、1 - 128文字のパスワードが使用できることを意味します。パスワードは任意の文字で構成でき、大文字小文字は区別されることとなります。WINDOWS 95/98/MEクライアント用のISERIES NETSERVERパスワードは、このプロダクトを使用不能にしようとしているシステムから除去されることとなります。

QPWDMAXLEN

パスワードの最大文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1 - 128は、1 - 128の値をパスワードの最大文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1 - 10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1 - 128です。

QPWDMINLEN

パスワードの最小文字数。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 1 - 128は、1 - 128の値をパスワードの最小文字数として指定できることを意味します。

システムがQPWDLVL 0または1で作動中の場合には、有効範囲は1 - 10です。システムがQPWDLVL 2または3で作動中の場合には、有効範囲は1 - 128です。

QPWDSIDIF

新しいパスワードの中の文字の位置を制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できることを意味します。
- 1は、前のパスワード中の同じ位置と対応する位置に同じ文字を使用できないことを意味します。

QPWDRQDDGT

新しいパスワードに数字が必要。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0は番号が必要でないことを意味します。
- 1は1つまたは複数の数字が必要であることを意味します。

QPWDRQDDIF

パスワードが前のパスワードと異なるものでなければならぬかを制御します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。

- 0はパスワードは前に使用されたものと同じでもよいことを意味します。
- 1はパスワードが前の32個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 2はパスワードが前の24個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 3はパスワードが前の18個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 4はパスワードが前の12個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 5はパスワードが前の10個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 6はパスワードが前の8個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 7はパスワードが前の6個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。
- 8はパスワードが前の4個のパスワードと異なるものでなければならぬことを意味します。

QPWDVLDPGM

パスワード妥当性検査プログラムは、ユーザー作成プログラムがパスワードに対して追加の妥当性

検査を行う機能を提供します。このシステム値に対して行われた変更は、次回にパスワードが変更された時に有効となります。詳細については、パスワード妥当性検査プログラムを参照してください。

QPWRDWNLMT

PWRDWNLSYS *IMMEDに許される最大時間（秒数）。これは、次のいずれかが行われた後で電源遮断の正常完了を待機するために使用される時間です。

- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDを指定したシステム電源遮断 (PWRDWNLSYS)コマンドが入力された。
- 終了方法 (OPTION)パラメーターに*CNTRLDを指定したPWRDWNLSYSコマンドが入力され、制御された終了遅延時間 (DELAY)パラメーターに指定された時間が終了した。

この値に対する変更は、PWRDWNLSYSコマンドが入力された時に有効となります。

QPWRRSTIPL

電源復元後の自動初期プログラム・ロード(IPL)が可能になります。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- 0は電源復元後の自動IPLが行われなことを意味します。
- 1は電源復元後の自動IPLを意味します。

区画に分割されたシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画またはハードウェア管理コンソールからだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QQRVDEGREE

QUERY並列処理の程度。この値は、システムのユーザーに使用可能な並列処理の程度を指定します。

- *NONEは、データベースQUERY処理またはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成で並列処理が使用可能でないことを意味します。
- *IOは、データベースQUERY最適化プログラムがQUERYに入出力並列処理を使用することを選択した時に、いくつでもタスクを使用できることを意味します。データベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成時を含め、SMP並列処理は行うことができません。
- *OPTIMIZEは、QUERYあるいはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成を処理するためにQUERY最適化プログラムが入出力またはSMP並列処理のためにいくつでもタスクを選択して使用できることを示します。並列処理の使用および使用タスクの数は、ジョブの実行プールで使用可能なプロセッサの数、およびQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスの作成または再作成の予想経過時間がCPU処理または入出力資源によって制限されるかどうかに基づいて決定されます。
- *MAXは、QUERY最適化プログラムがQUERYを処理するために入出力並列処理またはSMP並列処理のいずれかを使用するように選択できることを意味します。QUERY最適化プログラムによって行われる選択は、値*OPTIMIZEの場合と似ていますが、最適化プログラムはQUERYまたはデータベース・ファイルのキー順アクセス・パスのビルドまたは再ビルドを処理するためにプールで活動状態のすべてのメモリーを使用できるものと見なします。

QQRVTLMT

QUERY処理時間制限。

- *NOMAXは、最大QUERY間隔が使用されることを意味します。
- 0-2147352578は、QUERY処理に使用可能な秒数を示します。

QRCLSPLSTG

空のスプール・メンバーの自動削除は、メンバー保存間隔に基づいて許されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *NONEは保存間隔がないことを意味します。

注: この値を使用すると、システム・パフォーマンスに悪い影響を及ぼすことがあります。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックを参照してください。

- *NOMAXは空のメンバーがすべて保存されることを意味します。
- 1-366は、新しいスプール・ファイルの使用に備えて空のスプール・メンバーが保存される日数を意味します。

QRETSVRSEC

サーバー機密保護データ保存標識。この値は、クライアント/サーバー・インターフェースを介してターゲット・システムのユーザーを認証するためにサーバーが必要とする機密保護データがこのシステムに保存できるかどうかを決定します。

- 0は、サーバー機密保護データが保存されないことを意味します。
- 1は、サーバー機密保護データが保存されることを意味します。

QRMTSRVATR

リモート・サービス属性。QRMTSRVATRシステム値は、リモート・サービス問題分析機能を制御します。この値により、システムをリモート分析することができます。

- 0は、リモート・サービス属性がオフであることを意味します。
- 1は、リモート・サービス属性がオンであることを意味します。

QRMTIPL

リモート電源オンおよびIPL標識。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0はリモート電源オンおよびIPLが許されないことを意味します。
- 1はリモート電源オンおよびIPLが許されることを意味します。

注: 電話呼び出しを行うとシステムのIPLが行われます。

区画に分割されたシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画またはハードウェア管理コンソールからだけです。1次区画と同時に2次区画がIPLされるかどうかは、IPL処置に対する2次区画の構成値によって決まります。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QRMTSIGN

リモート・サインオンを制御します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *FRCSIGNONは通常のサインオンが必要なことを意味します。
- *SAMEPRFは、ソース・ユーザー・プロファイルとターゲット・ユーザー・プロファイルが同じ時には、リモート・サインオンが試みられるようにサインオンをう回できることを意味します。

- *REJECTはリモート・サインオンが許されないことを意味します。
- *VERIFYは、システムが、ユーザーがシステムにアクセスできることを確認した後で、ユーザーがサインオンをう回できるようにすることを意味します。
- プログラムは、どのリモート・セッションが許され、どのロケーションからどのユーザー・プロフィールに自動的にサインオンできるかどうかを決定するプログラムを指定できることを意味します。

QSAVACPTH

アクセス・パスの保管。このシステム値に対して行った変更は、次の保管操作の開始時に有効となります。

- 0は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスは保管しないことを意味します。
- 1は、保管しようとしている物理ファイルに從属する論理ファイル・アクセス・パスを保管することを意味します。

QSCANFS

ファイル・システムのスキャン。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、オブジェクトがスキャンされる統合ファイル・システムを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンを参照してください。

QSCANFCTL

ファイル・システムのスキャンの制御。このシステム値は、出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点のいずれかによって登録された場合に、システム上の統合ファイル・システムのスキャンを制御します。これらの制御は、QSCANFS（ファイル・システムのスキャン）システム値によって取り扱われるファイル・システム内の統合ファイル・システム・オブジェクトに適用されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、ファイル・システムのスキャンの制御を参照してください。

QSCPFCONS

コンソールに問題のある場合のIPL処置。このシステム値に対して行われた変更は次のIPLの前に有効となります。

- 0はシステム終了を意味します。
- 1は不在時IPLの続行を意味します。

QSECOND

秒。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QSECURITY

システム機密保護レベル。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

- 20はシステムがサインオンにパスワードを必要とすることを意味します。
- 30はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。すべてのシステム資源にアクセスできる権限が必要です。
- 40はサインオン時のパスワードによる機密保護および各アクセスでのオブジェクト機密保護を意味します。サポートされていないインターフェースを介してオブジェクトにアクセスしようとするプログラムは、正常に実行されません。
- 50は、システムがサインオンにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム資源にアクセスできる権限を持っていないなければならないことを意味します。QTEMPライブラリーおよびユーザー・ドメイン・オブジェクトの機密保護と健全性が強制されます。サポートされ

ていないインターフェースを通してオブジェクトにアクセスを試みるプログラムや、サポートされていないパラメータ値をサポートされているインターフェースに渡そうとするプログラムは、正常に実行されません。

QSFWERRLOG

ソフトウェア・エラー・ログ。システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *LOGは、システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録され、問題分析解決可能メッセージがQSYSOPRに送られ、問題ログに項目が作成されることを意味します。報告書作成構成要素がエラー・データを提供する場合には、そのデータを入れるためにスプール・ファイルが作成されます。そのスプール・ファイル名はエラー・ログおよび問題ログの項目に記憶されます。
- *NOLOGは、システム検出のソフトウェア問題がエラー・ログに記録されないことを意味します。

QSHRMEMCTL

共用メモリー制御。ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できるか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できるかどうかを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- 0は、ユーザーがユーザー共用メモリーを使用できないか、あるいは書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できないことを意味します。
- 1は、ユーザーがユーザー共用メモリー、または書き込む能力があるマップされたメモリーを使用できることを意味します。

QSPCENV

特殊環境。すべてのユーザーについて省略時の値として使用されるシステム環境。このシステム値に対して行われた変更は、次回にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NONEは、サインオンした時に特殊環境に入らないことを意味します。
- *S36は、サインオンするとシステム/36環境に入ることを意味します。

QSPLFACN

スプール・ファイル処置。スプール・ファイルがジョブとともに保持されるか、あるいはジョブから切り離されるかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB)コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。スプール・ファイルをジョブから切り離すと、ジョブ終了時にジョブ構造を再生できるので、システム資源の使用が削減されます。このシステム値に対する変更は、変更後に活動状態になるすべてのジョブに有効になります。出荷時の値は*KEEPです。

- *KEEPは、ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2-32)に存在している場合には、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されることを意味します。そのジョブの残りのすべてのスプール・ファイルが独立ASP (ASP 33-255)にあった場合には、スプール・ファイルがジョブから切り離され、そのジョブはシステムから除去されます。
- *DETACHは、ジョブの終了時にスプール・ファイルがジョブから切り離されることを意味します。

QSRLNBR

システム製造番号。この値は変更できません。これは、OS/400ライセンス・プログラムの導入時に、システムによってデータ・フィールドから検索されます。QSRLNBRを表示するか、あるいはユーザー作成プログラム中でこの値を検索することができます。システム製造番号はシステム上の各区画で同じです。

QSRTSEQ

分類順序。このシステム値は、システムが使用する省略時の分類順序アルゴリズムを指定します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QSRVDMP

保守ダンプ。監視されないエスケープ・メッセージの保守ダンプが作成されるかどうかを示します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

- *DMPUSRJOBは、保守ダンプがシステム・ジョブではなくユーザー・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。
- *DMPSYSJOBは、保守ダンプがユーザー・ジョブではなくシステム・ジョブの場合にのみ作成されることを意味します。システム・ジョブには、オペレーティング・システム、サブシステム・モニター、LUサービス・プロセス、スプール読み取りプログラムおよび書き出しプログラム、それにSCPFジョブがあります。
- *DMPALLJOBは、すべてのジョブについて保守ダンプが作成されることを意味します。
- *NONEは、保守ダンプが作成されないことを意味します。

QSTGLOWACN

補助記憶域の下限の処置。システムASP中の使用可能な記憶域が補助記憶域の下限より低くなった場合にとるべき処置を指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*MSGです。

- *MSG: メッセージCPI099CをQSYSMSGおよびQSYSOPRメッセージ待ち行列に送ります。このメッセージは、他の処置の場合にも送られます。
- *CRITMSG: 重大メッセージCPI099Bを、重大メッセージを受け取るためにサービス属性に指定されたユーザーに送ります。
- *REGFAC: QIBM_QWC_QSTGLOWACN出口点用に登録された出口プログラムを呼び出すためにジョブを投入します。
- *ENDSYS: システムを終了して制限状態にします。
- *PWRDWN SYS: システムの電源を即時に遮断して、再始動します。

QSTGLOWLMT

補助記憶域の下限。補助記憶域の下限の処置がとられる時にシステムASP中に残されている使用可能な記憶域のパーセントを指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は5.0です。

- 下限: QSTGLOWACNに指定された処置がとられる時にシステムASP内に残っている使用可能な記憶域のパーセント。システムASP内で現在使用されている記憶域のパーセントは、システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドによって表示することができます。

QSTRPRTWTR

初期プログラム・ロード(IPL)時における印刷書き出しプログラムの開始。このシステム値は、IPL時にシステムによって設定されるか、あるいはIPLオプション画面でユーザーによって設定されます。このシステム値は、システム値変更 (CHGSYSVAL)コマンドを使用して変更することはできません。

- 0は印刷書き出しプログラムが開始されなかったことを意味します。
- 1は印刷書き出しプログラムが開始されたことを意味します。

QSTRUPPGM

制御サブシステム中の自動始動ジョブからの始動プログラム名。オブジェクト名とライブラリー名の両方を指定することができます。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QSTSMMSG

状況メッセージが表示されるかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、次にユーザーがシステムにサインオンした時に有効となります。

- *NORMALは状況メッセージが表示されることを意味します。
- *NONEは状況メッセージが表示されないことを意味します。

QSVRAUTIV

サーバー認証間隔。オペレーティング・システムはもはやこのシステム値を使用しません。このシステム値に対して行われた変更は何の効果も及ぼしません。

QSYSLIBL

ライブラリー・リストのシステム部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QTHDRSCADJ

スレッド資源の調整。このシステム値は、このシステムで現在実行中のスレッドの特定のプロセッサおよびメモリーに対する類縁性または設定をシステム動的に調整する必要があるかどうかを指定します。一部の資源が他の資源より多く使用されている場合に、システムは、より多く使用されている資源で実行中のスレッドの一部を再割り当てして、さほど多く使用されていない資源への類縁性を持たせることができます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は'1'です。

- '0'はシステムによるスレッドの自動調整は行われなことを意味します。スレッドは、それらが終了するかまたはシステム値が変更されるまで、現在割り当てられている資源への類縁性を持ち続けます。
- '1'は、スレッドのシステムの資源への類縁性の調整が動的に行われることを意味します。これによって、スレッド内の類縁性のグループおよびレベルが変更されることはありません。

QTHDRSCAFN

スレッド資源の類縁性。特定のプロセッサおよびメモリーへのスレッドの類縁性または設定。このシステム値に対して行われた変更は、変更の後に開始されたジョブのスレッドには即時に有効となりますが、現在実行中のスレッドには効力を持ちません。

- *NOGROUP - 2次スレッドには、必ずしもその開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性はありません。
- *GROUP - 2次スレッドは、その開始スレッドと同じプロセッサおよびメモリーのグループへの類縁性をもちます。

スレッド資源の類縁性レベルは、次の値に設定することができます。

- *NORMAL -スレッドは、それが類縁性を持つ資源が容易に使用可能でなくなった場合に、任意のプロセッサまたはメモリーを使用します。
- *HIGH -スレッドは、それが類縁性を持つ資源のみを使用し、必要な場合は、それらの資源が使用可能になるまで待機します。

QTIMADJ

時間調整。このシステム値は、システム・クロックが外部時間ソースと同期を保つように調整するソフトウェアを識別するために使用することができます。この値は、時間調整ソフトウェアによ

て保守する必要がある、複数の時間調整アプリケーションが相互に競合するのを防ぐ援助機能として意図されたものです。この値の確認、あるいはそのソフトウェアが時間調整を実行するかどうかを確認するための検査は、システムによって行われません。IBM時間調整オフリングは、「QIBM_OS400_SNTF」のように、QIBMで始まる識別コードを使用します。その他のソフトウェア提供者も、会社名および製品名と類似の命名規則に従っているはずです。

時間調整ソフトウェアは、開始前にQTIMADJを検査するものでなければなりません。QTIMADJが他の時間調整ソフトウェアの識別コードを持っていた場合には、開始されているソフトウェアは、必ずこの潜在的な競合をユーザーに通知してくるので、この時間調整ソフトウェアを開始する必要があるかどうかを確認してください。QTIMADJが*NONEである場合には、ソフトウェアは、QTIMADJを更新し、現在はそれにシステム・クロックを調整する責任があることを識別するものでなければなりません。時間調整ソフトウェアは、終了前にQTIMADJを検査するものでなければなりません。QTIMADJを*NONEに設定するのは、現在の値が終了中のこの時間調整ソフトウェアを識別する場合だけにしてください。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。出荷時の値は*NONEです。

- *NONE -時間調整ソフトウェアは識別されていないことを指示します。
- 識別コード-システム・クロックの調整に使用されるソフトウェアを識別します。

QTIME

時刻。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTIMSEP

時刻区切り記号。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

この値は、時刻区切り記号として*SYSVALが指定されたジョブに影響します。コマンドに時刻を指定する時には、ユーザーは、自分のジョブに指定された時刻区切り記号を使用するか、あるいは時刻区切り記号を使用しないか、このどちらかにしなければなりません。ジョブの時刻区切り記号と異なる時刻区切り記号を使用してコマンドに時刻を指定した場合には、そのコマンドは正常に実行されません。

QTIMZON

時間帯。これは、ローカル・システム時間を計算するために使用される時間帯記述の名前を指定します。別の時間帯へ記述の変更は、この新規時間帯記述と関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

QTOTJOB

記憶域を割り振らなければならないジョブの合計数。このシステム値に対して行われた変更は、次のIPL時に有効となります。

QTSEPOOL

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にその対話式ジョブを別の主記憶域プールに移動するかどうかを示します。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

- *NONEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されないことを意味します。
- *BASEは、タイム・スライスの終わりに達した時にジョブが移動されることを意味します。

QUPSDLYTIM

補助電源機構の遅延時間。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

- *BASICは、PRC、IOPカード、およびIPL装置ディスクのみに電源を投入します。

- *CALCは、該当する待機時間が計算されることを意味します。
- *NOMAXは、システムが自分からいかなる処置も開始しないことを意味します。
- 0は、システム通常電源に障害が起こった時にシステムが自動的に電源遮断することを意味します。
- 1-99999は、システムが電源遮断する前の遅延時間（秒数）を指定することを意味します。

区画に分割された一部のシステムでは、このシステム値を変更できるのは1次区画からだけです。

区画の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「論理区画」トピックを参照してください。

QUPSMGQ

補助電源機構メッセージのメッセージ待ち行列。このシステム値に対して行われた変更は、次回に電源障害が起こった時に有効となります。

QUSEADPAUT

借用権限の使用(USEADPAUT(*YES))属性によってプログラムおよびサービス・プログラムを作成、変更、および更新できるユーザーを定義します。プログラムまたはサービス・プログラムが*YESの借用権限の使用属性を持っている場合には、そのプログラム/サービス・プログラムは、呼び出しスタック中の高位のプログラム/サービス・プログラムから渡されるどの借用権限でも使用することができます。

このシステム値は次のものには影響しません。

- USEADPAUT(*YES)属性で作成された既存のプログラム/サービス・プログラム。既存のプログラム/サービス・プログラムをUSEADPAUT(*NO)に変更しなければならないかどうかは、ユーザーが決定しなければなりません。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの復元。こうしたプログラムは、ユーザーのシステムには復元することができます。
- 借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムの複製。既存のプログラム/サービス・プログラムのUSEADPAUT属性が新しいオブジェクトにコピーされます。

次の値を指定することができます。

- *NONEは、借用権限を使用するプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるユーザーに制限がないことを意味します。どのユーザーでもUSEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新することができます。
- 「名前」は、USEADPAUT(*YES)属性を設定できるユーザーを制御する権限リストの名前を指定できることを意味します。USEADPAUT(*YES)属性を持つプログラム/サービス・プログラムを作成、変更、または更新できるようになるためには、ユーザーは権限リストに対する*USE権限を必要とします。権限リストに対する権限は、借用権限から取ることはできません。すなわち、権限を借用するプログラムを実行している場合には、権限リストに対する権限を検査する時には、借用権限は使用されません。

QUSRLIBL

ライブラリー・リストのユーザー部分。このシステム値に対して行われた変更は、変更が行われた以後に開始されるジョブに対して有効となります。

QUTCOFFSET

現在のシステム時刻と協定世界時(UTC)のオフセットである時間数(24時間形式) および分数を示します。

- +HHMMは、現在のシステム時刻がUTCよりHH時間MM分進んでいることを意味します。
- -HHMMは、現在のシステム時刻がUTCにHH時間MM分遅れていることを意味します。

注: このシステム値は、システム値QTIMZONに指定された時間帯記述と関連したオフセットと同じでなければなりません。QTIMZONの別の時間帯記述への変更は、関連した別のオフセットという結果になる可能性があります。システム値QUTCOFFSETは、この新規オフセットとも一致するように変更されます。QUTCOFFSETは、現在QTIMZONと関連しているオフセットと異なる値に変更することはできません。それを行おうとすると、診断メッセージCPD1687が出されます。

QVfyOjRST

復元時のオブジェクトの検査。このシステム値は、復元操作中のオブジェクト署名の検査に使用されるポリシーを指定します。この値は次のタイプのオブジェクトに適用されます: *CMD, *PGM, *SRVPGM, *SQLPKGおよび*MODULE。また、JAVAプログラムが入る*STMFオブジェクトにも適用されます。この値は、また、ライセンス内部コードの修正を含むシステムにPTFを適用するポリシーも指定します。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。詳細については、復元時のオブジェクトの検査を参照してください。

QYEAR

年。このシステム値に対して行った変更は即時に有効となります。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPSYSVALの例

DSPSYSVAL SYSVAL(QHOUR)

このコマンドは、システム値QHOURの現行値を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPSYSVAL

*ESCAPE メッセージ

CPF1028

パラメーターSYSVALには、&1は正しくない。

CPF1074

SYSVAL(QMONTH)が年間通算日形式に対して正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

テープ表示 (DSPTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ表示(DSPTAP)コマンドは、標準ラベル付きテープに含まれているボリューム・ラベルおよびデータ・ファイル・ラベル情報、あるいはボリューム・タイプおよび密度を示します。この情報は印刷装置で書き出すか、あるいは表示装置で表示することができます。データ・タイププロンプト(DATAパラメーター)で*SAVRSTを指定して、テープ・ファイルに保管された各オブジェクトの記述を含む追加の情報および保管されたオブジェクトについての要約情報を表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
LABEL	ファイル・ラベル	文字値, *ALL	オプション
SEQNBR	順序番号	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ファイル順序番号	1-16777215, *FIRST	
	要素 2: 終了ファイル順序番号	1-16777215, *ONLY, *LAST	
DATA	データ・タイプ	*LABELS, *SAVRST	オプション
OUTPUT	出力	_, *PRINT, *OUTFILE	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *UNLOAD	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

装置 (DEV)

表示されるボリュームがあるテープまたは媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

表示されるテープ・ボリュームを指定します。

注: 指定された装置が媒体ライブラリー装置である場合には、指定されたボリュームは取り付けて使用するカートリッジ識別コードとする必要があります。

考えられる値は、次の通りです。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。

ボリューム識別コード

ラベルつきボリュームのボリューム識別コードを指定してください。テープから読み取られたボリューム識別コードがこの値と比較されます。指定したボリューム識別コードがテープに見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

ファイル・ラベル (LABEL)

ラベルが表示されるテープ上のデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コードを指定します。このデータ・ファイル識別コードは、このラベル内のこのファイルのデータの前に記憶されます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** テープ装置プロンプト(DEVパラメーター) に指定されたテープ上のすべてのデータ・ファイル識別コードが表示されます。

データ・ファイル識別コード

ラベル情報が表示されるデータ・ファイルのデータ・ファイル識別コード (最大17文字の英数字) を指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

複数ファイルのボリュームの場合に、ラベル情報が表示されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号の範囲を指定します。ファイル・ラベルプロンプト(LABELパラメーター) に*ALLが指定されている場合には、指定された順序番号の範囲内のファイルのすべてのラベルが指定された開始ファイル順序番号の後に表示されます。

特定のLABEL識別コードを指定した場合には、それが開始順序番号で指定されたデータ・ファイルのラベル識別コードと比較されます。識別コードが一致しない場合には、エラー・メッセージが送られます。

このパラメーターは、2つの値のリスト（要素1と要素2）として、あるいは単一値(*ALL)として指定することができます。

要素1: 開始ファイル順序番号

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

表示されるデータ・ファイル・ラベルはテープ上の最初のファイル（または唯一のファイル）からです。

開始ファイル順序番号

有効な順序番号の範囲は1 - 16777215です。指定した開始ファイル順序番号がテープ上に見つからない場合には、エラー・メッセージが送られます。

要素2: 終了ファイル順序番号

***LAST** 表示されるデータ・ファイル・ラベルの範囲は、指定した開始ファイル順序番号で始まり、テープ上の最後のデータ・ファイル・ラベルで終わります。

***ONLY**

開始順序番号で指定されたファイルだけが表示されます。

ファイルの終了順序番号

有効な順序番号の範囲は1 - 16777215です。指定する終了ファイル順序番号は、開始ファイル順序番号より大きいか、それに等しくなければなりません。

注: 対話式ジョブのOUTPUT(*)の場合、終了ファイル順序番号は無視されます。ユーザーは制御権を持ち、必要に応じて情報の表示を続行したり、終了したりできます。

注: 特定のLABEL識別コードが指定された場合には、終了ファイル順序番号は無視されます。

他の単一値

***ALL** テープ上のすべてのデータ・ファイルが表示されます。

[トップ](#)

データ・タイプ (DATA)

表示される情報のタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LABELS**

ボリューム・ラベルおよびデータ・ファイル・ラベルが表示されます。

***SAVRST**

コマンドおよび保管した各オブジェクトの要約情報を表示します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

注：保管(SAV)コマンドで作成されたテープ上のそれぞれのファイルは、別のリストとして印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされません。

考えられる値は、次の通りです。

*REWIND

操作の終了後にテープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*UNLOAD

テープは、操作の終了後に自動的に巻き戻されてアンロードされます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ・ファイルについての情報を送る先のデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルを作成する場合には、システムはQSYS内のQATADOFを様式名QTADOUTFを持つモデルとして使用します。

注：このパラメーターが有効なのは、OUTPUT(*OUTFILE)およびDATA(*LABELS)が指定されている場合だけです。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

データベース・ファイル名

使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

可能な出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

メンバーに対して実行する操作の使用可能な値は次の通りです。

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

***ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

[トップ](#)

DSPTAPの例

```
DSPTAP  DEV(QTAPE2) LABEL(*ALL)
```

このコマンドは、QTAPE2という名前のテープ装置にあるテープ・ボリューム上のボリューム・ラベルおよびファイル・ラベルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPTAP

***ESCAPE** メッセージ

CPD375A

保管媒体で媒体エラー。

CPF3704

要求が終了した。データ管理エラーが起こっています。

CPF3743

ファイルを復元、表示またはリストすることができない。

CPF3792

情報は表示されなかった。エラーが起こった。

CPF3793

マシンの記憶域限界に達した。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

CPF6723

装置&1のボリューム&2にファイルが見つからない。

CPF6724

ファイル・ラベル&5がボリューム&2に見つからなかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF6751

装置&4でロードの障害が起こった。

CPF6760

装置&1の準備ができていない。

CPF6772

装置&1のボリュームを処理することができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

テープ・カテゴリーの表示 (DSPTAPCGY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カテゴリー表示(DSPTAPCGY)コマンドによって、ユーザーはテープ・カテゴリー作成(CRTTAPCGY)コマンドによって定義されたカテゴリーを表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* <u>_,</u> *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 1
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、出力ファイルに印刷するか、ジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。ファイルはデータベース・ファイルQATACOFと同じ形式でなければなりません。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ・ボリュームについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成される場合には、システムはQSYS中のQTACOUTFという様式名を持つQATACOFをモデルとして使用します。このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている時だけです。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

「出力を受け取るメンバー」に使用可能な値は次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

「メンバーに対して実行する操作」の使用可能な値は次の通りです。

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

***ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

[トップ](#)

DSPTAPCGYの例

DSPTAPCGY OUTPUT(*)

このコマンドは、このシステム上のユーザー定義のカテゴリをワークステーション画面に表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPTAPCGY

*ESCAPE メッセージ

CPF67E4

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

[トップ](#)

テープ・カートリッジの表示 (DSPTAPCTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カートリッジ表示(DSPTAPCTG)コマンドは、テープ・カートリッジの属性を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
CTG	カートリッジID	単一値: *ALL その他の値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値	オプション
CGY	カテゴリー	単一値: *SHARE400, *INSERT, *EJECT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリー名	文字値, *ALL , *NOSHARE, *IPL, *NL, *SYSGEN, *CNV	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, *CURRENT , *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	

[トップ](#)

ライブラリー装置 (DEV)

使用されるライブラリー装置の名前を指定します。この装置名は、装置媒体ライブラリー作成 (CRTDEVMLB)コマンドを使用して、システム上に前に作成されていなければなりません。

[トップ](#)

カートリッジID (CTG)

表示される1-40のカートリッジ識別コードを指定します。

注: カートリッジ識別コードは、ライブラリー装置に外部識別コードを読み取るバーコード・スキャナーがある場合には、外部識別コードを表すものでなければなりません。

***ALL** 指定された装置またはカテゴリーのすべてのテープ・カートリッジが表示されます。

総称 * カートリッジ識別コード

カートリッジ識別コードの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前を持つすべてのカートリッジ識別コードを指定します。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なカートリッジ識別コードと見なします。

カートリッジ識別コード

カートリッジ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

カテゴリー (CGY)

表示されるテープ・カートリッジのカテゴリーを指定します。

カテゴリー名の値として指定できる値は次の通りです。

***ALL** CTGパラメーターに指定されたカートリッジ識別コードを見つけるためにすべてのカテゴリーが検索され、そのすべてが表示されます。

***NOSHARE**

*NOSHAREカテゴリー中のカートリッジ識別コードが表示されます。この識別コードのカートリッジは他のシステムと共用することができません。

***IPL** *IPLカテゴリー中のすべてのカートリッジ識別コードが表示されます。この識別コードのカートリッジは代替IPLに使用することができます。

***NL** *NLカテゴリー中のすべてのカートリッジ識別コードが表示されます。この識別コードのカートリッジはラベルなしテープとして使用されます。

***SYSGEN**

*SYSGENカテゴリーのカートリッジ識別コードが表示されます。ライブラリー装置が*SYSGENモードになっている場合には、カートリッジは*SYSGENカテゴリーから移動できません。

***CNV** *CNVカテゴリー中のカートリッジ識別コードが表示されます。このカテゴリー中のカートリッジは、コンビニエンス端末で使用されます。

カテゴリー名

ユーザー定義のカテゴリーの名前を指定してください。このカテゴリー名は、前にテープ・カテゴリー作成(CRTTAPCGY)コマンドで作成されていなければなりません。

カテゴリー・システムとして指定できる値は次の通りです。

この要素は、カテゴリーが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中システム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****

システム名を変更した場合には、ライブラリー装置中のすべてのテープ・カートリッジと関連した

ライブラリー装置内のカートリッジが無効になります。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステム。

***ALL** このコマンドを実行中のシステムに使用可能なカテゴリを所有するすべてのシステム名が使用されます。

システム名

カテゴリが所属するシステムの名前を指定してください。

可能な単一値は次の通りです。

***SHARE400**

*SHARE400カテゴリ中のカートリッジ識別コードが表示されます。このカテゴリのカートリッジは、同じ装置に接続された他のシステムと共用することができます。

***INSERT**

*INSERTカテゴリ中のすべてのカートリッジ識別コードが表示されます。このカテゴリのカートリッジはライブラリー装置に入っていますが、その識別コードはまだシステムに追加されていません。

***EJECT**

*EJECTカテゴリ中のすべてのカートリッジ識別コードが表示されます。このカテゴリのカートリッジはその識別コードがシステムから除去されているので以後使用することができません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、出力ファイルに印刷するか、ジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。ファイルは、データベース・ファイルQSYS/QATAVOFと同じ様式でなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ・ボリュームについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルが作成される場合には、システムはモデルとして様式名QTAVOLOFでQSYSのQATAVOFを使用します。

注: このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている時だけです。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

「出力を受け取るメンバー」に使用可能な値は次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。この値が指定されていてそのメンバーが存在しない場合には、システムは、OUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

「メンバーに対して実行する操作」の使用可能な値は次の通りです。

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

***ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

トップ

DSPTAPCTGの例

例1: *SHARE400カテゴリーのテープ・カートリッジの表示

```
DSPTAPCTG  DEV(LIB01)  CGY(*SHARE400)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、*SHARE400カテゴリーのすべてのテープ・カートリッジの属性をワークステーション画面に表示します。

例2: VOL3のテープ・カートリッジの表示

```
DSPTAPCTG  DEV(LIB01)  CTG(VOL3)  OUTPUT(*)  CGY(*ALL)
```

このコマンドは、カートリッジ識別コードVOL3の属性を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPTAPCTG

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6711

コマンドは使用できない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67A6

カテゴリーが存在していない。

CPF67D2

カートリッジ・コマンドが失敗しました。

CPF67D4

カテゴリーが使用できない。

CPF67E4

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

CPF67E6

ボリューム&2が正しくない。

CPF67EA

機能は正常に行なわれていない。

CPF67EC

ライブラリー装置記述&1が存在していない。

CPF67ED

ライブラリー装置&1が使用可能でない。

CPF67F5

重複カートリッジIDが見つかった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

テープ状況の表示 (DSPTAPSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ状況表示(DSPTAPSTS)コマンドは次を行います。

- 媒体ライブラリー装置と関連したスロット情報を表示します。
- 媒体ライブラリー装置に接続された資源に関する情報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	ライブラリー装置	名前, *ALL	オプションル、定位置 1
OUTPUT	出力	* , *PRINT, *OUTFILE	オプションル
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1 , *TYPE2	オプションル

[トップ](#)

ライブラリー装置 (DEV)

情報が表示される媒体ライブラリー装置の名前を指定します。

***ALL** 装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドによって定義されたすべてのテープ媒体ライブラリー装置が表示されることを指定します。

装置名 装置名を指定してください。装置名はテープ媒体ライブラリー装置名またはランダム・アクセス・カートリッジ・ローダー(RACL)装置名でなければなりません。装置名は、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドによって前もってシステムに認識されていないと見なされません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、出力ファイルに印刷するか、ジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブにこの値が指定された場合には、効果は*PRINTが指定されたのと同じです。

*PRINT

要求された出力は、ジョブの出力待ち行列に見つかったスパール・ファイルに書き出されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。このファイルは、データベース・ファイルQATAIOFまたはQATAIOF2と同じ形式でなければなりません。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

テープ媒体ライブラリーについての情報が送られるデータベース・ファイルの修飾名を指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルがOUTFILFMT(*TYPE1)で作成される場合には、システムはQSYS中のQTAIOUTFという様式名を持つQATAIOFをモデルとして使用します。新しいファイルがOUTFILFMT(*TYPE2)で作成される場合には、システムはQSYS中のQTAIOF2という様式名を持つQATAIOF2をモデルとして使用します。このパラメーターを使用できるのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている時だけです。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾できます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

使用するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時に、出力を送る先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

「出力を受け取るメンバー」に使用可能な値は次の通りです。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

「メンバーに対して実行する操作」の使用可能な値は次の通りです。

***REPLACE**

指定したデータベース・ファイル・メンバーに存在しているレコードは、新しいレコードで置き換えられます。

***ADD** システムは新しいレコードを既存のメンバーの終わりに追加します。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTFILFMT)

OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時には、出力ファイルの様式を指定します。

***TYPE1**

この形式は、レコード様式名QTAIOUTFでライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQATAIOFによって定義されます。

***TYPE2**

この形式は、レコード様式名QTAIOF2でライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQATAIOF2によって定義されます。

[トップ](#)

DSPTAPSTSの例

DSPTAPSTS DEV(LIB01) OUTPUT(*)

このコマンドは、このライブラリー装置に関する有効な情報をワークステーション画面に表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPTAPSTS

***ESCAPE** メッセージ

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67E4

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

CPF67E7

ライブラリー装置が存在しない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

商標の表示 (DSPTM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

商標表示(DSPTM)コマンドは、ライセンス・プロダクトの名前中に現れる商標のリストを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

DSPTMの例

DSPTM

このコマンドは、商標のリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPTM

なし

[トップ](#)

追跡表示 (DSPTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡表示(DSPTRC)コマンドは、このコマンドで指定したプログラムの中で現在定義されているすべての追跡を表示します。次のトレース情報が表示されます。

- プログラム内のステートメント範囲または機械語命令範囲
- 追跡ステートメントに関連したすべてのプログラム変数の名前またはMI ODV番号
- 追跡ステートメントが処理される時ならいつでも、あるいはそれらの値が変更された時にだけ変数が記録されるか

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、位置 1
PGM	プログラム	単一値: *DFTPGM, *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

デバッグ・モードのどのプログラムについて、追跡ステートメントおよびプログラム変数を表示するかを指定します。

***DFTPGM**

省略時のプログラムについてのみ、追跡ステートメントが表示されます。

***ALL** 現在デバッグ・モードにあるすべてのプログラムについて、追跡ステートメントが表示されます。

プログラム名

追跡ステートメントを表示させる最大20個までのプログラムの名前を指定してください。指定されたプログラムはすでにデバッグ・モードになっていなければなりません。

トップ

DSPTRCの例

DSPTRC

このコマンドは、このデバッグ・セッションの省略時のプログラムに現在指定されている、追跡データ・ステートメントのすべての範囲を表示します。また、追跡データ・ステートメントに関連するプログラム変数も表示されます（その値は表示されません）。

トップ

エラー・メッセージ： DSPTRC

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

トップ

追跡データ表示 (DSPTRCDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡データ表示(DSPTRCDTA)コマンドは、最後の追跡データ消去(CLRTRCDTA)コマンド以降に実行された追跡の出力を表示します。追跡範囲内のすべての追跡ステートメントおよび関連したプログラム変数が表示されます。画面には、追跡ステートメントまたは機械語命令が処理された順序、およびその順序の各地点での追跡について定義されたプログラム変数の名前またはマシン・インターフェースのオブジェクト定義テーブル・ベクトル(MI ODV)番号と値が表示されます。変数値の表示は、表示される追跡を定義した追跡追加(ADDTRC)コマンドの出力時 (**OUTVAR**)パラメーターによって制御されることに注意してください。

ジョブがデバッグ・モードで、そのジョブがデバッグ終了(ENDDBG)コマンドの実行前に終了した場合には、このコマンドは、ジョブのスパール出力での出力の印刷を自動的に実行します。

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、定位置 1
CLEAR	消去	*NO、*YES	オプション

トップ

注: プログラム・ステートメントは、変数を処理する前に追跡データの中に現れます。したがって、プログラム・ステートメント (ステートメント A) で追跡に指定された変数を変更した場合には、新しい値は追跡データ中のステートメント A の次のステートメントの後に現れます。

出力 (OUTPUT)-ヘルプ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

消去 (CLEAR)

表示後に追跡データを消去するかどうかを指定します。

***NO** 追跡データは消去されません。

***YES** 追跡データは表示の後に消去されます。

トップ

DSPTRCDTAの例

DSPTRCDTA

このコマンドは、記録されているすべての追跡データを要求表示装置で表示します。追跡範囲内のすべての追跡ステートメントおよび関連したプログラム変数の値が表示されます。CLEAR(*NO)とみなされるので、追跡データは、表示された後も消去されません。

トップ

エラー・メッセージ： DSPTRCDTA

***ESCAPE** メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

トップ

ユーザー定義FSの表示 (DSPUDFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー定義ファイル・システム表示(DSPUDFS)コマンドは、既存のユーザー定義ファイル・システム(UDFS)の属性と、任意選択でその拡張属性を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
UDFS	ユーザー定義ファイル・システム	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ユーザー定義ファイル・システム (UDFS)

表示するファイル・システムのパス名を指定します。これは、次の2つの形式のうちの1つ（のパス名で解決するもの）でなければなりません。

- */DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS*, ここで、*XX*は有効なシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)番号の1つで、*UDFSNAME*はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- */DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS*, ここで*ASPNAME*はシステムの有効なASP名の1つで、*UDFSNAME*はユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定された*QASPXX*または*ASPNAME*ディレクトリー内で固有でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

- *
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPUDFSの例

例1: ユーザー定義ファイル・システムの表示

```
DSPUDFS  UDFS('/DEV/QASP05/JOE.UDFS')
```

このコマンドは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 5のJOEという名前のユーザー定義ファイル・システム(UDFS) の属性を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: DSPUDFS

***ESCAPEメッセージ**

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

アップグレード準備の表示 (DSPUPGPRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アップグレード準備表示(DSPUPGPRP)コマンドは、OS/400の新リリースへのアップグレード時に、アップグレード準備情報を表示します。

制約事項

1. STRUPGPRPコマンドが正常に完了していて、しかもファイルQUSRSYS/QAIZADSKが存在していなければなりません。そうでないと、エラー・メッセージが出されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	情報のタイプ	*ALL, *OBJ, *PRB, *STG, *DSK, *SFW, *HDW, *OWN, *ORD, *TIMEEST	オプションル、定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル、定位置 2

トップ

情報のタイプ (TYPE)

報告書に含める準備情報のタイプを指定します。

- *ALL すべての準備情報が表示されます。
- *OBJ サポートされていないオブジェクトに関する情報が表示されます。
- *PRB 潜在的な問題に関する情報が表示されます。
- *STG ディスク記憶域の見積もりに関する情報が表示されます。
- *SFW 導入済みライセンス・プログラムに関する情報が表示されます。
- *HDW ハードウェア資源に関する情報が表示されます。
- *ORD アップグレード発注の推奨事項が表示されます。
- *OWN システムのクリーニングで使用するためのオブジェクトおよび所有者についての情報が表示されます。
- *DSK ディスク構成情報が表示されます。
- *TIMEEST
ダウン時間見積もりが表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションで表示されるか、それともジョブのスプール出力とともに印刷されるかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、ジョブのスプール出力とともに印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

不明

トップ

ユーザー認可表示 (DSPUSRPMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー認可表示(DSPUSRPMN)コマンドにより、他のユーザーに代わって文書またはフォルダーの処理およびOFFICEVISION/400関連タスクの実行を行なうことを認可されているユーザーを表示したり、他のユーザーが代わりに処理することを認可しているユーザーを表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: *CURRENT , *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション、位置 1
GRANTED	認可先/認可元	文字値, *TO , *FROM	オプション
OUTPUT	出力	* , *PRINT	オプション

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

情報が表示されるユーザー・プロファイルの名前を指定します。このパラメーターの名前は、このコマンドを実行する前にシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

***CURRENT**

ユーザー認可情報が表示されます。

***ALL** 情報ディレクトリー中のすべてのユーザーについて情報が表示されます。

ユーザー・プロファイル名

表示する情報と関連したユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

認可先/認可元 (GRANTED)

生成された出力がユーザー（複数の場合もある）の認可する関係を表示するかあるいは認可される関係を表示するか、そのいずれかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***TO** 指定されたユーザーに代わって処理を行なうことを認可されているユーザーが表示されます。

***FROM**

指定されたユーザーが代わりに処理することを認可しているユーザーが表示されます。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されま
す。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

DSPUSRPMNの例

例1:ユーザーの名前の表示

```
DSPUSRPMN USER(*CURRENT) GRANTED(*TO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、現行ユーザーの代行処理をすることを許可されるユーザーの名前を印刷します。

例2:ユーザーの名前の印刷

```
DSPUSRPMN USER(*ALL) GRANTED(*TO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、他のユーザーの名前のほかに代行処理することが他のユーザーに許可済みのすべてのユーザーの名前も印刷します。

トップ

エラー・メッセージ: DSPUSRPMN

*ESCAPEメッセージ

CPF9043

エラーが起こったので、ユーザーの代行認可は表示されない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル表示 (DSPUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル表示(DSPUSRPRF)コマンドは、ユーザー・プロファイルの内容を表示します。ユーザー・プロファイルには、システム資源についてのユーザーの操作限界が入っています。これには、ユーザーが使用するための特定の使用権限をもっているオブジェクト、コマンド、および装置の名前と、ユーザーが所有しているオブジェクトの名前、およびユーザーが1次グループとなっているものが入っています。

ユーザー・プロファイルによって所有されているオブジェクトは、*CMDAUT、*DEVAUT、*OBJAUT、または*OBJPGP画面には表示されません。

このコマンドはパスワードを表示しない上に、共通使用に認可されたオブジェクトに関する情報も表示しません。文書パスワードは、*BASIC画面またはすべてのCLコマンド出力には表示されません。システム上のすべてのユーザーにはDSPUSRPRFコマンドの使用を許可できますが、要求側ユーザーには表示しようとするユーザー・プロファイルに対して読み取り(*READ)権限が必要です。

DSPUSRPRF機能は、ユーザー・プロファイルが所有していて、使用を許可されているオブジェクト数に応じて、長時間実行機能とすることができます。

制約事項：ユーザー名をUSRPRF(*ALL)またはUSRPRF(総称名)として指定できるのは、TYPE(*BASIC)およびOUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
TYPE	情報のタイプ	*BASIC, *ALL, *CMDAUT, *DEVAUT, *GRPMBR, *OBJAUT, *OBJOWN, *OBJPGP	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

ユーザー・プロフィール (USRPRF)

表示するユーザー・プロフィールを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのユーザー・プロフィールが表示されます。

総称名 表示するユーザー・プロフィールの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称検索見出しと同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのユーザー・プロフィールが表示されます。

名前 表示するためのユーザー・プロフィールの名前を指定してください。

注: *ALLまたは総称名を指定できるのは、TYPE(*BASIC)およびOUTPUT(*OUTFILE)を指定する場合だけです。

トップ

情報のタイプ (TYPE)

表示できる情報のタイプを指定します。次のすべてまたは1つを表示することができます。

- ユーザーを記述するユーザー・プロフィールの基本部分
- ユーザー・プロフィールが特定の権限を持つコマンド
- ユーザー・プロフィールが特定の権限を持つ装置
- ユーザーが特定の権限を持ち、権限がこれらのオブジェクトに関連づけられているすべてのオブジェクト (コマンドおよび装置を含む)
- ユーザーが所有しているオブジェクト
- ユーザーが1次グループであるオブジェクト
- グループのメンバー (ユーザー・プロフィールがグループ・プロフィールの場合)

***BASIC**

ユーザー・プロフィールに定義されたすべてのパラメーターが表示されます。

***ALL** ユーザー・プロフィールのすべての情報が表示されます。

***CMDAUT**

ユーザーが特定の権限を持っている制御言語コマンドが表示されます。

***DEVAUT**

ユーザーが特定の権限を持っているシステム装置が表示されます。

***OBJAUT**

ユーザーが特定の権限をもっているオブジェクトの名前 (共通使用として認可されているオブジェクトを除く)、各オブジェクトに対するユーザーの権限、およびオブジェクト・タイプを表示します。

***OBJOWN**

このユーザーが所有するオブジェクトの合計数、オブジェクト名、オブジェクト・タイプ、およびオブジェクトが入っているライブラリーを表示します。また、オブジェクトが権限ホルダーであるかどうかを示します。

*OBJPGP

このユーザーが1次グループであるオブジェクトの合計数、オブジェクト名、タイプ、オブジェクトが入っているライブラリー、および1次グループの権限を表示します。また、オブジェクトが権限ホルダーであるかどうかを示します。

*GRPMBR

グループのメンバーが表示されます。この画面は、表示されるユーザー・プロファイルがグループ・プロファイルの場合にだけ使用することができます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成されていて、情報のタイプ (**TYPE**)パラメーターに*BASICが指定されている場合には、システムはモデルとして様式名QSYDSUPBでQSYSのQADSPUPBを使用します。

新規ファイルが作成されていて、TYPEパラメーターに*OBJAUTが指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内の様式名QSYDSUPAをもつQADSPUPAを使用します。

新規ファイルが作成されていて、TYPEパラメーターに*OBJOWNが指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内の様式名QSYDSUPOをもつQADSPUPOを使用します。

新規ファイルが作成されていて、TYPEパラメーターに*OBJPGPが指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内の様式名QSYDSUPGをもつQADSPUPGを使用します。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

DSPUSRPRFの例

例1:基本情報の表示

```
DSPUSRPRF  USRPRF(THSMITH)
```

TYPE(*BASIC)が想定されるので、このコマンドはTHSMITHという名前のユーザー・プロファイルの基本部分を表示します。ユーザーが使用を許可されているコマンド、装置、およびオブジェクトは、表示されません。OUTPUT(*)も想定されているので、コマンドの投入場所に応じて、操作情報が表示または印刷されます。

例2:オブジェクトのリストの印刷

```
DSPUSRPRF  USRPRF(RTJOHNSON)  TYPE(*OBJOWN)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、RTJOHNSONという名前のユーザーが所有しているオブジェクトのリストが印刷されることとなります。このリストには、オブジェクト名、オブジェクト名・タイプ、およびオブジェクトがあるライブラリー名が入っています。

エラー・メッセージ： DSPUSRPRF

*ESCAPE メッセージ

CPF22DF

ユーザー・プロファイル&1に対する要求を処理することができない。

CPF22D8

ユーザー・プロファイル総称名の使用は正しくない。

CPF22D9

指定された名前のユーザー・プロファイルは存在していない。

CPF22EB

ユーザー・プロファイル&1に対する要求を処理することができない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2257

ユーザー・プロファイル&1はグループ・プロファイルでない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

ユーザー印刷情報の表示 (DSPUSRPTI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー印刷情報表示(DSPUSRPTI)コマンドは、指定したユーザー・プロファイルのユーザー印刷情報を表示します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前, <u>*CURRENT</u>	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 2

トップ

ユーザー (USER)

表示される印刷情報を持つユーザーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*CURRENT

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー名

表示される印刷情報を持つユーザーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。このパラメーターの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックにあります。

考えられる値は、次の通りです。

* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPUSRPTIの例

DSPUSRPTI USER(FEIST)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルFEISTのユーザー印刷情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPUSRPTI

***ESCAPE** メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2247

内部機密保護オブジェクトが使用可能でない。理由コードは&1です。

[トップ](#)

ワークステーション・ユーザーの表示 (DSPWSUSR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・ユーザー表示(DSPWSUSR)コマンドによって、現行セッションに関する情報を表示することができます。表示される情報には、次のものがあります。

- 表示装置
- セッション中の対話式ジョブの数
- 現在活動中の対話式ジョブ

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	* _ *PRINT	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

DSPWSUSRの例

DSPWSUSR OUTPUT(*)

このコマンドは、現行ジョブが記述されている情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DSPWSUSR

なし

[トップ](#)

ディスク複製 (DUPDKT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク複製(DUPDKT)コマンドは、単一ディスクの内容を1枚または複数枚のディスクにコピーします。ボリューム目録(VTOC)および初期プログラム・ロード(IPL)レコード情報およびデータ・レコードは、指定された装置のディスクにコピーすることができます。基本データ交換形式または保管/復元E形式のいずれかのディスク・データをコピーすることができます。ディスクのボリューム識別コードは固有である必要はありません。

データの複製先のディスクが、データの複製元のディスクと同一セクター・サイズになっていない場合には、メッセージがシステム操作員に送信されます。この場合、ディスクの複製を停止することも、複製を続行する前に、ディスクを入力ディスクと同一セクター・サイズに初期設定することもできます。

複製時には、入力ディスクの削除済みセクターは無視されます。そのセクターは新規ディスクには複製されません。削除済みセクターを含むファイル・ラベル中の最終データ・レコードのアドレスは、削除が見つかったセクター数に従って、出力ディスクでは調整されます。したがって、入力ディスクに削除済みセクターがある場合には、出力ディスクは完全に同じ複製とはいえません。

拡張ラベル域（シリンダー0の他に最大9シリンダーまでで、データ・セット・ラベルのシステム域として割り振られる）があるディスクを複製できるのは、次の条件になった場合です。

- RGZVOLオプションが*NOでなければならない。
- 入力ディスク上に削除されたセクターが存在しない。削除されたセクターが拡張ラベル域をもつ入力ディスク上に見つかった場合には、メッセージが送られて、複製機能が停止されます。

ディスクが複製されてしまうと、ディスク名変更(RNMDKT)コマンドを使用して、複製済みのディスクが固有のボリューム識別コードをもつように名前変更することができます。

制約事項:ディスクを複製することができないのは、レコードが順次ではなく再配置されたことを指示する制御レコードが含まれているか、順次セクター・アドレスが連続した昇順になっていない制御レコードが含まれている場合です。拡張ラベル域をもつディスクで削除済みセクターが見つかった場合には、ディスクを複製することはできません。

さらに、ディスク複製コマンドによって使用できるディスクのタイプには、次の制約事項が適用されます。

1. タイプ1ディスクは別のタイプ1ディスクにしか複製できません。
2. タイプ2ディスクはタイプ2ディスクまたはタイプ2Dディスクに複製できます。タイプ2Dディスクは倍密度記録方式用に製造されたので使用できます。したがって、タイプ2Dディスクを単一記録密度記録方式用に使用することができます。タイプ2ディスクからタイプ2Dディスクに複製しようとした場合には、メッセージがシステム操作員に送信されます。この場合、操作員はディスク初期設定(INZDKT)コマンドを使用して、タイプ2Dディスクをタイプ2に初期設定し、処理を続行することができます。これで、タイプ2Dは論理的にはタイプ2ディスクとして現れる点に注意してください。

3. タイプ2Dディスクはタイプ2ディスクまたはタイプ2Dディスクにコピーできます。タイプ2ディスクは単一記録密度方式用に製造され、倍密度記録方式（タイプ2D）に使用すると媒体エラーになる傾向があります。タイプ2Dディスクからタイプ2ディスクにコピーする場合には、メッセージがシステム操作員に送信されます。この場合、操作員は処理を取り消すことも、ディスク初期設定(INZDKT)コマンドを使用して、タイプ2ディスクをタイプ2Dディスクに初期設定して、処理を続行することもできます。これで、タイプ2ディスクは論理的にタイプ2Dディスクとして現れ、これは単一記録密度方式用であるために媒体エラーになる傾向がある点に注意してください。

注: IBM標準ラベル以外のラベル付きのディスクをコピーしたときは、予測できない結果になることがあります。ディスクは、ディスク初期設定(INZDKT)コマンドにCHECK(*NO)を指定することによって初期設定する必要があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMDEV	取り出し装置	名前	必須, 定位置 1
TODEV	受け取り装置	名前	必須, 定位置 2
COPIES	コピー枚数	1-999, <u>1</u>	オプション
RGZVOL	ボリューム再編成	<u>*NO</u> , *YES	オプション

[トップ](#)

取り出し装置 (FROMDEV)

ディスクのコピー元の装置名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

受け取り装置 (TODEV)

ディスクのコピー先の装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

コピー枚数 (COPIES)

コピー枚数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

- 1 一枚コピーされます。

コピー枚数

ディスクットのコピー枚数を指定します。有効な値の範囲は1 - 999です。

[トップ](#)

ボリューム再編成 (RGZVOL)

ファイル間の未使用のスペースを削除して、ディスクット上に追加のファイルを書き出すためのスペースを確保するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

- *NO** 未使用スペースが入力ディスクット上に存在している通りに残っています。削除されたセクターが見つからない場合には、出力ディスクットが入力ディスクットの正確なコピーとなっています。
- *YES** ファイル間の未使用スペースは最後のファイルの最後部に移され、出力ディスクット上のファイルがすべて結合されます。

[トップ](#)

DUPDKTの例

例1:ディスクット内容のコピー

```
DUPDKT FROMDEV(DKT1) TODEV(DKT2)
```

このコマンドは、装置DKT1内のディスクットの内容全体を、装置DKT2内のディスクットにコピーします。

例2:ディスクット内容のコピー

```
DUPDKT FROMDEV(DKT2) TODEV(DKT2)
```

このコマンドは、装置DKT2内のディスクットの内容全体をコピーし、装置DKT2に挿入されている次のディスクットのプロンプトを出し、そのディスクットを上はこの内容をコピーします。

例3:未使用スペースの圧縮

```
DUPDKT FROMDEV(DKT2) TODEV(DKT1) RGZVOL(*YES)
```

このコマンドは、装置DKT2内のディスクットの内容を、装置DKT1内のディスクットにコピーします。データ域の未使用スペースは、ディスクットの終わりに圧縮されます。未使用スペースが入力ディスクット上のファイル間に存在する場合には、入力ディスクット上のこのファイルは、別の物理的位置にあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DUPDKT

*ESCAPEメッセージ

CPF5102

装置&4のボリューム&9で永続入出力エラーが起こった。

CPF6151

装置&1のディスクを複写することはできない。

CPF6157

ディスクの複写は終了したが、前にエラーが起こっている。

CPF6716

装置&1がディスク装置でない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

光ディスク複製 (DUPOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク複製(DUPOPT)コマンドは、複製の光ディスク・ボリュームを作成します。複製ボリュームは、ボリューム識別コードおよび作成された時刻を除いて、元のボリュームと同じです。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ソース・ボリュームを保護する権限リストに対して*USE権限が必要です。ターゲット・ボリュームが光ディスク媒体ライブラリー内のボリュームである場合には、そのボリュームを保護する権限リストに対して*ALL権限が必要です。ターゲット・ボリュームを保護している権限リストが光ディスク装置に入っている場合には、それに対する *CHANGE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMVOL	FROMボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	必須, 定位置 1
TOVOL	TOボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	必須, 定位置 2
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, <u>*TOVOL</u> , *FROMVOL	オプション, 定位置 3
CLEAR	消去	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FROMDEV	取り出し装置	名前	オプション
TODEV	受け取り装置	名前	オプション
ALWMEDERR	媒体エラーの許可	<u>*NONE</u> , *FILE	オプション
OUTPUT	出力	<u>*ERROR</u> , *NONE	オプション
FROMENDOPT	FROM媒体の終わりオプション	<u>*LEAVE</u> , *UNLOAD	オプション
TOENDOPT	TO媒体の終わりオプション	<u>*LEAVE</u> , *UNLOAD	オプション

トップ

FROMボリューム識別コード (FROMVOL)

複製しようとしている光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。光ディスク媒体ライブラリー内にない媒体のボリュームIDを判別するには、次の光ディスク表示CLコマンドを出してください。
DSPOPT VOL(*MOUNTED) DEV(装置)。

複写元ボリュームID

ソース・ボリューム識別コードを指定してください。

*MOUNTED

FROMDEVパラメーターによって指定された光ディスク装置にマウントされた光ディスク・ボリュームを使用してください。

注: この値は、光ディスク媒体ライブラリー装置のボリュームの場合には無効です。

[トップ](#)

TOボリューム識別コード (TOVOL)

作成される光ディスク・ボリューム（新しいボリューム）のボリューム識別コードを指定します。このボリュームはFROMVOLパラメーターに指定されたボリュームと同じ物理的特性をもっていなければなりません。カートリッジの反対側のボリュームであってはなりません。指定するボリュームがWORM（一回書き込み、読み取り専用）媒体である場合には、初期設定されていないボリュームでなければなりません。光ディスク表示(DSPOPT) CLコマンドは、光ディスク・ボリュームの物理的特性を決定するのに使用します。

コピー先ボリューム識別コード

ターゲット・ボリューム識別コードを指定してください。

*MOUNTED

TODEVパラメーターによって指定された光ディスク装置にマウントされた光ディスク・ボリュームを使用してください。

注: この値は、光ディスク媒体ライブラリー装置のボリュームの場合には無効です。

[トップ](#)

新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

複写が完了した後で、コピー先ボリュームの新しいボリューム識別コードを指定します。

*TOVOL

ボリュームIDは複写先ボリュームIDと同一になります。

*FROMVOL

ボリューム識別コードは複写元ボリューム識別コードと同一です。このパラメーターが使用できるのは、ライブラリー装置になくて、FROMENDOPTまたはTOENDOPTのいずれかが*UNLOADであるボリュームの場合だけです。

新しいボリューム識別コード

複写先ボリュームの新規ボリュームIDを指定してください。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

ターゲット光ディスク・ボリュームがすでに初期設定されていることが判明した場合に、このボリュームを再初期化するかどうかを示します。

注: このパラメーターはボリュームがWORM (WRITE-ONCE-READ-MANY)媒体の場合には無視されます。

*NO ボリュームは再初期化されません。

*YES ボリュームは再初期化されます。

注: 媒体タイプ*ERASEの場合、*YESを指定すると、重複プロセスが開始される前にすべての既存のデータが消去されることになります。

媒体タイプ*DVD-RAMの場合、*YESを指定すると、複製プロセスが開始される前にすべての既存のデータが消去されません。データは消去されませんが、データへのアクセスは失われます。
*DVD-RAM媒体上のデータを消去することが必要な場合には、DUPOPTを実行する前に光ディスク初期設定(INZOPT)を使用してボリュームを初期化してください。CLEAR(*YES)パラメーターを光ディスク初期化(INZOPT) CLコマンドで指定してください。

トップ

取り出し装置 (FROMDEV)

複製元ボリュームが入っているディスク装置を指定します。

注: このパラメーターが必要なのは、パラメーターFROMVOLが*MOUNTEDとして指定されている場合だけです。

複製元光ディスク装置

複製元ボリュームが入っている光ディスク装置の名前を指定してください。

トップ

受け取り装置 (TODEV)

複製先ボリュームが入っているディスク装置を指定します。

注: このパラメーターが必要なのは、パラメーターTOVOLが*MOUNTEDとして指定されている場合だけです。

複製先光ディスク装置

複製先ボリュームが入っている光ディスク装置の名前を指定してください。

トップ

媒体エラーの許可 (ALWMEDERR)

ファイル・データ域を複製しようとしている間にエラーが検出された場合は、光ディスク複製(DUPOPT)コマンドを終了するかどうかを指定します。

*NONE

ファイル・データ域を複製中にエラーが検出された場合は、複製を停止し、エラーを戻します。

*FILE ファイル・データ域を複製中にエラーが検出された場合は、複製を続けます。OUTPUT(*ERROR)を指定することによって、複製されないファイルのリストを出力することができます。

トップ

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力をジョブのスパール出力とともに印刷するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、*FILEが媒体エラーの許可 (ALWMEDERR)パラメーターに指定されている場合だけです。

***ERROR**

ファイルのすべてが複写されると、出力は何もありません。複写されなかったファイルがある場合は、それらのファイルのリストがジョブのスパール出力とともに印刷されます。エスケープ・メッセージOPT2047も戻されます。

***NONE**

ファイルのすべてが複写されると、出力は何もありません。複写されなかったファイルがある場合は、複写されなかったファイルの数がエスケープ・メッセージOPT2047に示されます。

[トップ](#)

FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)

DUPOPT要求の完了後に、複写元ボリュームが存在している光ディスク装置にそのボリュームを残すか、あるいはそのボリュームを当該光ディスク装置からアンロードするかを指定します。

注: 複写元ボリュームが光ディスク媒体ライブラリー装置に入っている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LEAVE**

複写元ボリュームは光ディスク装置内に残ります。

***UNLOAD**

複写元ボリュームは光ディスク装置からアンロードされます。

[トップ](#)

TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)

DUPOPT要求の完了後に、複写先ボリュームが存在している光ディスク装置にそのボリュームを残すか、あるいはそのボリュームを当該光ディスク装置からアンロードするかを指定します。

注: 複写先ボリュームが光ディスク媒体ライブラリー装置に入っている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LEAVE**

複写先ボリュームは光ディスク装置内に残ります。

***UNLOAD**

複写先ボリュームは光ディスク装置からアンロードされます。

[トップ](#)

DUPOPTの例

例1: ボリューム名が既知の場合の光ディスク・ボリュームの複写

```
DUPOPT FROMVOL(VOL01) TOVOL(VOL02) NEWVOL(*TOVOL)
      CLEAR(*YES)
```

このコマンドは、同じボリューム識別コードが保持されている、ボリュームVOL02上の光ディスク・ボリュームVOL01の複写を作成します。複写処理の前に、VOL02は再初期化されます。

例2:装置名が既知の場合の光ディスク・ボリュームの複写

```
DUPOPT FROMVOL(*MOUNTED) TOVOL(*MOUNTED) NEWVOL(BKP001)
CLEAR(*YES) FROMDEV(OPT01) TODEV(OPT02)
FROMENDOPT(*LEAVE) TOENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、光ディスク装置OPT01の光ディスク・ボリュームを装置OPT02のボリュームに複写します。複写処理の前に、装置OPT02の光ディスク・ボリュームは再初期化されます。複写処理の完了後に、装置OPT01のボリュームはその装置に残ります。複写処理の完了後に、装置OPT02のボリュームはアンロードされ、ボリュームの識別コードはBKP001になります。

例3:光ディスク・ボリュームの重複および損傷ファイルが見つかった場合の複写の継続

```
DUPOPT FROMVOL(VOL01) TOVOL(VOL02) NEWVOL(*TOVOL)
CLEAR(*YES) ALWMEDERR(*FILE) OUTPUT(*ERROR)
```

このコマンドは、同じボリューム識別コードが保持されている、ボリュームVOL02上の光ディスク・ボリュームVOL01の複写を作成します。複写処理の前に、VOL02は再初期化されます。損傷ファイルがVOL01上にある場合は、複写は継続され、損傷ファイルは複写されません。損傷ファイルの名前はジョブのスーパー出力に印刷されます。

例4: NEWVOL(*FROMVOL)を使用したボリュームの正確なコピーの複写

```
DUPOPT FROMVOL(VOL01) TOVOL(VOL02) NEWVOL(*FROMVOL)
CLEAR(*YES) TODEV(OPT02) TOENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ボリュームVOL02上の光ディスク・ボリュームVOL01の複写を作成します。複写処理の前に、VOL02は再初期化されます。複写処理の完了後に、装置OPT02のボリュームはアンロードされ、ボリュームの識別コードはVOL01になります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： DUPOPT

*ESCAPEメッセージ

OPT1305

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

OPT1315

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1335

ボリューム&1はすでに初期設定されている。

OPT1338

操作がライブラリー装置にサポートされていません。

OPT1340

光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗した。

OPT1375

光ディスク・ボリューム&1はすでに存在している。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1499

ソースとターゲットのボリュームが別の光ディスク装置タイプです。

OPT1515

光ディスク装置&1の構成はサポートされていないか、または十分でない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1864

割り振られた操作可能な光ディスク・ドライブが不足しています。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2029

TOVOLはFROMVOLの反対側にある。

OPT2047

光ディスクの複製が完了しました。&3個のファイルは複製されていません。

OPT2050

光ディスク・ボリューム&1から光ディスク・ボリューム&2への光ディスク・ボリューム複製要求が正常に行なわれなかった。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT2420

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

テープの複製 (DUPTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ複製(DUPTAP)コマンドは、あるテープの内容を別のテープにコピーします。

注:

1. ファイル見出しラベル中の密度フィールドは、真の密度を反映するよう更新されます。
2. 装置タイプ6157上に書き出されたテープのボリューム・ラベルの80バイト目が、'Q'からブランクにリセットされます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、2つのテープ駆動機構または2つのテープ資源を備えたテープ媒体ライブラリー装置が必要です。
2. ボリュームにまたがるファイルでは、両方の部分ファイルが同時に複製されなければなりません。すなわち、テープの複製が1つの部分ファイルで終了し、続いてそのテープの終わりにファイルの2番目の部分を付加することはできません。FROMVOLパラメーターに複数のボリュームを指定し、ファイルの両方の部分を同時に複製する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMDEV	取り出し装置	名前	必須, 定位置 1
TODEV	受け取り装置	名前	必須, 定位置 2
FROMSEQNBR	開始順序番号	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ファイル順序番号	1-16777215, *FIRST	
	要素 2: 終了ファイル順序番号	1-16777215, *ONLY, *LAST	
TOSEQNBR	終了順序番号	1-16777215, *END, *FROMSEQ	オプション
FROMVOL	FROMボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
TOVOL	TOボリューム識別コード	単一値: *MOUNTED, *FROMVOL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
TODENSITY	テープ密度	文字値, *DEVTYPE, *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *FMT3590H, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, *ULTRIUM2, *VXA1, *VXA2, 1600, 3200, 6250	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
COMPACT	データ短縮	<u>*FROMFILE</u> , *YES, *NO	オプション
FILES	複製するファイル	<u>*ALL</u> , *ACTIVE	オプション
USRLBLPGM	ユーザー・ラベル・プログラム	単一値: *NONE, <u>*SYSCOPY</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ラベル・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FROMENDOPT	FROM装置終了オプション	<u>*REWIND</u> , *UNLOAD, *LEAVE	オプション
TOENDOPT	TO装置終了オプション	<u>*UNLOAD</u> , *REWIND, *LEAVE	オプション
CHECK	活動ファイルの検査	<u>*YES</u> , *NO	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*FROMFILE</u> , *PERM	オプション

トップ

取り出し装置 (FROMDEV)

テープのコピー元の装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

受け取り装置 (TODEV)

テープのコピー先の装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

開始順序番号 (FROMSEQNBR)

コピーするデータ・ファイルの順序番号を指定します。

指定できる開始ファイル順序番号の値は次の通りです。

*FIRST

最初のファイル順序から始まるすべてのファイルが複製されます。

*ALL すべてのファイルが複製されます。

ファイル順序番号

複製する開始ファイル順序番号を指定してください。有効な順序番号の範囲は1 - 16777215です。指定された順序番号範囲のファイルだけが複製されます。

指定できる終了ファイル順序番号の値は次の通りです。

*LAST 最後のファイル順序で終わるすべてのファイルが複製されます。

***ONLY**

開始ファイル順序で指定されたファイルだけが複製されます。最初の要素に*ALL が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

ファイル順序番号

複製する終了ファイル順序番号の範囲を指定してください。有効な順序番号の範囲は1 - 16777215です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOSEQNBR)

データ・ファイルのコピー先の順序番号を指定します。

***FROMSEQ**

データ・ファイルは開始ファイル順序番号パラメーターに指定されたものと同じファイル順序に複製されます。

***END** データ・ファイルは論理的なテープの終わりに追加されます。次に有効な順序番号が使用されます。

ファイル順序番号

データ・ファイルのコピー先の順序番号を指定してください。この値は、装置が上書き可能でなく、指定された値が論理的なテープ・ボリューム終わりに使用される次の論理値でない場合には使用できません。有効な順序番号の範囲は1 - 16777215です。指定されたファイルから複写が開始されます。

[トップ](#)

FROMボリューム識別コード (FROMVOL)

複写されるテープのボリューム識別コードを指定します。

注: 指定された装置が媒体ライブラリー装置である場合には、指定されたボリュームは取り付けて使用するカートリッジ識別コードとする必要があります。

***MOUNTED**

取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターに指定されたテープ装置に入っているすべてのラベル付きまたはラベルなしボリュームが複写されます。テープ媒体ライブラリー装置の場合には、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリー設定(SETTAPCGY)コマンドによって装てんされているカテゴリー中の次のカートリッジです。

ボリューム識別コード

複写されるラベル付きボリュームの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

TOボリューム識別コード (TOVOL)

データの複製先のテープのボリューム識別コードを指定します。

注: 指定された装置が媒体ライブラリー装置である場合には、指定されたボリュームは取り付けて使用するカートリッジ識別コードとする必要があります。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(SETTAPCGY)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。

***FROMVOL**

受け取り装置 (**TODEV**)パラメーターに指定された装置入っているテープを初期設定するために、取り出し装置 (**FROMDEV**)パラメーターに指定された装置に入っているテープのボリューム・ラベルが使用されます。追加のボリューム・ラベルが8つまで、ユーザー・ボリューム・ラベルが9つまで複写されます。

ボリューム識別コード

データのコピー先のテープのボリューム識別コードを指定してください。ボリューム終わり時には、このボリューム識別コードを使用してテープを再初期設定することができます。ボリュームのボリューム識別コードは正しいが、コードまたは密度が間違っている場合には、テープは正しいコードおよび密度に再初期設定されます。ボリューム識別コードは保管されます。

[トップ](#)

テープ密度 (TODENSITY)

コピーされたデータが書き出される密度または形式を指定します。

***DEVTYPE**

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
*FMT3570

3570-CXX
*FMT3570E

3580-001
*ULTRIUM1

3580-002
*ULTRIUM2

3590 *FMT3590

3590-EXX
*FMT3590E

3590-HXX
*FMT3590H

4685-001
*VXA2

6335 *QIC3040
6343 *QIC1000
6344 *QIC2GB
6348 *QIC1000
6349 *QIC2GB
6368 *QIC1000
6369 *QIC2GB
6379 *QIC1000
6380 *QIC2GB
6381 *QIC2DC
6382 *QIC4DC
6383 *QIC5010
6384 *SLR60
6385 *QIC5010
6386 *MLR3
6387 *SLR100
6390 *FMT7GB
7207-122
 *QIC4DC
7208-002
 *FMT2GB
7208-012
 *FMT5GB
7208-222
 *FMT7GB
7208-342
 *FMT20GB
7208-345
 *FMT60GB
9348 6250

***CTGTYPE**

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

テープ密度

使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

***FMT3480**

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3490E**

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3570**

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3570E**

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3590**

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590E**

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590H**

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを取めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを取めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを取めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

*ULTRIUM2

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

*VXA1 このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

*VXA2 このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、ISERIESナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

[トップ](#)

データ短縮 (COMPACT)

装置データ短縮を実行するかどうかを指定します。指定された装置が短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターは無視されます。

*FROMFILE

装置データの短縮は、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターで指定された装置から読み取られるファイルが装置データの短縮を使用して書き出されている場合にだけ実行されます。

*YES 装置データの短縮は、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターで指定された装置に書き出されたすべてのファイルで実行されます。

*NO 装置データの短縮は実行されません。

[トップ](#)

複製するファイル (FILES)

期限切れのデータ・ファイルを、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームから、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームにコピーするかどうかを指定します。

*ALL テープ・ボリューム上のすべてのデータ・ファイルがコピーされます。既存のファイル順序番号はすべて保管されます。

*ACTIVE

現在のシステム日付より後の満了日を持つデータ・ファイルだけがコピーされます。期限切れになったファイルを除いて、データ・ファイルは、ボリューム上の最初のファイルの番号から始まる連続した番号で再番号付けされます。

[トップ](#)

ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)

ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前およびライブラリーを指定します。受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定された装置の場合には、ユーザー・ラベル・プログラムはテープへ書き出されるユーザー・ラベルを送信します。取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターに指定された装置の場合には、ユーザー・ラベルはユーザー・ラベル・プログラムに送信されます。

*SYSCOPY

システム/36の保管および復元テープの適切な複写を可能にするために、ユーザー・テープ・ラベルが処理されます。FROMDEVパラメーターに指定されたテープ・ボリュームにユーザー見出しラベルがある場合には、これらはTODEVパラメーターに指定されたテープ・ボリュームにコピーされます。ファイルの終わりのユーザー・トレーラー・ラベル、またはファイル・セクションの終わりのトレーラー・ラベルの場合も同様です。

FROMDEVパラメーターで指定された装置で論理的なテープの終わりが見つかる前に、TODEVパラメーターで指定された装置でボリューム終わり条件が起こった場合には、ユーザー・トレーラー・ラベルおよびユーザー見出しラベルが作成されて、ファイルの始めて読み取られたユーザー見出しラベルからデータを複製する現行および次のテープ・ボリュームに書き込まれます。

*NONE

ユーザー・プログラムはユーザー・テープ・ラベルを処理しません。ユーザー・ラベルはテープ・ボリュームに書き込まれません。

ユーザー・ラベル・プログラム名

ユーザー・テープ・ラベルを処理するユーザー・プログラムの名前およびライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ユーザー・ラベル・プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ユーザー・ラベル・プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

FROM装置終了オプション (FROMENDOPT)

取り出し装置 (FROMDEV)パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームを巻き戻すか、あるいは操作の完了後に巻き戻してアンロードするかを指定します。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。これはテープ駆動機構で現在位置に留まります。

[トップ](#)

TO装置終了オプション (TOENDOPT)

受け取り装置 (TODEV)パラメーターで指定された装置に入っているテープ・ボリュームを巻き戻すか、あるいは操作の完了後に巻き戻してアンロードするかを指定します。

***UNLOAD**

操作の完了後にテープが巻き戻されアンロードされます。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。これはテープ駆動機構で現在位置に留まります。

[トップ](#)

活動ファイルの検査 (CHECK)

受け取り装置 (TODEV)パラメーターでマウントされたボリューム上のテープ・ファイルで、その上書き前に活動データの有無が検査されるかどうかを指定します。受け取り装置にラベルなしボリュームがある場合には、このパラメーターは無視されます。

***YES** 上書きされるファイルは活動データの有無を検査されます。上書きされる最初のファイルだけが活動データの有無を検査され、後続のファイルは検査されません。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。

***NO** テープの複製は活動ファイルの検査なしで続行されます。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

コピーされる時にすべてのファイルに割り当てられる満了日を指定します。このパラメーターは、標準ラベル・テープにのみ適用されます。

***FROMFILE**

コピーされるファイルに現在指定されている満了日が使用されます。

***PERM**

コピーされたすべてのファイルに永続満了日が割り当てられます。

満了日 コピーされる時にすべてのファイルに割り当てられる満了日を指定してください。

[トップ](#)

DUPTAPの例

例1:単一のボリュームから単一のボリュームへの複写

```
DUPTAP FROMDEV(TAPE01) TODEV(TAPE02)
```

このコマンドは、装置TAPE01にマウントされたテープ・ボリュームを装置TAPE02にマウントされたテープ・ボリューム上に複写します。

例2:単一のボリューム終わりへのボリューム・セットの追加

```
DUPTAP FROMDEV(TAPE01) TODEV(TAPE02) FROMVOL( VOL001 VOL002)
      TOVOL(VOLABC) FROMSEQNBR(*ALL) TOSEQNBR(*END)
```

このコマンドは、テープ・ボリュームVOL001およびVOL002のすべてのファイルを装置TAPE02上の宛先ボリュームVOLABCに複写します。

トップ

エラー・メッセージ： DUPTAP

*ESCAPE メッセージ

CPF67E8

FROMVOLパラメーターおよびTOVOLパラメーターが正しくない。

CPF67FA

ボリュームの互換性が正しくない。

CPF67FD

ボリューム&2にファイル順序番号&3は正しくない。

CPF67FE

ボリューム&2でファイルが見つからない。

CPF67F7

継続ボリュームを複写することはできない。

CPF67F8

ボリューム&2に対してTOSEQNBRは正しくない。

CPF6703

部分ファイルの*ENDへの複写は正しくない。

CPF6704

セットは複写されていない。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6720

装置&1で間違ったボリューム&2が見つかった。

CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

CPF6722

装置&1にテープの終わりが見つかった。

CPF6734

ファイル順序番号&3がボリューム&2に見つからなかった。

CPF6740

TODEVとFROMDEVは異なるものでなければならない。

CPF6741

装置&1でラベルなしテープ形式は正しくない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF6751

装置&4でロードの障害が起こった。

CPF6754

ボリューム&2に活動ファイル&4が見つかった。

CPF6760

装置&1の準備ができていない。

CPF6768

装置&1のボリュームは書き込み保護されている。

CPF6772

装置&1のボリュームを処理することができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

権限リスト編集 (EDTAUTL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト編集(EDTAUTL)コマンドは、ユーザーおよびその権限のリストを表示します。この画面から、ユーザーはユーザーを追加および除去でき、権限リストでユーザーの権限を変更することができます。

制約事項: 指定された権限リストに対する権限リスト管理(*AUTLMGT)権限または所有権が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 権限リスト	名前	

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

編集する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 編集する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

EDTAUTLの例

EDTAUTL AUTL(MYLIST)

このコマンドは、権限リストMYLISTを表示し、それを変更することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EDTAUTL

***ESCAPE** メッセージ

CPF22B9

権限の変更は認可されていない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

[トップ](#)

バックアップ・リストの編集 (EDTBCKUPL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・リスト編集(EDTBCKUPL)コマンドにより、ユーザーはバックアップするライブラリーおよびフォルダーを選択することができます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPL	バックアップ・リスト	*LIB, *FLR	オプション、位置 1

トップ

バックアップ・リスト (BCKUPL)

変更するバックアップ・リストを指定します。

***LIB** ライブラリー・バックアップ・リストが変更されます。

***FLR** フォルダー・バックアップ・リストが変更されます。

トップ

EDTBCKUPLの例

EDTBCKUPL BCKUPL(*LIB)

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYS中のユーザー索引QEZBACKUPLに保管されたライブラリー・バックアップ・リストを表示し、これを変更できるようにします。

トップ

エラー・メッセージ: EDTBCKUPL

***ESCAPE**メッセージ

CPF1EEA

ライブラリー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1E6B

フォルダー・バックアップ・リストは使用中である。

CPF1E6D

フォルダー・バックアップ・リストに損傷があったので、新しいリストが作成された。

CPF1E65

ライブラリー・バックアップ・リストは使用中である。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

CHKPND制約の編集 (EDTCPCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検査保留制約編集(EDTCPCST)コマンドは、制約違反の可能性のあるレコード（検査保留）をもつ確立された制約のリストを表示します。この画面からは、初期プログラム・ロード(IPL)中に再作成される制約の順序を検査して、選択または変更することができます。

検査保留制約がある場合には、このコマンドは在席IPLの実行中に呼び出されます。この画面からは、選択された制約の検査中にシステムがIPLを続行するか、あるいは選択された制約を検査した後にIPLを続行するかを選択することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

EDTCPCSTの例

例1:制約のリストの編集

EDTCPCST

このコマンドは、検査保留となっている参照制約を表示します。この画面から制約の検査のために順序を編集できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EDTCPCST

*ESCAPEメッセージ

CPF325C

データベース・オブジェクト&1にエラーがある。

[トップ](#)

DLファイル属性の編集 (EDTDLFA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・リンク・ファイル属性の編集(EDTDLFA)コマンドによって、データ・リンクの状況を表示および変更することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

EDTDLFAの例

データ・リンクのリストの編集

EDTDLFA

このコマンドは、保留中のデータ・リンク要求があるデータ・リンクを表示します。この画面から保留中のリンク要求またはリンク解除要求を試みるために順序を編集できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EDTDLFA

なし

[トップ](#)

DLO権限編集 (EDTDLOAUT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO) 権限編集(EDTDLOAUT)コマンドは、文書またはフォルダー・オブジェクトに対するユーザー認可を変更するために使用されます。

指定した文書またはフォルダーについて次の情報が表示されます。

- 文書またはフォルダーの名前。
- 文書またはフォルダーの所有者。
- 文書またはフォルダーを保護している権限リスト (存在する場合) の名前。
- 文書またはフォルダーの個人状況。
- 文書またはフォルダーに対して認可されている特定のユーザーのリスト。
- 特定権限をもたず(*PUBLIC),権限リスト上になく、またそのユーザー・グループが文書またはフォルダーに対して何の権限ももっていないユーザーに与えられている権限。

制約事項:

1. 権限または*ALLOBJ特殊権限を変更するためには、その文書またはフォルダーに対して*ALL権限が必要です。
2. このコマンドを使用するためには、ADDDLOAUT, CHGDLOAUT,およびRMVDLOAUTコマンドを使用する権限が必要です。
3. *ROOTフォルダー共通認可を変更するためには、ユーザーは*ALLOBJ特殊権限をもっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

ユーザー権限を変更する文書またはフォルダーの名前を指定します。

*SYSOBJNAM

ユーザー権限は、システム・オブジェクト名プロンプト (SYSOBJNAMパラメーター) に指定されたシステム・オブジェクト名をもつ文書またはフォルダーに対して変更されます。

*ROOT

*ROOTフォルダーの共通権限值が変更されます。

文書またはフォルダー名

ユーザー権限を変更する文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

フォルダー名は指定されません。文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト (DLO パラメーター) で名前を指定して、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、*NONEを指定することはできません。

フォルダー名

オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

フォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト (DLOパラメーター) に*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

オブジェクト名

ユーザー権限を変更するフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。10桁を指定しなければなりません。

[トップ](#)

EDTDLOAUTの例

EDTDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR)

このコマンドによって、このコマンドのユーザーは、許可ユーザーおよびその権限のリストをフォルダーMYFLR内のDOCAという名前の文書ライブラリー・オブジェクトに変更することができます。このコマンドのユーザーは、そのオブジェクトに対する*ALL権限が必要か、あるいはそのオブジェクトの所有者でなければなりません。

エラー・メッセージ： EDTDLOAUT

*ESCAPEメッセージ

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF89C0

指定した値が正しくない。

CPF90BA

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

CPF90B6

間違った入力値が指定された。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF9079

ユーザー・プロファイル&1の文書記述のGET要求は正常に行なわれなかった。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル編集 (EDTF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル編集(EDTF)コマンドにより、ストリーム・ファイルまたはデータベース・ファイルを編集することができます。このコマンドはファイルまたはディレクトリーをブラウズするために使用することもできます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STMF	ストリーム・ファイル、または	パス名	オプション、位置 1
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	ファイル・メンバー	名前, *FIRST	オプション

トップ

ストリーム・ファイル, または (STMF)

編集するファイルの名前を指定します。

ストリーム・ファイル名

編集するオブジェクトの名前と一致するオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字に対応します。指定した文字と一致するすべてのファイルまたはサブディレクトリーのリストが表示されます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。指定したファイル名がディレクトリーである場合には、ファイルおよびサブディレクトリーのリストが表示されます。このリストから、ディレクトリー中のファイルを編集または表示することができます。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

データベース・ファイル (FILE)

編集するデータベース・ファイルの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル・メンバー (MBR)

編集するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*FIRST

データベース・ファイル中の最初のメンバーが編集されます。

メンバー名

編集するメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

EDTFの例

例1: ストリーム・ファイルの編集

```
EDTF STMF('/MYDIR/MYFILE.TXT')
```

このコマンドは、ルート・ディレクトリーの下のディレクトリーMYDIRに入っているファイルMYFILE.TXTの編集セッションを開始します。

例2: データベース・ファイル・メンバーの編集

```
EDTF FILE(MYLIB/MYFILE) MBR(MYMBR1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているファイルMYFILE のメンバーMYMBR1の編集セッションを開始します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EDTF

*ESCAPE メッセージ

CPFB601

表示装置ファイルQDZRUEDTが脱落しているか、あるいは損傷があります。

CPFB604

行コマンドの処理時にエラー。

CPFB605

行コマンドが正しくありません。

CPFB609

ワークスペースを割り振ることができません。

CPFB610

コマンドが正しくない。

CPFB611

&3の&1個のオカレンスに変更された。&2は変更されていません。

CPFB612

検索または置き換えストリングが指定されていません。

CPFB613

印刷装置ファイルのオープン中のエラー。

CPFB614

ファイル名が指定されていません

CPFB615

ターゲット行が指定されていない。

CPFB617

CCSIDが正しくない。

CPFB618

CCSID &1およびジョブのCCSID間の変換はサポートされていない。

CPFB619

ファイルは空です。

CPFB620

&2

CPFB621

ファイルの表示または編集, あるいはその両方ができない。

[トップ](#)

DBCS変換辞書編集 (EDTIGCDCT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書編集(EDTIGCDCT)コマンドによって、英数字項目およびこれらに関連した2バイト文字セット(DBCS)の語句を指定されたDBCS変換辞書に対して追加、変更、および削除することができます。システムはDBCS変換の実行時に、DBCS変換辞書を参照します。システムは、このコマンドを指定した時に編集される項目を表示します。

注: 中国語および韓国語の2バイト文字セットの場合には、DBCS変換機能の使用はお奨めできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ENTRY	辞書項目	X'40'-X'FE', *ALL	オプション

[トップ](#)

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

編集される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書および辞書が保管されているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、ライブラリー・リストの検索時に最初に見つかった辞書が編集されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

辞書を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

辞書が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

辞書項目 (ENTRY)

関連した2バイト文字セット(DBCS)の語句と一緒に編集される英数字項目を指定します。

***ALL** 辞書中の任意の項目を編集することができます。システムは最初に、辞書中のすべての英数字項目を表示するDBCS変換辞書の処理画面を表示します。この画面から、編集する特定の項目を選択します。

総称*ストリング

1つまたは複数の文字の文字ストリングとそれに続くアスタリスク(*)を指定してください。指定したストリングで始まるすべての項目を編集することができます。システムは、最初にDBCS変換辞書の処理画面を表示します。この画面から、編集する特定の項目を選択します。アスタリスクを含めない場合には、システムは特定のストリングを編集するものと見なします。

ストリングは、12文字より長くすることはできません。

特定ストリング

文字ストリングを指定してください。システムは、単一の英数字およびそれに関連したDBCSの語句を表示するDBCS関連語句の編集表示画面を表示します。指定した項目を編集することができます。

ストリングは、12文字より長くすることはできません。この画面で、関連語を編集することができます。

トップ

EDTIGCDCTの例

例1:「DBCS変換辞書の処理」画面の表示

```
EDTIGCDCT  IGCDCD(DBCSLIB/QUSRIGCDCT)  ENTRY(123*)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されている辞書QUSRIGCDCT中の123で始まるすべての英数字項目を示す「DBCS変換辞書の処理」画面を表示します。

例2:「関連ワードの編集」画面の表示

```
EDTIGCDCT  IGCDCD(DBCSLIB/QUSRIGCDCT)  ENTRY(WORDS)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されている辞書QUSRIGCDCTから英数字項目WORDSおよびその関連ワードを示す「関連ワードの編集」画面を表示します。

トップ

エラー・メッセージ: EDTIGCDCT

*ESCAPEメッセージ

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF8138

&9のDBCS変換辞書&4に&8の損傷がある。

CPF8440

項目をシステムのDBCS変換辞書に追加することはできない。

CPF8451

入力値&1が正しくない。

CPF8455

ワークステーションがDBCS装置でない。

CPF8461

DBCS変換辞書の項目&1が論理的に損傷している。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト編集 (EDTLIBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト編集(EDTLIBL)コマンドは入力画面を表示し、これによって、ユーザーはライブラリー・リストのユーザー部分に変更を行なうことができます。「ライブラリー・リストの編集」画面によって、ライブラリー・リストのユーザー部分にライブラリーを追加し、ライブラリー・リストのユーザー部分からライブラリーを除去し、さらにライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーの順序を変更することができます。このコマンドは対話式コマンドです。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

EDTLIBLの例

EDTLIBL

このコマンドは、ライブラリーを追加し、ライブラリーを除去し、さらにライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーの順序を変更することができる「ライブラリー・リストの編集」画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EDTLIBL

*ESCAPEメッセージ

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2184

ライブラリー・リストは置き換えられなかった。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2255

コマンド&1の権限テストが正常に実行されなかった。

[トップ](#)

オブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト権限編集(EDTOBJAUT)コマンドは、オブジェクトの認可されたユーザーおよびその関連したユーザーの権限のリストを表示します。ユーザーがオブジェクトを所有しているか、または*ALLOBJ特殊権限を持っている場合には、ユーザーはオブジェクトの権限の追加、変更、または除去を行なうことができます。オブジェクトに対してオブジェクト管理権限がある場合には、特定権限を除去するか、他のユーザーに対して特定権限を認可または除去することができます。

指定したオブジェクトについて次が表示されます。

- オブジェクト名
- オブジェクトが入っているライブラリーの名前
- オブジェクトの所有者の名前
- オブジェクトのタイプ
- オブジェクトの使用を認可されたすべてのユーザーのリスト
- 各ユーザーがオブジェクトに対して持っている権限
- オブジェクトが権限リストによって保護されている時には、権限リスト名が表示されます。

オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、オブジェクトに対するオブジェクト管理権限が必要です。
2. オブジェクトがファイルの場合には、ユーザーにはオブジェクト操作権限およびオブジェクト管理権限が必要です。
3. 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *C>NNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCTBL, *IGCSRT, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

認可ユーザーおよびその権限を表示するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

認可ユーザーとその権限を表示する、コマンド(*CMD)、ファイル(*FILE)、またはプログラム(*PGM)などのオブジェクトのオブジェクト・タイプ。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F 4 (プロンプト) を押してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

- * 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2-32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて (ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

[トップ](#)

EDTOBJAUTの例

```
EDTOBJAUT OBJ(ARLIB/PROG1) OBJTYPE(*PGM)
```

このコマンドにより、PROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限のリストが表示されることとなりますが、そのユーザーがそのオブジェクトに対するオブジェクト管理権限をもっている場合だけです。PROG1は、ARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラム(*PGM)です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EDTOBJAUT

*ESCAPE メッセージ

CPF22B8

権限の変更は認可されていない。

CPF22B9

権限の変更は認可されていない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

[トップ](#)

質問・回答の編集 (EDTQST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問・回答編集(EDTQST)コマンドによって、認可されたユーザーは指定したデータベース内で公表するための質問・回答を編集することができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプションル, 位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプションル, 位置 2

[トップ](#)

Q/Aデータベース (QSTDB)

質問・回答を編集するQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

質問・回答を編集するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q&Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

[トップ](#)

EDTQSTの例

EDTQST

このコマンドは、候補質問処理画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EDTQST

なし

[トップ](#)

アクセス・パスの再作成の編集 (EDTRBDAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス再作成編集(EDTRBDAP)コマンドは、アクセス・パス再作成編集メニューを表示し、このメニューからアクセス・パス情報を表示または変更できます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、QSYSOPRとしてサインオンするか、すべてのオブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

EDTRBDAPの例

EDTRBDAP

このコマンドは、再作成されたアクセス・パスを編集する時に使用可能な制御を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: EDTRBDAP

*ESCAPEメッセージ

CPF325C

データベース・オブジェクト&1にエラーがある。

[トップ](#)

アクセス・パスの回復の編集 (EDTRCYAP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス回復編集(EDTRCYAP)コマンドは、システムASPおよび現在システム上で活動状態の補助記憶域プール(ASP)のアクセス・パス回復時間のリストを表示します。このリストから、目標アクセス・パス回復時間を変更し、更新された回復状況情報を検討することができます。さらに、このコマンドでは、現在システム管理アクセス・パス保護によって保護されている最大概算アクセス・パス回復時間を持つ最大500のアクセス・パスが表示されます。

システムは異常終了後の初期プログラム・ロード(IPL)中または独立ASPのオンへの変更中にアクセス・パスを回復する場合には、システムは指定された目標アクセス・パス回復時間より多くを使用することはありません。アクセス・パス回復時間は目標であるため、パフォーマンスはその目標に近い範囲となります。

ファイル・コピー(CPYF)、物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)、またはオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドの実行時に表示されるアクセス・パスを再作成するための時間は、このコマンドを使用して保護されるアクセス・パスの目標アクセス・パス回復時間には含まれません。

このコマンドまたはアクセス・パス回復変更(CHGRCYAP)コマンドは、ジャーナル処理によってまだ保護されていないアクセス・パスの保護を管理するために使用することができます。

このコマンドの使用法の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))の「バックアップおよび回復」のトピックを参照してください。

このコマンドにはパラメーターはありません。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する私用認可を持ちます。
- 現在のアクセス・パス回復状態が*OFFの場合には、目標アクセス・パス回復時間値を指定してシステム管理アクセス・パス保護を活動化するためには、ユーザーは制限された状態になければなりません。
- ユーザー補助記憶域プール(ASP)がシステム上に存在しない場合には、ASP 1のアクセス・パスの回復時間を指定することはできません。システム・アクセス・パスの回復時間を指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

EDTRCYAPの例

EDTRCYAP

このコマンドは、ユーザーのシステムおよび構成済みユーザー補助記憶域プール(ASP)のターゲット・アクセス・パス回復時間を表示または変更できる「アクセス・パス回復の編集」画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EDTRCYAP

*ESCAPEメッセージ

CPF70FA

変更の完了前に回復時間がリセットされた。

CPF70FB

コマンドを使用する権限がない。

CPF70FC

システム時間*OFFでASPの時間の変更は正しくない。

CPF70FE

システム時間が*OFFの時にASPの時間変更は正しくない。

CPF70F4

エラーが起きました。

CPF70F7

回復時間を変更するためには制限状態のシステムが必要である。

CPF70F9

回復時間の変更をすべて活動化することができない。

CPF700F

&1のアクセス・パス回復時間は*NONEに設定された。

CPF701C

システムのアクセス・パスの回復時間に対する変更が取り消された。

CPF701D

回復時間の変更中にエラーが起こった。

CPF701E

アクセス・パスの保護を*OFFにできない。

CPF702E

アクセス・パスの回復時間がシステムの省略時の値に設定された。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

S/36プログラム属性編集 (EDTS36PGMA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36プログラム属性編集(EDTS36PGMA)コマンドは、画面上に指定されたプログラムのプログラム属性を表示するので、これらを変更することができます。指定されたプログラムの属性、または指定したライブラリーのすべてのプログラムの属性を変更することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	S/36プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: S/36プログラム	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

S/36プログラム (PGM)

属性を更新するプログラムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ライブラリー中のすべてのプログラムの属性が、更新のために表示されます。指定したライブラリーが*LIBLである場合には、*ALLを指定することはできません。

プログラム名

プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** プログラムを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

EDTS36PGMAの例

EDTS36PGMA PGM(RPGLIB/*ALL)

このコマンドは、RPGLIB内のプログラムすべてのプログラム属性を表示し、それらのプログラムを変更できるようにします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EDTS36PGMA

*ESCAPEメッセージ

CPF2C01

プログラム&1属性は変更されなかった。

CPF2C02

SSPプログラム&1の属性の変更は認められない。

CPF2C03

MRTMAXパラメーターの値&3が正しくない。

CPF2C05

ライブラリー*LIBLでプログラム名*ALLを使用することができない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

S/36 プロシージャ属性編集 (EDTS36PRCA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36 プロシージャ属性編集(EDTS36PRCA)コマンドは、指定されたプロシージャの属性を変更するために画面に表示します。指定したプロシージャの属性または指定したライブラリーのすべてのプロシージャの属性を変更することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	S/36 プロシージャ・メンバー	名前, *ALL	必須, 定位置 1
FILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QS36PRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

S/36 プロシージャ・メンバー (MBR)

属性を更新するプロシージャ・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ファイル中のすべてのプロシージャ・メンバーの属性が、更新のために表示されます。

プロシージャ・メンバー名

プロシージャ・メンバーの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイル (FILE)

プロシージャ・メンバーの入っている物理ファイルの名前を指定します。

QS36PRC

これは省略時の物理ファイルの名前です。

ソース・ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

EDTS36PRCAの例

EDTS36PRCA MBR(RPGPROC) FILE(RPGLIB)

このコマンドは、ライブラリーRPGLIB内のファイルQS36PRC中のプロシージャーRPGPROCの属性を表示し、それらのプロシージャーを変更できるようにします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EDTS36PRCA

***ESCAPEメッセージ**

CPF2C0A

メンバー&3の属性は変更されなかった。

CPF2C0B

SSPメンバー&3の属性の変更は認められない。

CPF2C08

ファイル&1がソース・ファイルでない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

S/36ソース属性編集 (EDTS36SRCA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム/36ソース属性編集(EDTS36SRCA)コマンドは、変更のために指定されたソース・メンバーの属性を画面上に表示します。指定されたソース・メンバーの属性、あるいは指定したライブラリーのすべてのソース・メンバーの属性を変更することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MBR	S/36ソース・メンバー	名前, *ALL	必須, 定位置 1
FILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QS36SRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

[トップ](#)

S/36ソース・メンバー (MBR)

属性を更新するソース・メンバーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ファイル中のすべてのソース・メンバーの属性が、更新のために表示されます。

ソース・メンバー名

ソース・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (FILE)

ソース・メンバーが入っている物理ファイルの名前を指定します。

QS36SRC

省略時の物理ファイルQS36SRCが使用されます。

ソース・ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

EDTS36SRCAの例

```
EDTS36SRCA MBR(*ALL) FILE(SDALIB/QS36SRC)
```

このコマンドは、ライブラリーSDALIB内のファイルQS36SRC中のソース・メンバーのすべてソース属性を表示し、それらのソース・メンバーを変更できるようにします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EDTS36SRCA

*ESCAPEメッセージ

CPF2C0A

メンバー&3の属性は変更されなかった。

CPF2C0B

SSPメンバー&3の属性の変更は認められない。

CPF2C08

ファイル&1がソース・ファイルでない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9826

ファイル&2を割り振ることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト権限編集 (EDTWSOAUT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・オブジェクト権限編集(EDTWSOAUT)コマンドは、指定されたワークステーション・オブジェクトに対して認可されたユーザーおよび対応する権限のリストを表示します。ワークステーション・オブジェクトは、OS/400グラフィックス操作プログラムによって使用されます。オブジェクトの所有者または機密保護担当者は、オブジェクトに対する権限の認可、変更、または取り消しを行なうことができます。オブジェクトのオブジェクト管理権限を持っている場合には、他のユーザーに権限を認可しあるいは権限を取り消すことができます。

指定されたオブジェクトについて、次が表示されます。

- オブジェクト名
- オブジェクトが入っているライブラリーの名前
- オブジェクト所有者の名前
- オブジェクト・タイプ
- オブジェクトの使用を認可されたすべてのユーザーのリスト
- 各ユーザーがオブジェクトに対して持っている権限
- 権限リスト名 (オブジェクトが権限リストによって保護されている場合)

オブジェクトに対応する所有者名がない場合には、そのオブジェクトの権限は表示されません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するためには、オブジェクトに対するオブジェクト管理権限が必要です。
2. オブジェクトがファイルの場合には、ユーザーはこのコマンドを使用するためにオブジェクト操作権限およびオブジェクト管理権限を持っていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WSOTYPE	ワークステーション・オブジェクト・タイプ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOB, *JOB, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJL, *OBJL, *TPLLIBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSET	

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)

権限を編集するワークステーション・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

*TPLWRKARA

作業域テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*WRKARA

作業域オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLPRTOL

印刷装置出力リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*PRTOL

印刷装置出力リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLPRTL

印刷装置リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*PRTL 印刷装置リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLOUTQ

出力待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLOUTQL

出力待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*OUTQL

出力待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLJOB

ジョブ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*JOB

ジョブ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLJOBQ

ジョブ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLJOBLOG

ジョブ・ログ・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*JOBLOG

ジョブ・ログ・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLJOBQL

ジョブ待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*JOBQL

ジョブ待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLMSG

メッセージ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*MSG

メッセージ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGQ**

メッセージ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGSEND**

メッセージ送信元テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***MSGSEND**

メッセージ送信元オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLSGNUSL**

サインオンしたユーザー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***SGNUSL**

サインオンしたユーザー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOBJL**

オブジェクト・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***OBJL**

オブジェクト・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLIBSL**

ライブラリー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***LIBSL**

ライブラリー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLIB**

ライブラリー・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLAUNCH**

ジョブ送信者テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***LAUNCH**

ジョブ送信者オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***PRSET**

個人設定オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

[トップ](#)

EDTWSOAUTの例

EDTWSOAUT WSOTYPE(*TPLMSGQ)

このコマンドは、メッセージ待ち行列テンプレートに対する許可ユーザーのリストを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

エミュレーション出力エジェクト (EJTEMLOUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エミュレーション出力排出(EJTEMLOUT)コマンドは、印刷装置ファイルをクローズすることによって、ホスト・システムから受信した最後のデータを強制的にスプール・ファイルまたは印刷装置に送り出します。印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドに*IMMEDを指定した場合には、このクローズの後に別の印刷装置ファイルがオープンされるので、さらに多くのデータをスプールまたは印刷することができます。印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドの**スプール出力のスケジュール (SCHEDULE)**パラメーターに*FILEENDを指定した場合には、この後で印刷が開始されます。

注: エミュレーション印刷装置出力が排出された場合には、ページ排出も実行されます。

装置エミュレーションの詳細は、3270 DEVICE EMULATION SUPPORT (SC41-5408)にあります。

追加の考慮事項

このコマンドを実行する時には注意が必要です。コマンドを入力する前に印刷出力を調べるか (SPOOL(*NO)が指定されている場合)、あるいはスプール・ファイル表示(DSPSPLF)コマンドを使用してスプール・ファイルを調べて (SPOOL(*YES)が指定されている場合)、印刷装置データが論理的な中断点にあるかどうかを判別してください。印刷装置エミュレーションがホスト・システムからの印刷データの処理の途中である時にこの機能が要求された場合には、グループがシステム上で別個の印刷装置ファイルに分割されます。

印刷装置エミュレーション出力でのこのコマンドの効果は、印刷装置ファイルのSPOOLおよびSCHEDULEパラメーターに指定された値によって異なります。

指定できる値およびその条件は次の通りです。

- SPOOL(*NO): ホスト・システムから受信されたすべてのデータが印刷され、印刷装置は次のページの最上部に進みます。
- SPOOL(*YES)およびSCHEDULE(*IMMED): 書き出しプログラムが出力待ち行列に対して活動状態であり、このファイルを印刷中である場合には、ホスト・システムから受信されたすべてのデータが印刷され、印刷装置は次のページの最上部に進みます。書き出しプログラムが活動状態 (このファイルを印刷中) でない場合には、効果は、SCHEDULE(*FILEEND)が指定された場合と同じです。出力待ち行列上で別の印刷装置ファイルがオープンされます。
- SPOOL(*YES)およびSCHEDULE(*FILEEND): 出力待ち行列上での印刷装置ファイルの状況はオープンから印刷可能に変わります。書き出しプログラムが活動状態である場合には、データを印刷することができます。出力待ち行列上で別の印刷装置ファイルがオープンされます。
- SPOOL(*YES)およびSCHEDULE(*JOBEND): 出力待ち行列上での印刷装置ファイルの状況はオープンからクローズに変わります。ジョブの終わりに達するまで、ファイルは印刷可能になりません。出力待ち行列上で別の印刷装置ファイルがオープンされます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプションル, 定位置 1
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプションル, 定位置 2
PRTDEV	印刷装置	名前	オプションル, 定位置 3

[トップ](#)

エミュレーション装置 (EMLDEV)

ホスト・システムからデータを受け取る印刷装置エミュレーション装置の名前を指定します。この装置は3287印刷装置(EMLDEV(3287))または3289印刷装置(EMLDEV(3289))でなければならず、さらにLU1装置として現在作動中でなければなりません。この装置を使用しようとする印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションは要求を通知されます。LU1セッションがブラケット間である場合には、印刷装置エミュレーションはブラケットを開始して、方向転換(CD)要求でPAキー信号をホスト・システムに送信します。LUセッションが受信状態になっている場合には、信号(CD のための要求) がホスト・システムに送信されて、印刷装置エミュレーションはCD を待ちます。CDを受信すると、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。LUセッションが送信状態になっている場合には、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。

このパラメーター、あるいは **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーターおよび**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターが必要です。

[トップ](#)

エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

このセッションと関連したリモート・ロケーション名を指定します。ロケーション名は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRT EML)コマンドのエミュレーション・ロケーション(EMLLOC)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

このパラメーターと**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーター、または**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターのいずれかが必要です。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

スプール出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRT EML)コマンドの印刷装置(PRTDEV)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。EMLLOCパラメーターが指定されているときには、このパラメーターを指定しなければなりません。

このパラメーターと **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーター、あるいは**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターが必要です。

[トップ](#)

EJTEMLOUTの例

EJTEMLOUT EMLDEV(HOSTPRT1)

このコマンドは、エミュレーション装置HOSTPRT1を使用してホスト・システムから最新データをプール・ファイルまたは印刷装置に強制的に出力して、印刷装置エミュレーション・ジョブ内の印刷装置ファイルをクローズします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： EJTEMLOUT

*ESCAPEメッセージ

CPF8595

エミュレーション出力エジェクト機能は実行されない。

[トップ](#)

要素定義 (ELEM)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

要素(ELEM)コマンド定義ステートメントは、コマンド上の混合リスト・パラメーターの要素を定義するために使用されます。リスト・パラメーターとは、1つのパラメーターによって示される連続した値として一緒に渡される複数の値を受け入れるパラメーターです。値の前には、パラメーターに定義された要素の数を示す2バイトの2進数が付いています。

リスト項目とは、リスト中の特定の順序で並べられたいくつもの値のグループの中の1つの値を表す値です。タイプの異なるリスト要素がある場合には、定義しているリストの各要素にそれぞれ1つのELEMステートメントを使用しなければなりません。すべての要素が同じタイプのものである(単純リスト)場合には、個別にELEMステートメントを使用する必要はありません。単純リストの場合には、PARMステートメントの許される最大値 (MAX)パラメーターにリストの要素の数を指定するだけで十分です。

リスト中における各ELEMステートメントの位置的順序は、それらがソース・ファイルに入力される順序によって決まります。最初のELEMステートメント(最初のリスト項目に対するもの)には、同じリストに対するPARMまたはELEMステートメントの値のタイプ (TYPE)パラメーターのステートメント・ラベルと一致するステートメント・ラベルが必要です。リスト中の残りのELEMステートメントはラベルなしでなければなりません。異なる値をもつ要素のリストのネストは、最高位のレベルを含めて、3レベルの深さまで可能です。1つのリストには最大300個の要素を含めることができます。

注: ELEMステートメントには、定義中のコマンドによって弊社提供コマンド処理プログラム(CPP)が呼び出される場合にだけ使用できる一定のパラメーターおよび事前定義の値が含まれます。一部の高水準言語では制限があるので、このような値は、ユーザー定義コマンドの定義ステートメントでは有用でない場合があります。パラメーター全体が弊社提供コマンド専用である場合には、このようなパラメーターおよび値は、弊社提供コマンド用という語句によって識別されますが、その語句は適用されるパラメーター・キーワードまたは事前定義値の直後に続きます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	値のタイプ	単純名, *DEC, *CHAR, *LGL, *NAME, *VARNAME, *INT2, *GENERIC, *INT4, *DATE, *TIME, *ZEROELEM, *HEX, *SNAME, *PNAME, *UINT2, *UINT4, *X, *CNAME	必須, 定位置 1
LEN	値の長さ	値 (最大 3 回の繰り返し): 整数	オプション, 定位置 2
CONSTANT	定数値	文字値	オプション
RSTD	制約された値	*YES, *NO	オプション
DFT	省略時の値	文字値	オプション
VALUES	有効な値	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
REL	比較式	要素リスト	オプション
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 値	文字値	
RANGE	値の範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 下限値	文字値	
	要素 2: 上限値	文字値	
SPCVAL	特殊値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
SNGVAL	単一値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
MIN	許される最小値	0-300, <u>0</u>	オプション
MAX	許される最大値	整数, <u>1</u>	オプション
ALWUNPRT	印刷不能文字使用可能	*YES, *NO	オプション
ALWVAR	変数名使用可能	*YES, *NO	オプション
PGM	ELEMはプログラムである	*NO, *YES	オプション
DTAARA	ELEMはデータ域である	*NO, *YES	オプション
FILE	ファイル・パラメーターの場合の使用法	*NO, *IN, *OUT, *UPD, *INOUT, *UNSPFD	オプション
FULL	全桁入力必須	*YES, *NO	オプション
EXPR	式の評価	*NO, *YES	オプション
VARY	可変の長さ	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ値の戻し	*YES	
	要素 2: 値の長さ	*INT2, *INT4	
PASSATR	属性バイト受け渡し	*YES, *NO	オプション
CASE	値のケース	*MONO, *MIXED	オプション
DSPINPUT	画面入力	*YES, *PROMPT, *NO	オプション
CHOICE	テキスト選択	文字値, *VALUES, *NONE, *PGM	オプション
CHOICEPGM	プログラム選択	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム選択	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INLPMTLEN	初期プロンプト長	*CALC, *PWD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256, 512	オプション
PROMPT	プロンプト・テキストまたはメッセージID	文字値, *NONE	オプション

トップ

値のタイプ (TYPE)

定義中のリスト項目のタイプを指定します。この要素は、整数、10進数値、または論理値とするか、あるいは名前、ラベル、日付、または時刻となることができる引用符付きまたは引用符なしの文字ストリングとすることができます。

***DEC** リスト項目はパック10進数値です。

***LGL** リスト項目は論理値（1('1')またはゼロ('0')のいずれか）です。

***CHAR**

リスト項目は（任意に）アポストロフィで囲むことができる文字ストリングです。文字ストリングに特殊文字（アスタリスク(*)以外）がある場合には、それをアポストロフィで囲まなければなりません。文字ストリングの最大文字数は5000です。

***NAME**

リスト項目は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。また、名前は始めと終わりを2重引用符(")で囲むか、あるいは括弧で囲まれた文字のストリングとすることもできます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

***SNAME**

リスト項目は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字の1つの¥, @,または#でなければなりません。残りの文字は英数字、下線、あるいは特殊文字の1つの¥, @,または#とすることができます。文字ストリングは括弧で囲むことができます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

***CNAME**

リスト項目は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

***PNAME**

リスト項目はパス名ストリングを表す文字ストリングです。任意選択で、パス名ストリングをアポストロフィで囲むことができます。パス名ストリングに（アスタリスク(*)以外の）特殊文字が入っている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。パス名ストリングの最大長は5000文字です。

***GENERIC**

リスト項目は総称名を表す文字ストリングです。総称名には後にアスタリスク(*)を付けて最大255文字を使用できますが、総称名の規則に従った名前であればなりません。総称名は、アスタリスクに先行する文字で始まる名前をもつ1グループのオブジェクトを識別します。アスタリスクを含めなかった場合には、システムは、総称名を1つの完全なオブジェクト名と見なします。

***DATE**

リスト項目は日付を表す文字ストリングです。コマンドを入力する時に、年は2桁または4桁のいずれかで指定することができます。年を2桁で指定する場合には、その日付は1940年1月1日から2039年12月31日までの範囲内になっていると見なされます。年を4桁で指定する場合には、その日付は1928年8月24日から2071年5月9日までの範囲内になっていると見なされます。これは、CPPに渡される時に、常にCYMMDDの形式で渡されます。ここで、C =世紀、YY =年、MM =月、およびDD =日です。世紀桁は、年が19XXである場合には0（ゼロ）に、年が20XXである場合には1に設定されます。このELEMステートメントに日付の値を指定する時には、引用符なしの次の形式の1つで指定しなければなりません。MMDDYY、MMDDYYYY、またはCYMMDDです。コマンドの実行時にユーザーが日付を入力する場合には、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。日付を入力する時は、ジョブ日付区切り文字を使用することができます。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

***TIME** リスト項目は時刻を表す文字ストリングです。これは、HHMMSSとして6バイトの文字ストリング

でコマンド処理プログラムに渡されます。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。このステートメントに指定する値はHHMMSSの形式でなければなりません。コマンドの実行時にユーザーが時刻を入力する場合には、HHMMSSの形式で指定しなければなりません。時刻を入力する場合には、ジョブ時刻区切り記号を使用することができます。区切り文字を使用する場合には、時刻をアポストロフィで囲む必要があります。

***HEX** リスト項目値は16進形式です。指定する文字は0-Fでなければなりません。これらの文字は16進(EBCDIC)文字（1バイトが2桁の16進数字）に変換され、右寄せにされ、ゼロが埋め込まれます。値をアポストロフィで囲んだ場合には、偶数桁が必要です。アポストロフィで囲まない場合には、桁数は奇数でも偶数でもかまいません。

***ZEROELEM**

リスト項目は常に、コマンドで値を指定できないゼロ要素のリストと見なされます。これは、CPPが値を必要としていても、リストである要素に値が入力されないようにするために使用されます。***ZEROELEM**の指定された要素についてはプロンプトは表示されません。パラメーター中のその他の要素はプロンプトが表示され、リストとしてCPPに渡されます。

***X** （弊社提供コマンドの場合）リスト項目値は、文字ストリング、変数名、または数値です。値に数字、+または-符号、あるいは小数点だけが入っている場合には、値は数字として渡され、そうでない場合には、文字ストリングとして渡されます。

***INT2** リスト項目は2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** リスト項目は4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***UINT2**

リスト項目は2バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

***UINT4**

リスト項目は4バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

***VARNAME**

（弊社提供コマンドの場合）リスト項目は文字ストリングとして渡される変数名です。この名前は、初めのアンパーサンド(&)を含めて、最大11文字とすることができます。

ステートメント・ラベル

リスト項目には、修飾リスト名または値の混合リストを使用することができます。TYPEパラメーターによってここで指定するステートメント・ラベルは、定義中の修飾リスト名または混合リストをより詳しく記述する一連のQUALまたはELEMステートメントの最初のを識別するステートメント・ラベルです。このラベルは、このリストに対するPARMステートメントの**値のタイプ (TYPE)**パラメーターのステートメント・ラベルによって指定するラベルと同じでなければなりません。

トップ

値の長さ (LEN)

コマンド処理プログラム(CPP)に渡されるリスト項目値の長さを指定します。

***INT2**, ***INT4**, ***UINT2**, ***UINT4**, ***DATE**, ***TIME**, ***ZEROELEM**, またはステートメント・ラベルが**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに指定されていると、このパラメーターは許可されません。

値のタイプ (TYPE)パラメーターで*DECを指定する場合には、10進値の長さを(N1 N2)の形式で指定します。ここで、N1は値の合計桁数（小数部分を含む）を指定し、N2は小数点の右側の許される小数部分の桁数を指定します。(N2の値は任意指定です。N2を入力しない場合には、ゼロと見なされます。)

値のタイプ (TYPE)パラメーターに*Xを指定した場合には、LENパラメーターは次のように使用されます。

- 文字データの場合には、桁数は、渡される最小桁数を指定します。それより長い値が入力された場合は、その値全体が渡されます。
- 10進データの場合には、桁数2および桁数3により、定数値の桁数および小数点以下の桁数を指定します。変数が入力された場合には、その変数は変数属性に従って渡されます。
- 論理値の場合には、桁数1に値の桁数を指定しますが、これは常に1です。

TYPEが*DECまたは*X以外の場合には、2番目と3番目のリスト素子を省略して、文字数だけを指定するようにならなければなりません。

トップ

定数値 (CONSTANT)

定義中のコマンドの処理時にリスト項目の値が定数としてCPPに渡されることを指定します。この要素は外面的にはコマンド上に現れません。指定する場合には、値は次のパラメーターによって指定された要件を満たすものでなければなりません。

- 値のタイプ (TYPE)
- 値の長さ (LEN)
- 有効な値 (VALUES)
- 比較式 (REL)
- 値の範囲 (RANGE)
- 特殊値 (SPCVAL)
- 全桁入力必須 (FULL)

このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32桁より長くすることはできません。次の場合には、このパラメーターは無効です。

- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*ZEROELEMを指定した場合。
- **式の評価 (EXPR)**パラメーターに*YESを指定した場合。
- **許される最大値 (MAX)**パラメーターに1より大きい値を指定した場合。
- **省略時の値 (DFT)**パラメーターに値を指定した場合。

定義中の要素に定数を指定する場合には、**プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)**パラメーターにプロンプト・テキストを指定することはできません。ただし、その場合でも、（このリスト項目がその一部である）リスト・パラメーターのその他の要素についてはプロンプトが出され、それらの要素の値はこの定数値と一緒にリストとしてCPPに渡されます。

このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

トップ

制約された値 (RSTD)

リスト項目(ELEMステートメントで指定) に入力する値を**有効な値 (VALUES)**パラメーター, **特殊値 (SPCVAL)**パラメーター, または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターで指定する値の1つだけに限定するかどうか, あるいは次のパラメーターによって指定される要件を満たす値ならどんな値でもよいかどうかを指定します。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 値の長さ (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

***NO** このELEMステートメントによって定義されたリスト項目に入力する値は, 次のパラメーターによって指定される要件に合ったものであればどんな値でもかまいません。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 値の長さ (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

***YES** このELEMステートメントのリスト項目に入力される値は, **有効な値 (VALUES)**パラメーターの値の1つ, または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターの比較値の1つ, または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに限定されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターでステートメント・ラベルまたは*ZEROELEMを指定する場合には, *YESを指定することはできません。

トップ

省略時の値 (DFT)

ユーザーが値を指定しない場合にリスト項目に割り当てられる省略時の値を指定します。すなわち, この省略時の値は, ユーザーがコマンドのコーディングまたは入力時に, このリスト項目を表すパラメーターを省略したか, あるいは要素に*Nを指定した場合に, このリスト項目の値として使用されます。省略時の値は, 次のいずれかを満たすものでなければなりません。

- 省略時の値は, 次のパラメーターによって指定されている要素の要件を満たすものでなければなりません。
 - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
 - 値の長さ (LENパラメーター)
 - 比較式 (RELパラメーター)
 - 値の範囲 (RANGEパラメーター)
 - 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

- この値は、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターの中の取り出し値の1つでなければなりません。
- 省略時の値が文字定数である場合には、32桁を超えることはできません。
- **制約された値 (RSTD)**パラメーターに*YESを指定する場合には、省略時の値が、**有効な値 (VALUES)**パラメーターの中の値のリスト、または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターもしくは**単一値 (SNGVAL)**パラメーター中の比較値のリストに含まれていなければなりません。
- このELEMステートメント自体が1つのリストを定義するものである場合には、**単一値 (SNGVAL)**パラメーターで省略時の値を指定しなければなりません。

このパラメーターが有効となるのは、**許される最小値 (MIN)**パラメーターが0（これはこのリストについてのこのELEMステートメントによって定義される要素が任意選択であることを意味します）の場合だけです。**定数値 (CONSTANT)**パラメーターを指定した場合には、このパラメーターを使用することはできません。また、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*ZEROELEMを指定した場合には、省略時の値を指定することはできません。その場合には、システム想定 of 省略時の値が渡されます。

システム想定 of 省略時の値は、コマンド・プロンプトによって表示されません。かわりにブランクの入力フィールドが表示されます。このパラメーターに省略時の値を指定した場合には、指定通りにプロンプト機能によって表示されます。

値 指定した要件を満たす省略時の値、あるいは、**有効な値 (VALUES)**パラメーター、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定した値の1つである省略時の値を指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

トップ

有効な値 (VALUES)

最大300個の定数（固定値）から成るリストを指定します。このリストからリスト項目の値として1つの定数を指定することができます。このパラメーターが有効なのは、次のすべての要件が満たされた場合だけです。

- *YESが**制約された値 (RSTD)**パラメーターに指定されている。
- **値の範囲 (RANGE)**パラメーターと**比較式 (REL)**パラメーターが両方とも指定されていない。
- 各固定情報が、次のパラメーターにより指定されている属性に一致している場合。
 - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
 - 値の長さ (LENパラメーター)
 - 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。リスト項目の値として指定できる定数（最大300個）を指定してください。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルまたは*ZEROELEMを指定した場合には、このパラメーターは無効です。

このELEMステートメントが1つのリストの中の最初の要素を定義するものである場合には、このパラメーターに指定する値は、このELEMステートメントを指し示すPARMステートメントまたはELEMステートメントの**単一値(SNGVAL)**パラメーターに指定した値と同じであってははいけません。

トップ

比較式 (REL)

リスト項目値と別のパラメーターの値または定数との関係を指定します。参照されるキーワードと関連した値は、ユーザー指定の値ではなく、CPPに渡される値です。関係を指定するためには、次の比較演算子のどれかの後に、固定情報または他のパラメーターの値を入力してください。

- *LT より小さい
- *LE 小さいか等しい
- *EQ 等しい
- *GE 大きいか等しい
- *GT より大きい
- *NL 小さくない
- *NE 等しくない
- *NG 大きくない

値のタイプ (TYPE)パラメーターに*LGL, *VARNAME, *ZEROELEM,またはステートメント・ラベルを指定した場合、あるいは**値の範囲 (RANGE)**パラメーターまたは**有効な値 (VALUES)**パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無効です。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターによって*CHAR (文字タイプ)を指定した場合には、文字ストリングのEBCDIC値は比較では符号のない整数として使用されます。このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32桁より長くすることはできません。

[トップ](#)

値の範囲 (RANGE)

リスト項目の値の範囲 (下限および上限)を指定します。リスト項目の値は、指定された下限値以上で、指定された上限値以下でなければなりません。テストされる値は、ユーザー指定の値ではなく、CPPに送られる値です。

*CHARなどの非数字データ・タイプの場合には、値の範囲および指定されたデータは、右寄せにされ、左側にブランクを埋め込まれます。先行ゼロが指定されていないか、あるいはデータ長が1文字しかないかぎり、非数字データの間隔を定義するのに数値範囲は使用しないでください。

比較式 (REL)パラメーターまたは**有効な値 (VALUES)**パラメーターを指定した場合、あるいは**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*LGL, *VARNAME, *ZEROELEM,またはステートメント・ラベルを指定した場合には、このパラメーターは無効です。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。

[トップ](#)

特殊値 (SPCVAL)

このELEMステートメントによって定義される要素に入力できる特殊値を定義する最大300個の項目からなるリストを指定します。各項目は、すべての妥当性検査の要件を満たしていなくても入力できる文字ストリング (比較値)を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて、置き換え値を指定した場合には、ストリングは置き換え値によって置き換えられてから、それ以上の検査なしにコマ

ンド処理プログラム(CPP)に渡されます。置き換え値を省略した場合には、比較値がCPPに渡されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルまたは*ZEROELEMを指定した場合には、このパラメーターは無効です。

*CURLIBの置き換え値が指定されている場合には、値*CURLIBではなく、現行ライブラリーの名前がCPPに渡されます。比較値が*CURLIBで、置き換え値を指定しなかった場合、あるいは置き換え値が*CURLIBで、アポストロフィで囲まれている場合には、値*CURLIBがCPPに渡されます。

比較値は文字ストリングですが、置き換え値は、渡すことができればどのようなものでもかまいません。ただし、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*DATEを指定した場合には、置き換え値を引用符なしの次の形式の1つで指定しなければなりません。*MMDDYY*, *MMDDYYYY*, または *CYYMMDD*。比較値にC L変数を使用する場合には、そのタイプは*CHARでなければなりません。このELEMステートメントがリスト中の最初の要素を定義している場合には、比較値に指定する値は、このELEMステートメントを指示するPARMまたはELEMステートメントのいずれかの**単一値(SNGVAL)**パラメーターに指定された値と同じにすることはできません。

置き換え値は、**値の長さ (LEN)**パラメーターに指定されたものより長くはいけません。また、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*DEC, *INT2, *INT4, *UINT2, または *UINT4を指定した場合には、置き換え値のタイプはそれと同じでなければいけません。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに文字タイプ(*CHAR, *LGL, *DATEなど)を指定した場合には、置き換え値は文字ストリングでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。置き換え値を指定しない場合には、比較値は渡すことができる値でなければなりません。

この要素には変数をコーディングすることはできません。

トップ

単一値 (SNGVAL)

ステートメント・ラベルとして定義中の要素に指定できるか、あるいはネストされたリストに2つ以上のリスト項目 (**許される最大値 (MAX)**パラメーターで定義)をもつことになる単一値 (最大300個)のリストを指定します。要素が受け入れるように定義されているネストされた値のリストまたは修飾名の代わりに、これらの単一値の1つを使用することができます。各項目は入力できる文字ストリング (比較値)を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて、置き換え値を指定した場合には、データは置き換え値によって置き換えられてから、それ以上の検査なしでコマンド処理プログラム(CPP)に渡されます。置き換え値を省略した場合には、比較値がCPPに渡されます。このELEMステートメントがリスト中の最初の要素を定義している場合には、比較値に指定する値はこのELEMステートメントを指示するPARMまたはELEMステートメントのいずれかの**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定された値と同じにすることはできません。

置き換え値 (置き換え値を省略した場合には比較値)は、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定された通りに渡すことができるものでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。このパラメーターを指定できるのは、**許される最大値 (MAX)**パラメーターが1より大きい場合、または**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルが指定されている場合だけです。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*ZEROELEMが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。各単一値は値のリストまたは修飾名と置き換わることができるだけで、リスト項目または修飾子とすることはできません。単一値はリストの最初の要素として渡されます。

*CURLIBの置き換え値が指定されている場合には、値*CURLIBではなく、現行ライブラリーの名前がCPPに渡されます。比較値が*CURLIBで、置き換え値を指定しなかった場合、あるいは置き換え値が*CURLIBで、アポストロフィで囲まれている場合には、値*CURLIBがCPPに渡されます。

この要素には変数をコーディングすることはできません。

[トップ](#)

許される最小値 (MIN)

定義中の要素について入力しなければならない値の最小数を指定します。類似した数の値を指定することのできない要素については、任意指定の場合は0、必須の場合は1を、値の最小数として指定することができます。

複数の類似値を使用できる要素の場合には、**許される最大値(MAX)**パラメーターに1より大きい値を指定しているため、ゼロ(0)は、値を入力する必要がないことを示します。したがって、これはオプションの要素です。1以上の値は、要素に入力しなければならない値の最小数を示します。したがって、要素が必要です。このパラメーターに指定する値は、**許される最大値 (MAX)**パラメーターに指定する値を超えることはできません。指定された数は別のリストで必要なリスト項目の数を示します。このパラメーターを指定しない場合には、ゼロ(0)と見なされます。これは要素が任意指定であることを意味します。

0 リスト項目は任意指定であり、入力しなくてもかまいません。

最小数 ネストされたリストの中で指定しなければならない要素の最小数を指定してください。この値として1を割り当てた場合には、それは、その要素について値が1つは必要であるということを示します。1より大きい数を指定した場合には、その要素には、少なくとも指定した数だけの要素のリストが入ります。

[トップ](#)

許される最大値 (MAX)

このELEMステートメントが単純リスト項目を定義する場合に、このリスト項目のネストされたリストに入れることができる要素の最大数を指定します。1より大きい値を指定した場合には、要素は複数の類似の値（すなわち、ネストされた単純リスト）を受け入れることができます。この要素に対して（コマンドの実行時に）入力されるすべての値は、このELEMステートメントの他のパラメーター値で指定される妥当性検査要件を満たさなければなりません。

注: ネストされたリストの値は、ユーザーがリスト項目に入力した値の数を示す2バイトの2進値を先頭にして、連続的に渡されます。C Lプログラムでは、変数の中での2進数値の取り扱いはサポートされていません。

1 リスト項目は値を1つしか受け入れません。したがって、ネストされたリストはありません。

最大数 リスト項目が受け入れることのできる要素の最大数を指定してください。指定する最大値は、**許される最小値 (MIN)**パラメーターで指定された値以上、300以下でなければなりません。最大値が1より大きく、QUALステートメントまたは別のELEMステートメントを識別するステートメント・ラベルが**値のタイプ(TYPE)**パラメーターに指定されていない場合には、パラメーター（これも要素です）は類似の値の単純リストです（すなわち、リストの各要素はタイプや長さなど同じ要件をもちます）。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルが指定されていて、しかもそのラベルがQUALステートメントまたは別のELEMステートメントのラベルを指している場合に

は、リストのリストまたは修飾名のリストを受け入れる場合にだけ、このパラメーターに1より大きい値を指定するようにしてください。定数値 (CONSTANT)パラメーターも指定されている場合には、1より大きい最大値は無効です。

[トップ](#)

印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)

このELEMステートメントがX'FF'を超える16進文字およびX'00' - X'3F'の範囲の16進文字を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、値のタイプ (TYPE)パラメーターに*CHARまたは*Xを指定した場合だけです。

***YES** 表示装置または印刷装置にどのような文字でも送ることができます。

***NO** 印刷不能文字をコマンド処理プログラムに渡すことはできません。

[トップ](#)

変数名使用可能 (ALWVAR)

要素に変数名を指定できるかどうかを指定します。値のタイプ (TYPE)パラメーターに*VARNAME, *ZEROELEM, *NULL,またはステートメント・ラベルを指定した場合には、*NOを指定することはできません。

***YES** 変数名を要素として使用することができます。

***NO** 変数名を要素として使用することはできません。

[トップ](#)

ELEMはプログラムである (PGM)

この要素がプログラム名であるかどうかを指定します。*YESが有効となるのは、値のタイプ (TYPE)パラメーターにステートメント・ラベル, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME,または*GENERICを指定した場合だけです。このパラメーターに*YESを指定しても、ELEMステートメントによって定義している要素には影響はなく、この要素の値がプログラム名であることをコンパイラーに示すだけです。この情報は、プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。

***NO** 要素 (このELEMステートメントで定義中の) はプログラム名ではありません。

***YES** この要素はプログラム名です。

[トップ](#)

ELEMはデータ域である (DTAARA)

この要素がデータ域名であるかどうかを指定します。*YESが有効となるのは、値のタイプ (TYPE)パラメーターにステートメント・ラベル, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME,または*GENERICを指定した場合だけです。このパラメーターに*YESを指定しても、ELEMステートメントによって定義している要素には影響はなく、この要素の値がデータ域名であることをコンパイラーに示すだけです。この情報は、プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。

***NO** 要素（このELEMステートメントで定義中の）はデータ域名ではありません。

***YES** この要素はデータ域名です。

トップ

ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILE)

リスト項目がファイル名であるかどうか、またそうである場合にはファイルの予定されている用途を指定します。コンパイル時にファイルの名前を使用してファイルの使用状況に関するファイル参照情報を入手できるように、特定の用途をもつファイルの名前として要素を使用することができます。このパラメーターが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル、*CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME,または*GENERIC値を指定した場合だけです。このパラメーターに指定しても、ELEMステートメントによって定義しているリスト項目に影響しません。単にこの要素の値がファイル名であること、およびそのファイルのタイプをコンパイラーに指示するだけです。この情報は、DSPPGMREF（プログラム参照表示）コマンドの出力に含めることができるように、記憶されます。次のファイル・タイプの1つを指定することができます。

***NO** リスト項目（このELEMステートメントで定義中の）はファイル名ではありません。

***IN** リスト項目は入力ファイル名です。

***OUT** リスト項目は出力ファイル名です。

***UPD** リスト項目は更新ファイル名です。

***INOUT**

リスト項目値は、入力と出力の両方に使用されるファイルの名前です。

***UNSPFD**

リスト項目値はファイルの名前ですが、その用途を指定することはできません。

トップ

全桁入力必須 (FULL)

リスト項目の文字数が**値の長さ (LEN)**パラメーターで指定された数（指定された場合）あるいは省略時の長さ（LENが指定されない場合）と正確に同じでなければならないかどうかを指定します。

***NO** リスト項目の文字数を**値の長さ (LEN)**パラメーターで指定された文字数より少なくすることができます。

***YES** リスト項目の文字数は、**値の長さ (LEN)**パラメーターで指定された数、またはそのタイプの省略時の長さと同じでなければなりません。正確な長さが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターのタイプが*LGL, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, *GENERIC, *VARIABLE,および*HEXの場合だけです。

トップ

式の評価 (EXPR)

要素が文字連結のある式を受け入れることができるかどうかを指定します。

***NO** 要素の値として連結式を使用することはできません。

YES** 要素の値として連結式を使用することができます。定数値 (**CONSTANT**)パラメーターに値を指定した場合には、YES**は無効です。

トップ

可変の長さ (VARY)

CPPに渡されるリスト項目値の前に、要素の値として入力された文字数を示す長さ値が先行するかどうかを指定します。

単一値

***NO** 要素値の前に桁数値を付けません。

要素1: 長さ値の戻し

YES** CPPに渡される要素の値の前に、パラメーターに実際に指定された文字数を示すフィールドが先行します。YES**を使用できるのは、次のパラメーター・タイプの場合だけです。***CHAR**, ***NAME**, ***SNAME**, ***CNAME**, ***PNAME**, ***GENERIC**, ***LGL**,および***VARNAME**。PASSATR(***YES**)およびRTNVAL(***YES**)が指定されている場合には、***YES**を指定しなければなりません。

注: 長さの値は、コマンド・パラメーターに入力され、後書きブランクを除去した実際の文字数です。渡される長さの値は、定義されたパラメーターの長さまたは宣言された変数の長さと異なることがあります。文字ストリング・データが入っているフィールドの長さは、パラメーターについて定義された長さまたはCLプログラム変数について宣言されたLENによって決定されます。長さの値は、実際にコマンド・パラメーターに入力された文字ストリング・データ・フィールド中の文字の数を定義します。

要素2: 値の長さ

***INT2** 要素の値は、2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** 要素の値は、4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

トップ

属性バイト受け渡し (PASSATR)

(弊社提供コマンドの場合) 属性バイトをリスト項目データと一緒にコマンド処理プログラム(CPP)に渡すかどうかを指定します。値のタイプ (**TYPE**)パラメーターにステートメント・ラベルまたは***ZEROELEM**を指定した場合には、このパラメーターは無効です。

***NO** 属性バイトはリスト項目と一緒に渡されません。

***YES** 属性バイトはリスト項目と一緒に渡されます。属性バイトは、データ値がその値の省略時のデータ・タイプの結果として生じたものであるかどうかを示し、さらに、**TYPE(*CHAR)**が指定されている場合には、文字ストリングがアポストロフィで囲まれているかどうかを示します。

トップ

大文字・小文字(CASE)

CPPに渡される値を小文字から大文字に変更するか、あるいはコマンド・パラメーターに指定された大文字・小文字で保存するかどうかを指定します。

***MONO**

要素の値は、小文字から大文字に変更されます。アポストロフィで囲まれたパラメーターでは、この値の指定の有無にかかわらず、大文字・小文字がそのまま保存されます。

***MIXED**

要素の値は、コマンド・パラメーターに指定された大文字・小文字で保存されます。この値は、*CHARおよび*PNAMEパラメーター・タイプの場合にだけ指定することができます。

トップ

画面入力 (DSPINPUT)

キーワード値がジョブ・ログに入れられるか、プロンプト画面に表示されるかを指定します。

***YES** 省略時の値の*YESは、パラメーター値がプロンプト画面に表示され、ジョブ・ログに入れられることを示します。

***PROMPT**

応答*PROMPTは、パラメーター値がプロンプト画面に表示されるが、ジョブ・ログには入れられないことを示します。

***NO** 応答*NOは、パラメーター値がプロンプト画面にも表示されず、ジョブ・ログにも入れられないことを示します。

トップ

テキスト選択 (CHOICE)

プロンプト画面で入力フィールドの右側に表示される選択項目テキストを指定します。最大30桁のテキストを表示することができます。

***VALUES**

選択項目テキストは、TYPE, RSTD, RANGE, SNGVAL, SPCVAL, およびVALUESパラメーターに指定された値を基にして生成されます。定数をRANGEパラメーターに指定する場合は、選択項目テキストはハイフンで区切られた最小値と最大値で始まります。RANGEを最小値と最大値として定数で指定しないで、RSTD(*NO)を指定する場合は、選択項目テキストはTYPEパラメーターに指定された値を基にしたパラメーター・タイプの簡略説明で始まります。SNGVALパラメーターに指定した値が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、選択項目テキストに追加されます。選択テキストに追加された最後の項目が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、SPCVALまたはVALUESパラメーターに指定された値です。30桁に入らないほど多くの値がある場合には、最後の値の後にピリオドが3つ続けられます。

以下はCHOICE(*VALUES)によって生成されることがある選択項目テキストの例です。

- TYPE(*DEC), RANGE(1.0 999.9), およびSPCVAL((*NOMAX -1))を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

1.0-999.9, *NOMAX

- TYPE(*NAME), RSTD(*NO), SNGVAL(*ALL),およびSPCVL(*LIBL *CURLIB)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

名前, *ALL, *LIBL, *CURLIB

- RSTD(*YES), SNGVAL(*ALL),およびSPCVL(*ALRTBL *BNDDIR *CHTFMT *CLD *CLS *CMD)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR...

*NONE

値は表示されません。

- *PGM 呼び出されるプログラムが表示する値を決定します。呼び出されるプログラムはPARMステートメントの**プログラム選択 (CHOICEPGM)**パラメーターで識別されます。

メッセージ識別コード

使用できる値フィールドのテキストが入っているメッセージの検索に使用されるメッセージのメッセージIDを指定します。コマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルは、メッセージの検索に使用されます。

'選択項目テキスト'

30文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

プログラム選択 (CHOICEPGM)

可能な選択項目テキストおよび許される値を入力するためにコマンド・プロンプトが出されている間に、呼び出すプログラムを指定します。**テキスト選択 (CHOICE)**パラメーターに*PGMを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。そうでない場合には、指定することはできません。

単一値

*NONE

選択可能項目テキストおよび指定可能な値を表示するために使用するプログラムはありません。

修飾子1: プログラム選択

名前 選択可能項目テキストまたは指定可能な値を表示するためにプロンプト表示中に呼び出すプログラムの名前を指定します。プログラムが呼び出される時に例外が起こった場合には、選択可能項目テキストはブランクのままになり、指定可能値のリストはコマンドから取られます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

初期プロンプト長 (INLPMTLEN)

コマンドのプロンプトが出された時に要素に対して最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、このフィールドの先頭位置にアンパーサンド(&)を入力することによって（次の桁は空白にする）、このフィールドを最大長の512バイトまで拡張することができます。INLPMTLENは、TYPEが*CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, *PNAME, *GENERIC,または*HEXと指定された場合にのみ有効です。FULL(*YES), RSTD(*YES),またはCONSTANTが指定された場合には、INLPMTLEN(*CALC)を指定するか、あるいはこれを省略時の値として使用しなければなりません。

*CALC

プロンプターが、パラメーターのタイプと長さに基づいてプロンプト・フィールドの長さを決定します。

***PWD** システム値QPWDLVLの現在の値が'0'または'1'の場合には、プロンプト・フィールドの長さは10バイトになります。そうでない場合には、プロンプト・フィールドの長さはパラメーターの長さによって決定されます。INLPMTLEN(*PWD)は、TYPEが*CHAR, *NAME, *SNAME, *PNAME,または*CNAMEと指定された場合にのみ有効です。

初期プロンプト長

初期長をバイト数で指定してください。有効な値は1-12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256,および512です。

トップ

プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)

リスト項目（このELEMステートメントで定義）に使用されるプロンプト・テキストがある場合には、そのテキストを指定します。プロンプト・テキストには、コマンドのプロンプトが出される時に要素入力フィールドの横に現れる要素の簡略説明が表示されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*ZEROELEMを指定した場合、または**定数値 (CONSTANT)**パラメーターに定数値を指定した場合には、プロンプト・テキストを指定することはできません。

*NONE

このELEMステートメントによって定義されたリスト項目についてプロンプト・テキストは表示されません。このリスト項目のプロンプトは入力フィールドの形で出されますが、入力フィールドと一緒にテキストは表示されません。

メッセージ識別コード

メッセージ識別コードを指定し、これは、プログラムでリスト項目のプロンプトを出す時に表示される最大30文字のプロンプト・テキストを含むメッセージを識別します。指定された識別コードをもつメッセージをコマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルに見つけることができない場合には、メッセージ識別コードそのものがプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト'

プログラムがリスト項目のプロンプトを出している時に表示されるプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ30文字以内の文字ストリングでなければなりません。

トップ

ELEMの例

例1:異なる2タイプの要素を指定したパラメーターの定義

```
      PARM   KWD(JOBDESC)  TYPE(L1)  MIN(1)
L1:   ELEM   TYPE(*NAME)   LEN(10)   MIN(1)
      ELEM   TYPE(*DEC)    LEN(2)    MIN(1)  REL(*LE 60)
```

JOBDESCという名前のパラメーターが必要であり、両方とも指定する必要がある2つの要素があります。最初の要素は10文字の名前であり、2番目の要素は60以下の桁の数値です。

例2:類似の要素を指定したパラメーターの定義

```
      PARM   KWD(RANGE)    TYPE(L1)  MIN( DFT(*SAME) +
      SNGVAL((*SAME 101))
L1:   ELEM   TYPE(*DEC)    MIN(1)    REL(*LE 100)
      ELEM   TYPE(*DEC)    MIN(1)    REL(*LE 100)
```

RANGEという名前のパラメーターは省略できますが、存在する場合は、どちらも100より大きくはできない2つの数値のリストとする必要があります。コマンド処理プログラムが受け渡された値はユーザー指定の値であるか、*SAMEプログラムであるかどうかを判別するには、*SAMEは検査対象の値の正常範囲の外側である101にマップされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ELEM

なし

[トップ](#)

ELSE (ELSE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ELSE(ELSE)コマンドは、条件付きで処理される別のコマンドを指定するためにIFコマンドと一緒に使用されます。ELSEコマンドは、前のIFコマンドで論理式評価の結果が偽の場合にだけ処理されます。結果が真の場合には、ELSEコマンドおよび関連したコマンドは処理されません。

ELSEコマンドは、偽条件の場合に処理するために、CLコマンドまたはDOグループを指定することができます。

各IFコマンドの後にELSEコマンドは必要ありませんが、コーディングされる各ELSEコマンドでは、対応するIFコマンドがその前になければなりません。IFコマンドでネストされたレベルを使用した場合には、指定されたELSEは、他のELSEコマンドとまだ一致していない、最も内側のIFコマンドと常に一致しています。ELSEコマンドは任意指定ですが、一致するすべてのELSEコマンドをコーディングすることによって、すべてのネスト・レベルの開始と終了の位置が分かりやすくなります。

制約事項: ELSEコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。対応するIFコマンドがその前になければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	コマンド・ストリング	オプション、定位置 1

トップ

コマンド (CMD)

対応するIFコマンドの式の評価の結果が偽の場合に処理される1つまたは複数のコマンド (DOグループ内で) を指定します。

このパラメーターで指定したコマンドがDOコマンドである場合には、DOグループ内に指定したすべてのコマンドが、パラメーターによって指定したコマンドの一部と見なされます。コマンドが指定されていない場合には、偽条件では処置は取られません。

CMDキーワードによって指定されたコマンドがそのキーワードと同じ行にコーディングされない場合には、同じ行のCMDの後に左括弧をコーディングし、その次に+または-を続けて継続を示す必要があります。次に、そのコマンドと右括弧を次の行にコーディングすることができます。たとえば、次の通りです。

```
ELSE CMD( +
      GOTO C)
```

コマンドの任意の部分を実行する場合には、継続文字 (+または-) を指定しなければなりません。

DOコマンドが指定された場合には、DOコマンドだけ (DOグループの一部として指定したコマンドではない) が括弧に入れます。たとえば、次の通りです。

```
ELSE CMD(DO)
      CMD1
      CMD2
      .
      .
      .
ENDDO
```

次のコマンドは、CLプロシージャ内では有効ですが、ELSEコマンドには指定できません。

- ENDDO (DO終了)
- MONMSG (メッセージ・モニター)
- PGM (プログラム)
- ENDPGM (プログラム終了)
- DCL (CL変数宣言)
- DCLF (ファイル宣言)
- その他のELSEコマンド
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

さらに、MONMSGコマンドは、ELSEコマンドの後の次のコマンドとして指定することはできません。

[トップ](#)

ELSEの例

例1: ELSEおよびIFコマンドの使用

```
IF (&A *GT &B) THEN(CHGVAR VAR(&A) VALUE(&B))
ELSE (CHGVAR &B &A)
```

&Aの値が&Bの値より大きいと、&Aは&Bに等しく設定されます。&Aが&B以下であると、テスト結果は偽になります。ELSEコマンドにあるCHGVARコマンドが処理され、&Bの値は&Aと同じ値に設定されます。(CHGVARコマンドとそのパラメーターについては、CHGVAR (変数変更) コマンドを参照してください。)

例2: コマンドのネスト・レベル

```
IF COND(&A *EQ &B) +
THEN(IF (&C *EQ &D) +
THEN(IF (&C *EQ &F) THEN(DO)))
      CMD1
      CMD2
```



```
:  
ENDDO  
ELSE  CMDX  
ELSE  CMDY  
ELSE  DO
```

この例は、ELSEコマンドが各IFコマンドと関連付けられている場合の、IFコマンドのネスト・レベルの使用を示しています。ELSEコマンドを使用すると、IFコマンドのネスト・レベルが識別しやすくなります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ELSE

なし

[トップ](#)

印刷装置キーのエミュレート (EMLPRTKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置キーのエミュレート(EMLPRTKEY)コマンドによって、指定された印刷装置エミュレーション装置を使用している印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションが、ホスト・システムに対してPA1またはPA2キーの信号のいずれかを送ることになります。

PAキーは、ホスト・システムに信号を送るために使用されるプログラム・アクセス・キーです。ホスト・システム・プログラムが、これらのキーの機能方法を決定します。このコマンドは、LUタイプ1セッションとして機能している3287または3289のエミュレートされた印刷装置でしか使用することができません。さらにPAキーは、ホスト・システムに送られますが、即時に受信されないことがあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプションル、定位置 1
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプションル、定位置 2
PRTDEV	印刷装置	名前	オプションル、定位置 3
PRTKEY	エミュレート印刷装置キー	*PA1, *PA2	オプションル

[トップ](#)

エミュレーション装置 (EMLDEV)

ホスト・システムからデータを受け取る印刷装置エミュレーション装置の名前を指定します。この装置は3287印刷装置(EMLDEV(3287))または3289印刷装置(EMLDEV(3289))でなければならず、さらにLU1装置として現在作動中でなければなりません。この装置を使用しようとする印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションは要求を通知されます。LU1セッションがブラケット間である場合には、印刷装置エミュレーションはブラケットを開始して、方向転換(CD)要求でPAキー信号をホスト・システムに送信します。LUセッションが受信状態になっている場合には、信号(CD のための要求) がホスト・システムに送信されて、印刷装置エミュレーションはCD を待ちます。CDを受信すると、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。LUセッションが送信状態になっている場合には、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。

このパラメーター、あるいは エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)パラメーターおよび印刷装置 (PRTDEV)パラメーターが必要です。

エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

このセッションと関連したリモート・ロケーション名を指定します。ロケーション名は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTMPL)コマンドのエミュレーション・ロケーション(EMLLOC)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

このパラメーターと印刷装置 (PRTDEV)パラメーター、またはエミュレーション装置 (EMLDEV)パラメーターのいずれかが必要です。

トップ

印刷装置 (PRTDEV)

スプール出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTMPL)コマンドの印刷装置(PRTDEV)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。EMLLOCパラメーターが指定されているときには、このパラメーターを指定しなければなりません。

このパラメーターと エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)パラメーター、あるいはエミュレーション装置 (EMLDEV)パラメーターが必要です。

トップ

エミュレート印刷装置キー (PRTKEY)

ホスト・システムに送信されるPAキー信号を指定します。ホスト・システム・プログラムが、これらのキーの機能方法を決定します。

***PA1** PA1キー信号がホスト・システムに送信されます。

***PA2** PA2キー信号がホスト・システムに送信されます。

トップ

EMLPRTKEYの例

```
EMLPRTKEY EMLDEV(HOSTPRT2) PRTKEY(*PA2)
```

このコマンドによって、エミュレーション装置HOSTPRT2を使用した印刷装置エミュレーション・セッションが、PA2キー信号をホスト・システムに送信することになります。

トップ

エラー・メッセージ： EMLPRTKEY

*ESCAPEメッセージ

CPF8598

印刷キー・エミュレート機能は実行されない。

[トップ](#)

エージェント・サービスの終了 (ENDAGTSRV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エージェント・サービスの終了 (ENDAGTSRV) コマンドは、このシステム上で、設定ファイルで定義されているエージェント・サービスのすべてを終了します。サービスの終了方法の定義を助けるために、別の設定ファイルも使用されます。この設定ファイルは、**設定ファイル・ディレクトリー (PREFDIR)** に指定されたディレクトリー内にある *ABLEPLATFORM.PREFERENCES* および *ABLE.PREFERENCES* という名前のストリーム・ファイルです。

エージェント・サービスは、エージェント・サービスの開始 (STRAGTSRV) コマンドを実行することによって再始動することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)およびジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PREFDIR	設定ファイル・ディレクトリー	パス名, <u>*DFT</u>	オプション

[トップ](#)

設定ファイル・ディレクトリー (PREFDIR)

終了するエージェント・サービスおよびその終了方法が定義されている設定ファイルが入っているディレクトリーを指定します。設定ファイルは *ABLEPLATFORM.PREFERENCES* および *ABLE.PREFERENCES* という名前にする必要があります。

***DFT** /QIBM/PRODDATA/OS400/ABLE/にある設定ファイルを使用してください。

パス名 エージェント・サービスを終了するために使用される設定ファイルが入っているディレクトリーを指定してください。

[トップ](#)

ENDAGTSRVの例

例1: 出荷された省略時の値を使用した終了

ENDAGTSRV

このコマンドは、'/QIBM/PRODDATA/OS400/ABLE/'内のABLEPLATFORM.PREFERENCES省略時ファイル中に定義されたエージェント・サービスのすべてを、'/QIBM/PRODDATA/OS400/ABLE/'内のABLE.PREFERENCES省略時ファイル中に定義された方法で終了します。

例2:ユーザー指定値を使用した

```
ENDAGTSRV PREFDIR('/QIBM/USERDATA/OS400/ABLE/TEST/')
```

このコマンドは、'/QIBM/USERDATA/OS400/ABLE/TEST/'内のABLEPLATFORM.PREFERENCESファイル中に定義された実行中のエージェント・サービスのすべてを、'/QIBM/USERDATA/OS400/ABLE/TEST/'内のABLE.PREFERENCES省略時ファイル中に定義された方法で終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDAGTSRV

*ESCAPE メッセージ

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

CPF90FF

要求された操作を実行するためには、*JOBCTL特殊権限が必要である。

投入されたジョブからのエラー・メッセージ:

このコマンドは、エージェント・サービスが実行中のバッチ・ジョブを終了します。次のエラー・メッセージがこのバッチ・ジョブに対して出されることがあります。

CPF4B03

JAVA仮想マシン(JVM)例外が起きました。

CPF4B04

エージェント・サービスの終了を完了できません。理由コードは&1です。

[トップ](#)

ASPバランス化終了 (ENDASPBAL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASPバランス終了(ENDASPBAL)コマンドにより、ユーザーはASPバランス開始(STRASPBAL) CLコマンドを使用して開始されたASPバランス機能を終了することができます。各ASPのASPバランス機能が終了すると、システム活動記録(QHST)ログにメッセージが送信されます。

ASPバランス化の詳細については、AS/400階層記憶管理(HSM) (SD88-5071)を参照してください。

制約事項:

- このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASP	ASP番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 1-32	オプション、定位置 1
ASPDEV	ASP装置	単一値: *ALLAVL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション

[トップ](#)

ASP番号 (ASP)

ASPバランス化機能が終了する補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。

注: ASP番号 (ASP)パラメーターまたはASP装置 (ASPDEV)パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。両方のパラメーターを指定することもできます。

単一値

***ALL** システムASP (ASP番号1)およびシステムに定義されているすべての基本ASP (ASP番号2-32)のASPバランス化機能が終了します。

その他の値 (最大32反復)

1-32 ASPバランス化を終了するASPの番号を指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

ASPバランス化を終了する補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: **ASP番号 (ASP)**パラメーターまたは**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。両方のパラメーターを指定することもできます。

単一値

***ALLAVL**

現在「使用可能」の状態になっているすべてのASP装置のASPバランス化が終了します。

その他の値 (最大32反復)

名前 ASPバランス化を終了する独立ASP装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

ENDASPBALの例

例1: ASP 1のASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASP(1)
```

このコマンドにより、ユーザーは、ASP 1 に対するASPバランス化機能を終了することができます。

例2: ASP 1-32のASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASP(*ALL)
```

このコマンドは、現在バランス化が行われているシステムASP (ASP番号1)および各基本ASP (ASP番号2-32) に対するASPバランス化機能を終了します。

例3: ASP装置のASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASPDEV(MYASP1)
```

このコマンドは、ASP装置MYASP1に対するASPバランス化機能を終了します。

例4:すべてのASPのASPバランス化を終了する

```
ENDASPBAL ASP(*ALL) ASPDEV(*ALLAVL)
```

このコマンドは、状況が「使用可能」であるASP番号1-32およびすべてのASP装置で活動している可能性があるASPバランス化機能を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDASPBAL

***ESCAPE** メッセージ

CPF18AC

ASP &1に対するASPバランス化は活動状態になっていません。

CPF18AD

ASP &1には複数の装置が含まれていなければなりません。

302 iSeries: OS/400 コマンド DSPOPTSVR (光ディスク・サーバー表示) ~

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

[トップ](#)

ジョブ終了 (ENDBCHJOB)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

バッチ・ジョブ終了(ENDBCHJOB)コマンドは、ジョブの終わりを示すバッチ入力ストリームの区切り文字です。また、インライン・ファイルの処理中にこのコマンドを検出した場合には、バッチ・ジョブ終了(ENDBCHJOB)コマンドはインライン・データ・ファイルの終わりを示すこともできます。

制約事項:このコマンドはワークステーションで入力することはできません。バッチ・ジョブ終了(ENDBCHJOB)コマンドは、データ・レコードの1桁目および2桁目に2つのスラッシュを先行させなければなりません。たとえば、//ENDBCHJOB となります。スラッシュとコマンド名とをブランクで区切る(//ENDBCHJOB)ことができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDBCHJOBの例

```
//ENDBCHJOB
```

このコマンドは、BCHJOBコマンドで始まったジョブの終わりを指示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDBCHJOB

***ESCAPE** メッセージ

CPF1753

コマンドを実行することができない。

[トップ](#)

CHTサーバーの終了 (ENDCHTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバー終了(ENDCHTSVR)コマンドは、NODEパラメーターに指定されたクラスター・ノードで指定のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを終了するために使用されます。これで、指定のノードがクラスター化ハッシュ・テーブル・ドメインから除去されます。クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン内に定義されたクラスター・ノードのすべてがNODEパラメーターに指定されると、サーバー・ジョブは全クラスター・ノードで終了し、クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーがそのクラスターから削除されます。

クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーはクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバー開始(STRCHTSVR)コマンドを使用して開始されていました。クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーに活動状態接続がある場合は、それらの接続からのそれ以上の要求はすべて失敗します。

制約事項:

- クラスター資源サービスはローカル・ノードで活動状態になっていなければなりません。
- NODEパラメーターに指定された全ノードには活動状態のクラスター資源サービスが必要です。
- サーバーの開始時に権限リストが指定されていた場合は、サーバーを終了するには、要求側ユーザーには、権限リストに対する変更(*CHANGE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	通信名	必須, 定位置 1
NODE	ノード	単一値: *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 通信名, * LOCAL	オプション

トップ

サーバー (SERVER)

終了するクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 終了するクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの名前を指定してください。

トップ

ノード (NODE)

どのノードがクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを終了するかを指定します。指定されたノードは、クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメインから除去されます。クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン内の全ノードが指定されると、そのサーバーはクラスター内にはもう存在しなくなります。このリスト中のノードは固有でなければなりません。このノードはクラスター内で活動状態になっていなければなりません。

*LOCAL

クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーはローカル・ノードのみで開始されます。*LOCALを指定できるのは、指定されたノードのリスト中で一度だけです。

***ALL** クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーは、クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン内の全クラスター・ノードで終了します。指定する場合は、*ALLがこのリスト中のただ1つの値でなければなりません。

名前 終了要求を処理するノードの名前を指定してください。最大20個までのクラスター・ノードを指定することができます。

[トップ](#)

ENDCHTSVRの例

例1: ローカル・ノード上のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの終了

```
ENDCHTSVR SERVER(CT0)
```

このコマンドは、ローカル・ノードのみでクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーCT0を終了します。

例2: クラスター化ハッシュ・テーブル・ドメイン中の2つのノードの1つのクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの終了

クラスター化ハッシュ・テーブルCT1のドメインはFREDおよびBARNEYです。

```
ENDCHTSVR SERVER(CT1) NODE(FRED)
```

このコマンドは、クラスター・ノードFRED上のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバー CT1を終了します。クラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーは、BARNEY上ではまだ活動状態です。

例3: すべてのノード上のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーの終了

クラスター化ハッシュ・テーブルCT2のドメインはFREDおよびBARNEYです。

```
ENDCHTSVR SERVER(CT2) NODE(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル・ノード（すなわち、BARNEY)およびノードFRED上のCT2の名前のクラスター化ハッシュ・テーブル・サーバーを終了します。このコマンドの実行後は、クラスター化ハッシュ・テーブルはクラスター中に存在しません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDCHTSVR

*ESCAPEメッセージ

CPFBD03

クラスター・ハッシュ・テーブル・サーバーの終了が失敗しました。

[トップ](#)

終結処置の終了 (ENDCLNUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クリーンアップ終了(ENDCLNUP)コマンドによって、クリーンアップ操作を終了することができます。クリーンアップ操作により、指定した日数より古いシステム上の項目を自動的に削除することができます。処理中またはジョブ待ち行列上の活動バッチ・クリーンアップ・ジョブは、ただちに終了します。

このコマンドは、クリーンアップ変更(CHGCLNUP)コマンドで指定されたパラメーターを変更しません。クリーンアップ操作は、クリーンアップ開始(STRCLNUP)コマンドを指定することによって、再開することができます。

詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「システム操作の基本」情報にあります。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

ENDCLNUPの例

ENDCLNUP

このコマンドは、クリーンアップ操作を終了します。

トップ

エラー・メッセージ: ENDCLNUP

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2A

QSYSSCDジョブで予期しないエラーが起こった。

CPF1E2B

電源スケジューラーおよび終結処置オプションが見つからない。

CPF1E33

終結処置オプションまたは電源スケジューリングは別のユーザーが使用中である。

CPF1E35

終結処置の終了は認可されていない。

CPF1E36

終結処置は開始されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

クラスター・ノードの終了 (ENDCLUNOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター・ノード終了(ENDCLUNOD)コマンドは、既存クラスターのメンバーシップ・リスト中の1つのノードまたは全ノードでクラスター資源サービスを終了するために使用されます。終了する各ノードの状況は「非活動状態」に設定されます。終了してしまっているクラスター資源サービスをノードで再始動するためには、クラスター・ノード開始(STRCLUNOD)コマンドを使用します。

クラスター内のノードが終了していると、クラスター・メンバーシップ・リストから除去されません。

このコマンドは終了するノードで呼び出すことができるか、あるいは状況が「活動状態」になっているクラスター内の任意のノードで呼び出すことができます。このクラスターが区画に分割されているときに、このコマンドが呼び出されると、このコマンドを実行中の区画内のノードだけで要求が処理されます。

終了しようとするノードでクラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「ノード終了」を使用して呼び出されます。この出口プログラムは回復ドメイン内のその他の全ノードでアクション・コード「フェイルオーバー」を使用して呼び出されます。クラスター内の全ノードを終了しようとする場合は、クラスター資源グループ出口プログラムはフェイルオーバーすることを指示して呼び出されません。

終了してしまっているノード上のクラスター資源グループの回復ドメインは、たとえそのノードが非活動状態であっても、ノード状況の「活動状態」が示されます。回復ドメイン内のその他のノードのすべての場合は、ノードの状況は「非活動状態」になります。終了しようとするノードが活動状態装置クラスター資源グループの1次ノードである場合は、クラスター資源グループと関連付けられたハードウェアの所有権はバックアップ・ノードに移動されます。クラスター資源グループが活動状態になっていないか、バックアップ・ノードがないか、あるいは全バックアップ・ノードが非活動状態になっているか、別のクラスター区画内にあるかのいずれかである場合は、ハードウェアの所有権は終了しようとするノードのままになります。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. 終了しようとするノードは活動状態になっていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
NODE	ノードID	名前, *ALL	必須, 定位置 2
OPTION	オプション	*IMMED, *CNTRL	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

終了しようとする1つ以上のノードが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

ノードID (NODE)

終了するノードIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** クラスター内の全活動ノードを終了します。

名前 終了するノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

ノードを終了する方式を指定します。

***IMMED**

即時終了。ノードでクラスター資源サービスを終了する要求は即時に処理されます。

***CNTRLD**

制御された終了。保留中のクラスター資源グループ・アクションは、クラスター資源サービスを終了する要求が処理される前に完了します。

[トップ](#)

ENDCLUNODの例

```
ENDCLUNOD CLUSTER(MYCLUSTER) NODE(NODE01) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERのノードNODE01でクラスター資源サービスを終了します。この要求は、保留中のどのクラスター資源グループの処置の完了を待たないで即時処理されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

通信サーバーの終了 (ENDCMNSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サーバー終了(ENDCMNSVR)コマンドを使用して、ターゲット表示装置パススルー・サーバーを終了します。ターゲットの表示装置パススルー・サーバーは、AS/400表示装置パススルー、AS/400クライアント・アクセス・ワークステーション機能(WSF)、およびその他のプログラム式ワークステーション上の5250エミュレーション・プログラムを処理します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション
DELAY	制御された終了遅延時間	1-86400, *NOMAX	オプション

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

ターゲット表示装置パススルー・サーバーを即時に終了するか、あるいは管理された方法であるかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CNTRLD

サーバーは制御された方法で終了します。活動セッションはその処理を完了することができます。新規セッションは許可されません。指定した時間が経過した後に、ENDCMNSVR OPTION(*IMMED)の処理が実行されます。

*IMMED

サーバーは即時方式で終了します。ターゲット表示装置パススルー・サーバー経由で開始された活動セッションはすべて即時に終了します。

[トップ](#)

制御された終了遅延時間 (DELAY)

ターゲット表示装置パススルー・サーバーの制御された修了を完了するために許される時間（秒数）を指定します。この時間が経過した後で、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブはすべて即時に終了します。

考えられる値は次の通りです。

***NOMAX**

待機する最大時間はありません。サーバーは、すべての活動セッションが正常に終了するまで終了しないこととなります。

遅延時間

終了操作を完了する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1-86400秒です。

[トップ](#)

ENDCMNSVRの例

例1:ターゲット表示装置パススルー・サーバーの終了

ENDCMNSVR

このコマンドは、制御された方法でターゲット表示装置パススルー・サーバーを終了します。ターゲット表示装置パススルー・サーバーを使用している活動セッションには、影響を与えません。ターゲット表示装置パススルー・サーバーを介した新規セッションは使用できません。いったん活動セッションのすべてを終了すると、ターゲット表示装置パススルー・サーバーは終了されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDCMNSVR

なし

[トップ](#)

通信追跡の終了 (ENDCMNTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信追跡終了(ENDCMNTRC)コマンドは、指定された回線、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述で実行中の追跡を終了します。

制約事項:

- ユーザーは追跡される回線、ネットワーク・インターフェース、またはネットワーク・サーバーに対する使用(*USE)権限をもっていなければなりません。
- ユーザーはサービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に対して許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSECOFR
 - QSRV

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前	必須, 定位置 1
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	必須, 定位置 2

[トップ](#)

構成オブジェクト (CFGOBJ)

追跡中の構成オブジェクトを指定します。オブジェクトは、回線記述、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述のいずれかです。

これは必須パラメーターです。

名前 通信追跡処理が終了される構成オブジェクトの名前を指定します。

[トップ](#)

タイプ (CFGTYPE)

追跡中の構成記述のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LIN** 構成オブジェクトのタイプは回線記述です。

***NWI** 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・インターフェース記述です。

***NWS** 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・サーバー記述です。

[トップ](#)

ENDCMNTRCの例

```
ENDCMNTRC CFGOBJ(*QESLINE) CFGTYPE(*LIN)
```

このコマンドは、回線記述QESLINEの通信追跡を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDCMNTRC

*ESCAPE メッセージ

CPF2601

回線記述&1が見つからない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF26AE

ネットワーク・サーバー記述&1が見つからない。

CPF39AE

追跡がすでに終了した。

CPF39AF

追跡終了中-しばらくお待ちください。

CPF39A7

通信プロセッサの追跡記憶域が使用できない。

CPF39A8

通信追跡保守ツールに対して認可されていない。

CPF39A9

通信追跡機能の実行中にエラーが起こった。

CPF39BD

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF39B0

通信追跡が存在していない。

CPF39B1

追跡&1タイプ&2が存在していない。

CPF39B6

通信追跡機能は実行できない。

CPF39C3

追跡&1タイプ&2を終了することができない。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

コミットメント制御終了 (ENDCMTCTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コミットメント制御終了(ENDCMTCTL)コマンドは、コマンドを出したプログラムの活動化グループに関連するコミットメント定義を終了します。このコマンドが処理された後では、コミットメント定義に関連するコミットメント資源の変更がこれ以上行われません。

このコマンドは、コマンドを出したプログラムの活動化グループに対応する活動化グループ・レベルまたはジョブ・レベルのコミットメント定義を終了します。コミットメント定義は、最初にコミットメント制御開始(STRCMTCTL)コマンドで設定されます。

対話式ジョブに対してコミットされていない変更がある場合には、コミットメント定義を終了する前に、その変更をコミットまたはロールバックする必要があるかをユーザーに尋ねるメッセージを送ります。バッチ・ジョブの場合には、変更はロールバックされます。

コミットメント制御の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「コミットメント制御」の記事を参照してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

トップ

パラメーター

なし

トップ

ENDCMTCTLの例

ENDCMTCTL

このコマンドは、STRCMTCTLコマンドによって確立されたコミットメント定義を終了することを指定します。システムは、最後のコミットメント境界の後（コミット(COMMIT)コマンドまたはロールバック(ROLLBACK)コマンドが最後に完了した時点）に、コミットメント資源に対して変更が行われているかどうかを判断します。対話式ジョブに対して変更が行われている場合には、その変更を永続的にする（コミットする）か除去する（ロールバックする）かどちらが必要かをユーザーに尋ねるメッセージが送られます。バッチ・ジョブの場合には、すべての変更がロールバックされます。

トップ

エラー・メッセージ： ENDCMTCTL

*ESCAPE メッセージ

CPF83E4

コミットメント制御が終了したが、資源がコミットされていない。

CPF835A

コミットメント定義&1の終了が取り消された。

CPF835B

コミットメント制御の終了時にエラーが起こった。

CPF835C

リモートの変更をコミットしないでコミットメント制御が終了した。

CPF8350

コミットメントの定義が見つからない。

CPF8355

ENDCMTCTLを使用することはできない。保留中の変更が活動状態です。

CPF8356

&1ローカル変更がコミットされないでコミットメント制御が終了した。

CPF8367

コミットメント制御操作を実行できない。

[トップ](#)

画面コピー終了 (ENDCPYSCN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

画面コピー終了(ENDCPYSCN)コマンドは、指定された表示装置の画面イメージ・コピー操作を終了させます。

注: また、ユーザーがシステム要求キーを押して、コマンド入力行にENDCPYSCNコマンドを入力すると、ターゲットの表示装置も画面イメージ・コピー操作も停止できます。パラメーターを指定することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SRCDEV	ソース装置	名前, <u>*REQUESTER</u>	オプション、定位置 1

[トップ](#)

ソース装置 (SRCDEV)

現在その画面イメージをコピーしている表示装置を指定します。

*REQUESTER

このコマンドを実行している表示装置の画面イメージ・コピー操作を終了します。

名前 その画面イメージをコピーしている表示装置の装置名を指定します。

[トップ](#)

ENDCPYSCNの例

```
ENDCPYSCN SRCDEV(CHARLIE)
```

コマンドは、メッセージを'CHARLIE' (ソース表示端末) に送信します。このメッセージは、画面イメージのコピー操作がほぼ終了していることを示します。宛先ワークステーション画面は操作の開始前に表示されたものと同じ表示イメージに復元されます。通常はサインオン画面が表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDCPYSCN

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF7AF7

装置名&1が正しくない。

CPF7AF8

装置名&1はコピー中でない。

[トップ](#)

クラスター資源グループの終了 (ENDCRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ終了(ENDCRG)コマンドは、指定されたクラスター資源グループの弾力性を使用不可にします。クラスター資源グループの状況は「非活動状態」に設定されます。クラスター資源グループと関連付けられた資源はもう弾力的ではありません。すなわち、クラスター資源グループの終了時にこれらの資源用に提供されたフェイルオーバー・アクションも切り替えアクションもありません。

装置クラスター資源グループを終了しても、装置の所有権は変更されません。装置は、このコマンドの実行時にノードが所有しているものは何でもそのままになっています。また、装置はクラスター資源グループの終了時にはオフに変更されません。

出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスター資源グループ出口プログラムが、アクション・コード「終了」を使用して回復ドメイン内の全活動ノードで呼び出されます。出口プログラムが呼び出されると、クラスター資源グループの状況は「終了保留」に設定されます。出口プログラムが正常終了すると、クラスター資源グループの状況が「非活動状態」に設定されます。さらに、適用業務クラスター資源グループの場合は、次の通りです。

1. 1次ノードで現行出口プログラム・ジョブは、*IMMEDオプションを使用して取り消されます。
2. 適用業務クラスター資源グループのクラスター資源グループの引き継ぎIP インターフェースは終了します。

出口プログラムが失敗し、クラスター資源グループの元の状態にリストアできない場合は、クラスター資源グループの状況は「未確定」に設定されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
EXITPGMDTA	出口プログラム・データ	文字値, *SAME	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

クラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

クラスター資源グループ (CRG)

終了するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 終了するクラスター資源グループの名前を指定してください。

トップ

出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)

クラスター資源グループ出口プログラムの呼び出し時にその出口プログラムに渡される最大256バイトのデータを指定します。このパラメーターには、ポインタを除く任意のスカラー・データを入れることができます。たとえば、状態情報を提供するために使用することができます。このデータは指定されたクラスター資源グループとともに保管され、回復ドメイン内の全ノードにコピーされます。このエリア内のポインタは全ノードで正しく解決されないため、データに入れる必要はありません。指定されたデータは、クラスター資源グループとともに保管された既存の出口プログラム・データを置き換えます。ブランクが指定されている場合は、クラスター資源グループとともに保管された出口プログラムデータが消去されます。出口プログラムが指定されていない場合は、このパラメーターが*SAMEに設定されていなければなりません。

*SAME

指定されたクラスター資源グループとともに保管された出口プログラム・データは出口プログラムに渡されます。

文字値 出口プログラムに渡すデータを指定してください。

トップ

ENDCRGの例

```
ENDCRG CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG)
        EXITPGMDTA('IMPORTANT INFORMATION')
```

このコマンドは、MYCLUSTERと呼ばれるクラスター中のMYCRGと呼ばれるクラスター資源グループの弾力性を終了します。クラスター資源グループの出口プログラムが呼び出されると、回復ドメイン内のすべての活動ノードに関する出口プログラム・データの「重要な情報」が渡されます。

トップ

エラー・メッセージ： ENDCRG

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

トップ

制御装置回復終了 (ENDCTLRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置回復終了(ENDCTLRCY)コマンドは、特定の制御装置に対する自動的エラー回復手順を終了します。このコマンドの実行後に何かのタイプの障害が起きた場合には、システム操作員に照会メッセージが送られます。

制御装置に対するエラー回復手順を再開するためには、制御装置回復手順再開(RSMCTLRCY)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTL	制御装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

制御装置 (CTL)

回復手順を終了する制御装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ENDCTLRCYの例

ENDCTLRCY CTL(TROLL3)

このコマンドは、制御装置TROLL3に対してのエラー・リカバリー手順を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDCTLRCY

***ESCAPE** メッセージ

CPF2703

制御装置記述&1が見つからない。

CPF5924

制御装置&1では自動エラー回復手順を使用することはできない。

CPF5928

制御装置&1がオンに変更されていません。

CPF5929

制御装置&1は別のジョブに割り当てられている。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5936

制御装置&1が認可されていない。

[トップ](#)

デバッグ・モード終了 (ENDDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

デバッグ終了(ENDDBG)コマンドは、ジョブのデバッグ・モードを終了し、すべての停止点および追跡を除去し、追跡データを消去し、デバッグ・モードからすべてのプログラムを除去します。呼び出しスタック中の1つまたは複数のプログラムが停止点で停止された時には、このコマンドを入力することはできません。すべての停止点は、停止点再開(RSMBKP)コマンドまたは要求終了(ENDRQS)コマンドによって取り消さなければなりません。このコマンドが入力されると、プロダクション・ライブラリー中のすべてのデータベース・ファイルを通常に更新することができます。

ENDDBGがジョブの終了前に実行されなかった場合には、すべての追跡データが印刷されます。

制約事項: このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。デバッグ・モードを開始するためには、STRDBG (デバッグ開始) コマンドを参照してください。

別のジョブをサービス中であり、デバッグ・モードで操作している場合には、サービス・ジョブ終了(ENDSRVJOB)コマンドを使用する前に、このコマンドを指定しなければなりません。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDDBGの例

ENDDBG

このコマンドが対話式で入力され、呼び出しスタック内に停止点で停止されるプログラムはないとして、ジョブのデバッグ・モードが終了されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDDBG

***ESCAPE** メッセージ

CPF1931

この時点でこのコマンドは正しくない。

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

デバッグ・サーバー終了 (ENDDBGSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

デバッグ・サーバー終了(ENDDBGSVR)コマンドは、デバッグ・サーバーのルーター機能を終了します。ルーター機能を終了する時に実行中の活動サーバー・ジョブがある場合には、クライアントとの接続が終了するまで、サーバーは活動状態のままになっています。デバッグ・サーバーのルーター機能が再び開始されるまでは、後続の接続要求は正常に実行されません。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDDBGSVRの例

ENDDBGSVR

このコマンドは、デバッグ・サーバー・ルーター機能を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDDBGSVR

なし

[トップ](#)

データベース・モニター終了 (ENDDBMON)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・モニター終了(ENDDBMON)コマンドは、システム上の指定したジョブまたはすべてのジョブのデータベース・パフォーマンス統計の収集を終了します。

制約事項:

- 特定のジョブのデータベース・モニターを、ENDDBMONコマンドでJOB(*ALL)を使用して終了することはできません。
- データベース・モニター開始(STRDBMON)コマンドでJOB(*ALL)が指定されている場合には、特定のジョブに対してSTRDBMONコマンドが実行されるまで、その特定のジョブのデータベース・モニターを終了することはできません。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。STRDBMONコマンドのOUTFILEパラメーターが分散ファイルまたはタイプ*SNAの分散データ管理機能(DDM)ファイルを指定していた時には、これは、スレッド・セーフであり、正常に実行されないことがあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: *, *ALL その他の値: 修飾ジョブ名	オプション、位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
COMMENT	注記	文字値, BLANK	オプション

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

そのデータベース・モニターを終了するジョブを指定します。

単一値

* ENDDBMONコマンドを実行するジョブのデータ・モニターを終了します。

***ALL** すべてのジョブのデータ・モニターが終了します。この値を指定できるのは、前のデータベース・モニター開始(STRDBMON)コマンドにJOB(*ALL)を指定した場合だけです。

修飾子1: ジョブ名

名前 そのデータベース・モニターを終了するジョブの名前を指定してください。ジョブのユーザー名ま

たはジョブ番号修飾子が指定されない場合には、現在システムにあるすべてのジョブで、指定された単純ジョブ名を検索します。指定したジョブ名に重複が見つかる場合には、変更するジョブを一意的に識別するジョブ・ユーザー名またはジョブ番号を指定する必要があります。

修飾子2: ユーザー

名前 そのデータベース・モニターを終了するジョブのユーザーの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

そのデータベース・モニターを終了するジョブの番号を指定してください。

[トップ](#)

注記 (COMMENT)

IDが3018であるデータベース・モニター・レコードに関連した記述を指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 最大100文字までのテキストを指定してください。

[トップ](#)

ENDDBMONの例

例1:すべてのジョブのデータベース・モニターを終了

```
ENDDBMON JOB(*ALL)
```

このコマンドは、システム上のすべてのジョブのデータベース・モニターを終了します。

例2:特定のジョブのデータベース・モニターを終了

```
ENDDBMON JOB(*)
```

このコマンドは、現行ジョブのデータベース・モニターを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDDBMON

*ESCAPE メッセージ

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF436D

ジョブ&1はモニターされていません。

CPF436E

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3は活動状態になっていない。

[トップ](#)

入出力装置回復終了 (ENDDEVRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置回復終了(ENDDEVRCY)コマンドは、特定の装置に対する自動的エラー回復手順を終了します。このコマンドの実行後に何かのタイプの障害が起った場合には、システム操作員に照会メッセージが送られます。ユーザーには、装置のオブジェクト操作可能権限が必要です。

装置に対するエラー回復手順を再開するためには、入出力装置回復手順再開(RSMDEVRCY)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置 (DEV)

回復を終了する装置を指定します。装置記述で装置に指定した名前を指定してください。

[トップ](#)

ENDDEVRCYの例

ENDDEVRCY DEV(WSPR03)

このコマンドは、装置WSPR03に対してのエラー・リカバリー手順を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDDEVRCY

***ESCAPE** メッセージ

CPF5923

装置&1では自動エラー回復手順を使用することはできない。

CPF5925

装置&1がオンに変更されていません。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

[トップ](#)

ディレクトリー・シャドウ化の終了 (ENDDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドウ処理終了(ENDDIRSHD)コマンドは、システム作業サブシステム(QSYSWRK)のディレクトリーのシャドウ制御ジョブを終了します。

活動中のコレクターまたは実行中の提供元ジョブは、完了することが可能です。新しいコレクター・ジョブは開始されません。収集システムがディレクトリーのシャドウ処理によってデータを要求している場合には、提供元ジョブは開始できません。ディレクトリーのシャドウ処理を再開するためには、ディレクトリー・シャドウ処理開始(STRDIRSHD)コマンドを使用することができます。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプションル、位置 1
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプションル、位置 2

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

ディレクトリーのシャドウ制御ジョブが制御された方法で終了されるか、あるいは即時に終了されるかを指定します。

*CNTRLD

ディレクトリーのシャドウ制御ジョブは、制御された方法で終了されます。これにより、ディレクトリーのシャドウ制御ジョブはクリーンアップ（ジョブの終わり処理）を実行することができます。

*IMMED

ディレクトリーのシャドウ制御ジョブはただちに終了されます。ディレクトリーのシャドウ制御ジョブはクリーンアップを実行することができません。

注: データが部分的にしか更新されていない場合には、*IMMEDオプションを使用すると予期しない結果が起こることがあります。

これは必須パラメーターです。

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御された終了時に、ディレクトリーのシャドー制御ジョブがそのクリーンアップ処理を完了できる時間（秒数）を指定します。このパラメーターは、OPTION(*IMMED)が指定されている場合には無効です。遅延時間の終わりまでにクリーンアップが完了しない場合には、ディレクトリーのシャドー制御ジョブはただちに終了します。

30 ディレクトリーのシャドー制御ジョブが終了するまでのクリーンアップに最大30秒の遅延時間が取られます。

遅延時間

ディレクトリーのシャドー制御ジョブが終了するまでの最大遅延時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は1-999999です。

これは必須パラメーターです。

ENDDIRSHDの例

例1:制御された方法でのディレクトリー・シャドーイングの終了

```
ENDDIRSHD OPTION(*CNTRLD) DELAY(60)
```

ディレクトリーのシャドーイング制御ジョブは、システム処理サブシステム内で制御された方法で終了し、そのジョブ終了処理を完了するには60秒かかります。

例 2:ディレクトリー・シャドーイングの即時終了

```
ENDDIRSHD OPTION(*IMMED)
```

ディレクトリーのシャドーイング制御ジョブはシステム処理サブシステム内で即時に終了します。ディレクトリーのシャドーイング制御ジョブのジョブ終了処理は実行されません。

エラー・メッセージ： ENDDIRSHD

*ESCAPEメッセージ

CPF89A9

ディレクトリー・シャドー処理を制御するジョブを終了することができない。

DOグループ終了 (ENDDO)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

END DO (ENDDO)コマンドは、1つのグループとしてまとめて処理されるコマンドのグループを識別するために、DOコマンドと一緒に使用されます。ENDDOコマンドは、対応したDOコマンドで開始したDOグループの終了を指定します。ENDDOコマンドはDOグループの最後のコマンドの後に指定しなければなりません。

DOグループがネストされる場合には、各グループの終わりにそれ自体のENDDOコマンドがなければなりません。各ENDDOコマンドはDOコマンドと対応していなければなりません。CLプロシージャ・ソース中のENDDOコマンドが多過ぎる場合には、メッセージが出されて、プログラムは作成されません。

制約事項:このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDDOの例

例1:コマンドのグループの無条件処理

```
DO
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

DOとENDDOコマンドの間にあるコマンドが、コマンドのグループとして1回だけ処理されます。

例2:コマンドのグループの条件付き処理

```
IF &SWITCH DO
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

論理変数&SWITCHの値が'1'であれば、DOとENDDOコマンドの間にあるコマンドが処理されます。&SWITCHが'1'でなければ、ENDDOコマンドの次にあるコマンドに制御権がただちに移ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDDO

なし

[トップ](#)

ディスク再編成の終了 (ENDDSKRGZ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク再編成の終了 (ENDDSKRGZ)コマンドによって、ディスク再編成の開始 (STRDSKRGZ) CLコマンドを使用して開始したディスク再編成機能を終了することができます。ディスク再編成の終了は、すべての補助記憶域プール(ASP)に対して、あるいは1つまたは複数の特定ASPに対して選択することができます。各ASPの再編成機能が終了した時に、システム活動記録にメッセージが送られます。

制約事項: このコマンドを使用するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASP	ASP番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 1-32	オプション、定位置 1
ASPDEV	ASP装置	値 (最大 32 回の繰り返し): 名前, *ALLAVL	オプション

[トップ](#)

補助記憶域プールID (ASP)

ディスク再編成機能を終了する対象となる補助記憶域プールを指定します。ASPパラメーターまたはASPDEVパラメーターに値を指定しなければなりません。

***ALL** システムに対して定義されたシステムASP (ASP番号1)およびすべての基本ASP (ASP番号2-32)では、ディスク再編成が終了されます。

補助記憶域プール番号

ディスク再編成機能を終了する対象となるASPを指定します。有効なASP番号は1 - 32です。最大32個のASP番号を指定することができます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

ディスク再編成が終了されることになる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。ASPパラメーターまたはASPDEVパラメーターに値を指定しなければなりません。

*ALLAVL

現在「使用可能」の状況となっているASP装置ではすべて、ディスク再編成は終了されます。

補助記憶装置名

ディスク再編成を終了する対象となる、独立ASP装置の名前を指定します。最大32個のASP装置名を指定することができます。

[トップ](#)

ENDDSKRGZの例

例1: ASP 1のディスク再編成の終了

```
ENDDSKRGZ  ASP(1)
```

このコマンドによって、ASP 1に対するディスク再編成機能を終了することができます。

例2:すべてのASPのディスク再編成の終了

```
ENDDSKRGZ  ASP(*ALL)
```

このコマンドによって、現在再編成されている各ASPに対する再編成機能を終了することができます。

例3:すべてのASP装置のディスク再編成の終了

```
ENDDSKRGZ  ASPDEV(*ALLAVL)
```

このコマンドによって、現在再編成されている各ASP装置に対する再編成機能を終了することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDDSKRGZ

*ESCAPE メッセージ

CPF1889

ASP &1のディスク再編成は非活動状態である。

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

[トップ](#)

EPM環境終了 (ENDEPMENV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

EPM環境終了(ENDEPMENV)コマンドは、ユーザー制御の環境を削除するために、拡張プログラム・モデル (EPM)言語といっしょに使用されます。C/400*, FORTRAN/400*,およびAS/400* PASCALの各言語は拡張プログラム・モデルの一部です。

このコマンドを使用して、STREPMENVコマンドで作成したEPM言語適用業務の実行時環境を削除することができます。EPMおよびこのコマンドの詳細については、拡張プログラム・モデル (EPM) 使用者の手引きと参照(N:SC09-1294)を参照してください。

エラー・メッセージ: ENDEPMENV

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EPMENV	環境名	文字値, *INACT, *MAIN, *REENT	必須, 定位置 1
ENVNBR	環境番号	1-65535	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

環境名 (EPMENV)

どのユーザー制御環境を削除するかを指定します。特殊値(*INACT, *REENT,または*MAIN)の1つまたは環境名を指定しなければなりません。このパラメーターには省略時の値はありません。

*INACT

呼び出されていないすべてのEPMユーザー制御環境が削除されます。

*REENT

対応するENVNBRの再入可能環境が削除されます。このパラメーターを指定する場合には、ENVNBRに値を指定しなければなりません。

***MAIN** *MAINユーザー制御環境が削除されます。

環境名 削除したい環境の名前を入力してください。環境名はアスタリスク(*)で開始してはなりません。

[トップ](#)

環境番号 (ENVNBR)

削除する*REENT環境の環境番号を指定します。このパラメーターは、EPMENVに*REENTを指定した場合にだけ有効です。

環境番号

再入可能環境の番号を入力してください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDEPMENV

なし

[トップ](#)

グループ・ジョブ終了 (ENDGRPJOB)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グループ・ジョブ終了 (ENDGRPJOB)コマンドは、グループ内のジョブを1つだけ終了し、同じグループ内の別のジョブを再開します。次のことを指定することができます。

- グループ内のどのジョブを終了するか
- グループ内のどのジョブに制御を移すか（この値はいずれかのジョブが終了する場合にだけ指定できます）
- 終了するジョブのジョブ・ログを作成するか

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GRPJOB	グループ・ジョブ	名前, * _	オプション、定位置 1
RSMGRPJOB	再開するグループ・ジョブ	名前, *PRV	オプション
LOG	ジョブ・ログ	*NOLIST, *LIST	オプション

[トップ](#)

グループ・ジョブ (GRPJOB)

終了するジョブのグループ・ジョブ名を指定します。

*
_ このコマンドを出したグループ・ジョブが終了されます。

名前 終了するジョブのグループ・ジョブ名を指定してください。

[トップ](#)

再開するグループ・ジョブ (RSMGRPJOB)

グループ内の活動ジョブが終了した後で再開されるジョブのグループ・ジョブ名を指定します。このパラメーターが有効なのは、このコマンドを出すジョブが自分自身で終了する場合だけです。

*PRV 最新の活動グループ・ジョブが再開されます。

名前 グループ内の活動ジョブが終了した後に再開されるジョブのグループ・ジョブ名を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・ログ (LOG)

終了するグループ・ジョブのジョブ・ログを作成するかどうかを指定します。

*NOLIST

ジョブ・ログ中の情報は出力待ち行列にスプールされません。

***LIST** ジョブ・ログにある情報は出力待ち行列にスプールされます。

[トップ](#)

ENDGRPJOBの例

例1: コマンドを出したグループ・ジョブを終了する

```
ENDGRPJOB GRPJOB(*) LOG(*LIST) RSMGRPJOB(GROUPJOB1)
```

このコマンドは、現在実行中のジョブを終了します。ジョブ・ログは印刷のために出力ファイルにスプールされます。ジョブが実行を完了すると、グループ・ジョブGROUPJOB1がグループ内の活動ジョブになります。

例2: 終了したジョブの出力を印刷する

```
ENDGRPJOB GRPJOB(GROUPJOB2) LOG(*LIST)
```

ENDGRPJOBコマンドを出すジョブがグループ・ジョブGROUPJOB1で、このジョブがGROUPJOB2を終了したいとします。グループ・ジョブGROUPJOB2は終了します。ジョブ・ログは印刷のために出力ファイルにスプールされます。

例3: 2次ジョブ・ペアの一部であるジョブを終了する

```
ENDGRPJOB GRPJOB(*) LOG(*NOLIST)
```

ENDGRPJOBコマンドを出すジョブがグループ内の唯一のジョブであって、2次ジョブ・ペアの一部であるとします。このコマンドを出すジョブは終了します。このジョブのジョブ・ログは出力ファイルにスプールされません。このジョブが終了すると、2次ジョブ・ペアのもう一方のジョブが再開されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDGRPJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1309

サブシステムは&1コマンドを完了することができない。

CPF1314

パラメーター&2の値&1を使用することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1322

この時点に、グループ・ジョブ終了コマンドを使用することはできない。

CPF1323

グループ・ジョブ&1が終了していない。パラメーターが一致していません。

CPF1324

グループ・ジョブ&1が終了していない。パラメーターが一致していません。

CPF1325

グループ・ジョブ&1は終了していない。グループ・ジョブ&2が存在していません。

CPF1326

グループ・ジョブ&1は存在していません。

CPF1327

グループ・ジョブ&1をENDGRPJOBで終了することはできない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

[トップ](#)

ホスト・サーバーの終了 (ENDHOSTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ホスト・サーバー終了(ENDHOSTSVR)コマンドは、最適化されたホスト・サーバー・デーモンを終了するために使用します。1つまたは複数のサーバー・デーモンを終了し、サーバー・マッパー・デーモンを終了することができます。任意選択で、*DATABASEおよび*FILEサーバーとの活動接続は、このコマンドで終了できます。

サーバー・デーモンを終了し、そのタイプでクライアント適用業務との活動状態の接続のあるサーバーがある場合には、任意のENDACTCNNパラメーターが指定されていない限り、クライアント適用業務との通信が終了するまでは、サーバー・ジョブは活動状態のままです。しかし、サーバー・デーモンを再始動するまでは、クライアント適用業務からそのサーバー・デーモンの後続の接続は失敗します。

サーバー・マッパー・デーモンを終了しても、サーバー・ジョブとの既存のクライアント接続は影響を受けません。しかし、サーバー・マッパーを再始動するまでは、(サーバーのポート番号を得るために)クライアント適用業務からそのサーバー・マッパー・デーモンの後続の接続は失敗します。

*ALLホスト・サーバー・デーモンに対する要求は活動デーモンを終了します。

*DATABASEおよび*FILEサーバーとの活動接続を終了するために、ENDACTCNNパラメーターを指定することができます。これによって、これらのジョブにサービスを提供しているサーバー・ジョブが終了されます。対応するデーモン・ジョブも終了される場合にのみ、活動接続を終了することができます。

*DATABASEキーワードが指定されている場合には、活動接続を持つQZDASOINITおよびQZDASSINITジョブが終了されます。*FILE キーワードが指定されている場合には、活動接続を持つQPWFSERVSO およびQPWFSERVSSジョブが終了されます。

エラー・メッセージ: ENDHOSTSVR

なし

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *CENTRAL, *DATABASE, *DTAQ, *FILE, *NETPRT, *RMTCMD, *SIGNON, *SVRMAP	必須, 定位置 1
ENDACTCNN	活動状態接続の終了	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *DATABASE, *FILE	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SERVER)

終了するサーバー・デーモンを指定します。

指定できる値は次の通りです。

***ALL:** すべてのサーバー・デーモンおよびサーバー・マッパー・デーモンが終了されます。

***CENTRAL**

QSYSWRKサブシステム中のセントラル・サーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***DATABASE**

QSERVERサブシステム中のデータベース・サーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***DTAQ**

QSYSWRKサブシステム中のデータ待ち行列サーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***FILE** QSERVERサブシステム中のファイル・サーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***NETPRT**

QSYSWRKサブシステム中のネットワーク印刷サーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***RMTCMD**

QSYSWRKサブシステム中のリモート・コマンドおよび分散プログラム呼び出しサーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***SIGNON**

QSYSWRKサブシステム中のサインオン・サーバー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

***SVRMAP**

QSYSWRKサブシステム中のサーバー・マッパー・デーモンが活動状態の場合には、それが終了します。

[トップ](#)

活動状態接続の終了 (ENDACTCNN)

指定されたサーバーの活動接続が終了されるかどうかを指定します。

単一値

***NONE:**

活動接続は終了されません。

特定のサーバー値

***DATABASE:**

QZDASOINITおよびQZDASSINITサーバー・ジョブによってサービスが提供されている活動接続が終了されます。これらの接続についてサービスを提供しているサーバー・ジョブが終了されます。

***FILE:** QPWFSERVSOおよびQPWFSSサーバー・ジョブによってサービスが提供されている活動接続が終了されます。これらの接続についてサービスを提供しているサーバー・ジョブが終了されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENHOSTSVR

なし

[トップ](#)

入力終了 (ENDINP)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

入力終了(ENDINP)コマンドは、バッチ入力ストリーム中で入力データの終わりを示す区切りです。入力終了(ENDINP)コマンドは、インライン・ファイルの処理中にこのコマンドが検出された場合には、インライン・データ・ファイルの終わりを示すこともあります。インライン・ファイルが省略時の値(/)でない終了文字を使用している場合には、入力終了(ENDINP)コマンドが組み込まれていても、認識されません。

制約事項:このコマンドはワークステーションで入力することはできません。データ・レコードの入力終了(ENDINP)コマンドの前の1桁目および2桁目に2つのスラッシュを先行させなければなりません。たとえば、//ENDINPとなります。(// ENDINP)のように、スラッシュとコマンド行とを空白で区切ることができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

ENDINPの例

```
//BCHJOB
:
//DATA
:
//ENDINP
```

ENDINPコマンドは、バッチ・ジョブ(BCHJOB)コマンドで始まった入力ストリームの終わりを指示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDINP

***ESCAPE** メッセージ

CPF1753

コマンドを実行することができない。

[トップ](#)

SNA インターフェース上のIPの終了 (ENDIPSIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAインターフェースを経由するIPの終了(ENDIPSIFC)コマンドは、SNAインターフェースを経由するAF_INETソケット (SNAトランスポートでこのローカル・ホストが認識されるIPアドレス) を終了するために使用されます。

注: インターフェースの終了によって、経路を切り替えることができる活動状態の他のインターフェースがない場合には、このインターフェースに関連付けられたすべての経路が直ちに非活動化されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

前にSNAインターフェース上のIP追加(ADDIPSIFC) CLコマンドでIP SNA構成に追加された活動状態の (開始された) インターフェースのインターネット・アドレスを指定します。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ENDIPSIFCの例

```
ENDIPSIFC INTNETADR('9.5.1.248')
```

このコマンドは、IPアドレス9.5.1.248とのインターフェースを非活動化 (終了) します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDIPSIFC

*ESCAPE メッセージ

CPFA114

SNAを経由するIPインターフェース&1は終了されなかった。

[トップ](#)

ジョブ終了 (ENDJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ終了 (ENDJOB)コマンドは、指定されたジョブを終了し、関連したインライン・データ・ファイルがあればそれも終了します。ジョブはジョブ待ち行列上にあるか、活動状態になっているか、またはすでに実行を完了している可能性があります。

ジョブの終了処理を制御するための時間をアプリケーション・プログラムに与えることを指定することができます。時間が与えられていない場合、あるいは与えられた時間内にクリーンアップを実行できない場合には、システムは最小限のジョブの終わり処理を実行します。これには次のものが含まれます。

- データベース・ファイルのクローズ。
- ジョブ・ログの出力待ち行列へのスプーリング。
- オペレーティング・システムの内部オブジェクトのクリーンアップ。
- ジョブ終了画面の表示（対話式ジョブの場合）
- コミットメント制御処理の完了

ジョブを終了する前に、作業論理単位が2フェーズ・コミットが進行中のために疑わしい状態になっているか確認する必要があります。そうなっている場合には、「ENDJOBの処置」コミットメント・オプションの値がENDJOB処理に著しい影響を与える可能性があります。たとえば、「ENDJOBの処置」コミットメント・オプションが省略時の値WAITである場合には、コミットメント制御操作が完了するまで、このジョブは保留され、そのジョブの終わり処理は完了しません。これにより、関連したすべてのシステム上のデータベース安全性が保証されます。これらの条件を判別する方法に関する特定の指示、およびこれらの条件下でのこのジョブを終了した場合のすべての影響については、BACKUP AND RECOVERYを参照してください。

制約事項: コマンド発行側は、終了されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	<u>*CNTRL</u> D, *IMMED	オプション、位置 2
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプション、位置 3
SPLFILE	スプール・ファイル削除	<u>*NO</u> , *YES	オプション、位置 4
LOGLMT	ログ項目の最大数	整数, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
ADLINTJOBS	追加の対話式ジョブ数	<u>*NONE</u> , *GRPJOB, *ALL	オプション
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	<u>*SELECT</u> , *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

終了するジョブの修飾ジョブ名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しなかった場合には、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数見つかった場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

トップ

終了方法 (OPTION)

ジョブが即時に終了するか、あるいはアプリケーション・プログラムがジョブの終わり処理を実行できる制御された方式によって終了するかを指定します。いずれの場合にも、システムは何らかのクリーンアップ処理を実行します。

*CNTRLD

ジョブは制御された方式によって終了します。これにより、実行中のプログラムはクリーンアップ（ジョブの終わり処理）を行なうことができます。終了するジョブに非同期シグナルSIGTERMのシグナル処理プロシージャがあると、そのジョブに対してSIGTERMシグナルが生成されます。アプリケーションは、ジョブを終了する前にクリーンアップを完了するために、DELAYパラメーターに指定された時間があります。

*IMMED

ジョブは即時に終了し、システムはジョブの終わりクリーンアップを実行します。システムのクリーンアップにはわずかな時間または数分かかることがあります。終了するジョブに非同期シグナル SIGTERM のシグナル処理プロシージャがあると、そのジョブに対して SIGTERM シグナルが生成され、QENDJOB LMT システム値が時間制限を指定します。実行中のプログラムは、SIGTERM シグナルの処理による以外、いかなるクリーンアップも実行できません。

注: *IMMED 値は、データが完全に更新されていないと、望ましくない結果をもたらすことがあります。制御付き終了を試みてそれが失敗に終わった場合にだけ、この値を使用するようにしてください。

注: ジョブの即時終了時に SIGTERM シグナル・ハンドラーが実行している時は、OPTION(*IMMED) を指定した ENDJOB コマンドを使用して、その SIGTERM シグナル・ハンドラーを終了することができます。これが許されるのは、その SIGTERM シグナル・ハンドラーがすでに少なくとも 2 分間実行している場合だけです。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御された終了中にそのクリーンアップを完了するためにジョブで使用できる時間 (秒数) を指定します。遅延時間の終わりまでにクリーンアップを完了しない場合には、ジョブは即時に終了します。システムのクリーンアップだけが実行されます。

次の条件の1つのためにジョブが保留された場合には、ジョブが活動状態になるまで、遅延時間は始まりません。

- システム要求オプション1が選択された。
- ジョブ保留 (HLDJOB) コマンドによってジョブが保留された。
- 2次ジョブへの移行 (TFRSECJOB) コマンドによってジョブが転送された。
- グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB) コマンドによってジョブが転送された。

注: このパラメーターが有効なのは、OPTION(*CNTRLD) が指定された場合だけです。

30 ジョブが終了するまでにクリーンアップに30秒の最大遅延時間が与えられます。

1-999999

ジョブが終了する前の最大遅延時間 (秒数) を指定してください。

トップ

スプール・ファイル削除 (SPLFILE)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルが通常処理のために保持されるか、あるいは削除されるかを指定します。スプール・ファイルが削除されるかどうかにかかわらず、ジョブ・ログは保持されません。

***NO** 終了されるジョブによって作成されるスプール出力ファイルは、書き出しプログラムによる通常処理に備えて保管されます。ジョブが終了すると、スプール・ファイルを切り離すのか、あるいはジョブとともに保管するのかは、スプール・ファイル処置(SPLFACN)ジョブ属性によって判別されます。

***YES** 終了しようとしているジョブが作成したスプール出力ファイルのうち、このコマンドを出すスレッドのライブラリー名スペースの出力待ち行列にあるものが削除されます。ジョブ・ログは削除されません。ジョブがすでに終了していて、そのジョブのスプール・ファイル処置がスプール・ファイルを切り離すことである場合には、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドではそのジョブが検索されないし、スプール・ファイルも削除されません。

トップ

ログ項目の最大数 (LOGLMT)

終了するジョブのメッセージ待ち行列中の、ジョブ・ログに書き込まれる項目の最大数を指定します。このパラメーターを使用して、終了するジョブごとに、ジョブ・ログの印刷出力ファイルQPJOBLOGに書き込まれるメッセージの数を制限することができます。

このコマンドで終了したいジョブがすでに終了中の場合には、このパラメーターに指定された値によって、終了中のジョブのロギング限界を変更することができます。ロギング限界の変更方法の例は次の通りです。

1. 指定された値が、コマンドが出された時点で書き出されたメッセージ数より大きい場合には、新しい限界に達するまでメッセージの書き出しが続行されます。
2. 指定された値が、スプール・ファイルにすでに書き出されたメッセージ数より小さい場合には、限界に達したことを示すメッセージが最後の項目としてスプール・ファイルに即時に示されます。待ち行列上の残りのメッセージは無視されます。
3. スプール・ファイルにメッセージを書き出す前に、0（ゼロ）が指定された場合には、終了中のジョブのジョブ・ログは作成されません。

***SAME**

メッセージのロギング限界は変更されません。前のコマンドでこのジョブのロギング限界が変更されていない場合には、システムによって使用される値は*NOMAXとなります。

***NOMAX**

記録されるメッセージの数に制限はありません。ジョブ・メッセージ待ち行列にあるすべてのメッセージがジョブ・ログに書き込まれます。

整数 ジョブ・ログに書き出すことができるメッセージの最大数を指定してください。

トップ

追加の対話式ジョブ数 (ADLINTJOBS)

ジョブ名 (JOB)パラメーターに指定されたジョブと関連した追加の対話式ジョブを終了するかどうかを指定します。

***NONE**

JOBパラメーターに指定されたジョブのみが終了します。

***GRPJOB**

JOBパラメーターに指定されたジョブがグループ・ジョブの場合は、そのグループと関連したすべてのグループ・ジョブが終了します。そのジョブがグループ・ジョブでない場合は、JOBパラメーターに指定されたジョブが終了します。

***ALL** JOBパラメーターに指定されたジョブと関連したワークステーションで実行しているすべての対話式ジョブが終了します。これには、グループ・ジョブおよび2次ジョブが含まれます。

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

ENDJOBの例

例1:ジョブを即時に終了する

```
ENDJOB JOB(JOB1) OPTION(*IMMED) SPLFILE(*YES)
```

このコマンドは、JOB1という名前のジョブを即時に終了します。このジョブが生成したスプール出力は削除されますが、ジョブ・ログは保管されます。

例2:スプール出力を保管する

```
ENDJOB JOB(001234/XYZ/JOB2) OPTION(*CNTRL D)  
      DELAY(50) SPLFILE(*NO)
```

このコマンドは、001234/XYZ/JOB2という名前のジョブを終了します。スプール出力は、通常処理のためにスプール書き出しプログラムによって保管されます。このジョブはクリーンアップ・ルーチンの実行に50秒を要し、その後、即時に終了されます。

トップ

エラー・メッセージ： ENDJOB

***ESCAPE** メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1342

このコマンドのジョブ名として現行ジョブを使用することはできない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF135D

この時点ではENDJOB OPTION(*IMMED)は許可されません。

CPF1360

ENDJOBABNのため、&3/&2/&1はすでに終了中である。

CPF1361

ジョブ&3/&2/&1が*IMMEDオプションですすでに終了中である。

CPF1362

ジョブ&3/&2/&1が完了した。

CPF1363

ジョブ&3/&2/&1が*CNTRLDですすでに終了中である。

CPF8172

ジョブ&10/&9/&8のスプール制御ブロックに損傷がある。

[トップ](#)

ジョブ異常終了 (ENDJOBABN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ異常終了 (ENDJOBABN)コマンドは、終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDを指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドでは正常に終了できないジョブを終了します。即時終了要求を出してから10分が経過するまでは、ENDJOBABNコマンドをジョブに対して出すことはできません。これにより、通常のジョブ終了機能を試みるのに十分な時間ができます。

ENDJOBABNコマンドが出されると、ジョブ終了処理の大部分（ジョブ・ログのプール、対話式ジョブのジョブ終了画面、および実行中の個々の機能のジョブ終了処理など）がう回されます。試みられるジョブ終了処理の部分は、完了まで5分の猶予しかありません。5分経っても完了しないと、ジョブはその時点で強制的に終了されます。ジョブ・クリーンアップの一部が実行されないため、即時終了の最中であるジョブが終了を完了しないで、そのジョブが使用中である資源を別のジョブまたはシステムが必要としている時にだけ、ENDJOBABNコマンドを使用するようにしてください。ENDJOBABNコマンドを使用すると、終了するジョブが使用中の資源の一部が、次のIPLまで使用不可のままにされることがあります。

ENDJOBABNコマンドを使用すると、次のシステム終了にABNORMALのマークが付けられます。そうすると、後続のIPL時に一定のシステム機能が呼び出され、ENDJOBABNコマンドの実行が原因で発生した可能性のある条件が解消されます。ただし、これによって、マシン回復機能が呼び出されることもなければ、アクセス・パスの再作成が必要になることもありません。ジョブが使用している一部の記憶域は、ENDJOBABNコマンドが実行された後で使用不可になることがあります。使用可能な記憶域は、記憶域再利用 (RCLSTG)コマンドを使用して再利用することができます。

ジョブ・ログ書き込みプロセスをう回すると、ENDJOBABNコマンドによってジョブが終了された後、ジョブの状況はJOBLOG PENDING (DSPJOB状況属性画面に表示される)になります。ジョブ・ログ書き込みは、次のIPLまで実行されません。ただし、ジョブ・ログ表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用すれば、ジョブ・ログの内容を印刷または表示することができます。

ENDJOBABNコマンドの実行時に、次の機能が正常に実行されます。

- ジャーナル処理項目
- コミットメント制御

ジョブを異常終了する前に、作業論理単位が2フェーズ・コミットが進行中のために疑わしい状態になっているか確認する必要があります。そうなっている場合には、このシステムで保留中のコミット可能な変更のコミットまたはロールバックは行われません。したがって、データベース保善性は関連したすべてのシステムで維持されない可能性があります。これらの条件を判別する方法に関する特定の指示、およびこれらの条件下でのこのジョブの異常終了の影響すべての説明については、INFORMATION CENTERにあるCOMMITMENT CONTROLの更を参照してください。

- データベース・ファイルを他のジョブで使用可能にすること
- ファイルのロックの解放

このコマンドは、以下の状況では、ジョブの終了に失敗するか、終了するのに少なくとも5分を要します。

- ジョブがハング状態のサブシステム・モニターのもとで実行されたか、異常な低速で進行しているか、異常終了した時（サブシステム・モニターは終了機能の一部を実行します）。
- ジョブで実行中のマシン・インターフェース(MI)命令がハング状態にあるか、異常な低速で進行している時。現在実行中のMI命令が完了するか、中断点に達するまで、ジョブを終了できません。

制約事項:

1. コマンド発行側は、終了中のジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。あるいはコマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。
2. コマンド発行側は、終了中のジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。あるいはコマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。
3. ENDJOBABNコマンドを実行した後で、続けてENDJOBABNコマンドをジョブに対して出すことはできません。
4. ユーザーは読み取りプログラム、書き出しプログラム、サブシステム・モニター、またはシステム・ジョブを終了することはできません。
5. ユーザーは、ジョブの即時終了が開始されてから10分間はENDJOBABNコマンドを実行できません。ジョブの即時終了は次の方法で開始されます。
 - OPTION(*CNTRLD)を含むジョブ終了 (ENDJOB)コマンドが指定されて、遅延時間が終了した時。
 - OPTION(*IMMED)を含むENDJOBコマンドが出された時。
 - OPTION(*CNTRLD)を含むサブシステム終了 (ENDSBS)コマンドが、ジョブを実行中のサブシステムに対して出され、遅延時間が終了した時。
 - OPTION(*IMMED)を含むENDSBSコマンドが、ジョブを実行中のサブシステムに対して出された時。
 - OPTION(*IMMED)またはOPTION(*CNTRLD)を含むシステム終了 (ENDSYS)コマンドが出され、遅延時間が終了した時。
 - OPTION(*IMMED)を含むシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出された時。
6. ジョブが非同期シグナルSIGTERMのハンドラーを定義している場合は、SIGTERMシグナル・ハンドラーを実行できるようにジョブの即時終了が遅延されます。詳細については、システム値QENDJOB LMTを参照してください。SIGTERMシグナル・ハンドラーの実行中は、ENDJOBABNコマンドを実行できません。SIGTERMシグナル・ハンドラーが少なくとも2分間実行したら、OPTION(*IMMED)を含むENDJOBコマンドを使用して、SIGTERMシグナル・ハンドラーを停止してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

ジョブ名 (JOB)

終了するジョブの修飾ジョブ名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しなかった場合には、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

ENDJOBABNの例

ENDJOBABN JOB(000310/SMITH/PAYROLL)

このコマンドは、ENDJOBコマンドを使用して前に終了しようと試みて失敗したバッチ・ジョブ 000310/SMITH/PAYROLLを終了します。ENDJOBABNコマンドは、ENDJOBコマンドを出してから少なくとも10分間ジョブの終了を待機した後でしか出せません。

トップ

エラー・メッセージ： ENDJOBABN

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1342

このコマンドのジョブ名として現行ジョブを使用することはできない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1359

この時点にジョブ&3/&2/&1に対してENDJOBABNを使用することはできない。

CPF1360

ENDJOBABNのため、&3/&2/&1はすでに終了中である。

CPF1362

ジョブ&3/&2/&1が完了した。

[トップ](#)

ジャーナルの終了 (ENDJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル終了(ENDJRN)コマンドは、オブジェクトまたはオブジェクトのリストに対する変更のジャーナル処理を終了するために使用されます。このインターフェースによってサポートされるオブジェクト・タイプは、データ域(*DTAARA)、データ待ち行列(*DTAQ)、バイト・ストリーム・ファイル(*STMF)、ディレクトリー(*DIR)、および記号リンク(*SYMLNK)です。ルート(/)、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、タイプが*STMF、*DIR、または*SYMLNKのオブジェクトだけが、サポートされています。

また、特定のジャーナルに現在ジャーナル処理されているサポート・タイプのすべてのオブジェクトがジャーナル処理を停止する場合があります。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

1. アクセス・パス-ジャーナル・アクセス・パスの終了(ENDJRNAP)
2. 物理ファイル-物理ファイルのジャーナル処理終了(ENDJRNPF)
3. 他のオブジェクト-オブジェクトのジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)

制約事項:

- コマンドに指定されたオブジェクトは、コマンドの実行中は理由にかかわらず使用できません。
- OBJ(*ALL)を指定すると、ジャーナル名を指定する必要があります(JRNパラメーター)。
- ジャーナル名およびオブジェクト名のリストを指定する場合には、すべてのオブジェクトは指示するジャーナルに対して現在ジャーナル処理されていなければなりません。
- 指定するジャーナルはリモート・ジャーナルでなければなりません。
- パラメーターOBJまたはOBJFIDの少なくとも1つを指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *NONE	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
JRN	ジャーナル	パス名, *OBJ	オプション

オブジェクト (OBJ)

変更がジャーナル処理されなくなるオブジェクト・パス名を最大で300まで指定します。パス名が*STMF, *DIR, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのタイプのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされています。

単一値

***ALL** 示されたジャーナルに現在ジャーナル処理中のサポート・タイプのオブジェクトはすべて、その変更のジャーナル処理を停止します。*ALLを指定する場合は、パラメーターOBJFIDを指定する必要はありません。

要素 1：名前

‘オブジェクトのパス名’

変更がジャーナル処理されなくなるオブジェクトのパス名を指定します。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素 2：組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが変更のジャーナル処理を停止させます。

***OMIT** オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは、変更のジャーナル処理を停止させるオブジェクトに組み込まれません。これは *INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパスのサブセットを除外するために使用されることになります。

トップ

ファイル識別コード (OBJFID)

変更がジャーナル処理されなくなるファイル識別コード(FID)を最大300まで指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けされている固有の識別コードです。このフィールドは16進形式で入力されます。FIDがタイプ*STMF, *DIR, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされています。

ファイル識別コード

FIDで確認されるオブジェクトはジャーナル処理されなくなります。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリー・サブツリーのオブジェクトが変更のジャーナル処理を停止させるかどうかを指定します。

注: オブジェクト・パス名がディレクトリー・オブジェクトでない限り、このパラメーターは無視されません。

注: OBJFIDパラメーターを指定すると、このパラメーターは無視されます。

*NONE

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

*ALL 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

トップ

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル処理終了操作のオブジェクトを組み込みまたは除外するために使用されるパターンを最大20まで指定します。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。

このパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

注: OBJFIDパラメーターを指定すると、このパラメーターは無視されます。

要素 1: 名前パターン

** 入力OBJパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが、ジャーナル処理の終了操作に組み込まれるか、またはジャーナル処理の終了操作から除外されます。

名前パターン

ジャーナル処理の終了操作にオブジェクトを組み込むかまたは除外するためにパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

要素 2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、ディレクトリー・サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが変更のジャーナル処理を停止させます。

***OMIT** オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは、変更のジャーナル処理を停止させるオブジェクトに組み込まれません。これは *INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ジャーナル (JRN)

変更が現在ジャーナル処理されているジャーナルを指定します。

***OBJ** ジャーナルは、指定のオブジェクト・パス名またはオブジェクト・ファイル識別コードからシステムによって判別されます。

ジャーナル・パス名

変更が現在ジャーナル処理されているジャーナルのパス名を指定します。

トップ

ENDJRNの例

例 1:すべての非データベース・ジャーナル処理の終了

```
ENDJRN OBJ(*ALL) JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRN')
```

このコマンドは、タイプが*DIR, *STMF, *SYMLNK, *DTAARA,および*DTAQのすべてのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRNへのジャーナル処理を終了します。

例 2:ディレクトリーを省略したジャーナル処理の終了

```
ENDJRN OBJ('/MYPATH' *INCLUDE) ('/MYPATH/MYOBJECT' *OMIT)
```

このコマンドは、オブジェクト/MYPATH/MYOBJECTを除くディレクトリー/MYPATH内のすべての第1レベル・オブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。オブジェクト/MYPATH/MYOBJECTのジャーナル処理は続行されます。

例 3:パターン選択によるジャーナル処理の終了

```
ENDJRN OBJ('/MYPATH' *INCLUDE) ('/MYPATH/MYSUBDIR' *OMIT)
        SUBTREE(*ALL) PATTERN('*.*.TXT' *INCLUDE)
```

このコマンドは、タイプが*DIR, *STMF,および*SYMLNKのディレクトリー/MYPATH内の、パターン '*.*.TXT'と一致したすべてのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。ディレクトリー/MYPATH/MYSUBDIR内のすべてのオブジェクトのジャーナル処理は続行されます。

例 4:ファイル識別コードを使用したジャーナル処理の終了

```
ENDJRN  OBJFID(000000000000000007E09BDB000000009
          0000000000000009E09BDB00000000A)
```

このコマンドは、指定された識別コードによって表される、タイプが*DIR, *STMF, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。

例 5:一連のデータ域上のジャーナル処理の終了

```
ENDJRN  OBJ('QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYDATA*.DTAARA'))
          JRN('QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRN')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のタイプが*DTAARAの、文字'MYDATA'で始まるオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。

トップ

エラー・メッセージ： ENDJRN

*ESCAPEメッセージ

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPF700B

&2個のオブジェクトのうち&1個がジャーナル処理を終了した。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

アクセス・パス・ジャーナル終了 (ENDJRNAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス・ジャーナル終了(ENDJRNAP)コマンドは、ジャーナル処理されたファイルのアクセス・パスのジャーナル処理を終了するために使用されます。

現在特定のジャーナルにジャーナル処理されているすべてのアクセス・パスのジャーナル処理が停止されることもあります。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- 統合ファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理終了(ENDJRN)
- 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理終了(ENDJRNPf)
- その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)

制約事項:

- コマンドの実行中は、コマンドに指定されたファイルのアクセス・パスをいかなる理由であれ使用できません。
- 一時変更は、FILEパラメーターにリストされているファイルには適用されません。
- FILE(*ALL)を指定した場合には、ジャーナル名を指定しなければなりません。
- ジャーナル名およびファイル名のリストを指定する場合には、リストされたファイルのすべてのアクセス・パスが指示されたジャーナルに現在ジャーナル処理されていなければなりません。
- 物理ファイルの項目のジャーナル処理は、このコマンドの実行によって終了されません。
- 指定するジャーナルはリモート・ジャーナルでなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナル処理ファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル処理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRN	ジャーナル	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ジャーナル処理ファイル (FILE)

アクセス・パスのジャーナル処理を終了する最大50のデータベース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指示されたジャーナルに対する現行のアクセス・パスのジャーナル処理がすべて終了されます。

修飾子 1: ジャーナル処理ファイル

ファイル名

ジャーナル項目のアクセス・パスが終了するデータベース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

指示されたファイルに対するアクセス・パスのジャーナル処理を終了するジャーナルを指定します。

単一値

***FILE** ジャーナル名が、指定したファイル名からシステムによって判別されます。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ENDJRNAPの例

ENDJRNAP FILE(MYLIB/MYFILE)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILEのすべてのアクセス・パスのジャーナル処理を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDJRNAP

*ESCAPEメッセージ

CPF6972

&2のファイル&1のアクセス・パスを割り振ることができない。

CPF7008

ファイル&1のアクセス・パスのジャーナル処理を開始または終了することはできない。

CPF703C

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703D

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703E

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF7032

ENDJRNPFまたはENDJRNAPコマンドが正常に実行されなかった。

CPF7033

メンバー&3のジャーナル処理の開始または終了が正常に行なわれなかった。

CPF7034

&2のファイル&1の論理的な損傷。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・オブジェクト終了 (ENDJRNOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・オブジェクト終了(ENDJRNOBJ)コマンドは、オブジェクトまたはオブジェクトのリストに対する変更のジャーナル処理を終了するために使用されます。

また、特定のジャーナルに現在ジャーナル処理されているオブジェクト・タイプ*DTAARAおよび*DTAQが、ジャーナル処理を停止させる場合もあります。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-アクセス・パス・ジャーナル処理終了(ENDJRNP)
- 統合ファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理終了(ENDJRN)
- 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理終了(ENDJRNP)

制約事項:

- コマンドに指定されたオブジェクトは、コマンドの実行中は理由にかかわらず使用できません。
- OBJ(*ALL)またはOBJTYPE(*ALL)を指定すると、ジャーナル名を指定する必要があります(JRNパラメーター)。
- ジャーナル名およびオブジェクト名のリストを指定する場合には、すべてのオブジェクトは指示するジャーナルに対して現在ジャーナル処理されていなければなりません。
- 指定するジャーナルはリモート・ジャーナルでなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *ALL	必須, 定位置 2
JRN	ジャーナル	単一値: *OBJ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

オブジェクト (OBJ)

変更がジャーナル処理されなくなる最大300のオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指示したジャーナルに現在ジャーナル処理されている指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが、その変更のジャーナル処理を停止します。

修飾子 1: オブジェクト

オブジェクト名

ジャーナル処理が終了されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

ジャーナル処理が終了されるオブジェクト・タイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DTAARA

データ域オブジェクトがそのジャーナル処理を終了させます。

*DTAQ

データ待ち行列オブジェクトがそのジャーナル処理を終了させます。

***ALL** このコマンドでサポートされているオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトがそのジャーナル処理を終了させます。

注: OBJTYPE(*ALL)を指定した場合には、OBJ(*ALL)も指定しなければなりません。

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

オブジェクトの変更が現在ジャーナル処理されているジャーナルの修飾名を指定します。

単一値

***OBJ** ジャーナル処理が、指定のオブジェクト名およびオブジェクト・タイプからシステムによって判別されます。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

指示されたオブジェクトが現在ジャーナル処理されているジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ENDJRNOBJの例

例 1:すべてのデータ域およびデータ待ち行列のジャーナル処理の終了

```
ENDJRNOBJ OBJ(*ALL) OBJTYPE(*ALL) JRN(MYLIB/MYJRN)
```

このコマンドは、タイプが*DTAARAおよび*DTAQのすべてのオブジェクトに対するすべての変更のライブラリーMYLIBのジャーナルMYJRNへのジャーナル処理を停止します。

例 2:特定データ域のジャーナル処理の終了

```
ENDJRNOBJ OBJ(DTALIB/MYDTAARA) OBJTYPE(*DTAARA)
```

このコマンドは、ライブラリーDTALIBのデータ域MYDTAARAに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDJRNOBJ

*ESCAPEメッセージ

CPF700B

&2個のオブジェクトのうち&1個がジャーナル処理を終了した。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル物理ファイルの終了 (ENDJRNPf)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PF変更ジャーナル終了(ENDJRNPf)コマンドは、特定の物理ファイルおよびそのすべてのメンバーに対する変更のジャーナル処理を終了するために使用されます。

現在特定のジャーナルにジャーナル処理されているすべての物理ファイルも、ジャーナル処理が停止される可能性があります。

ジャーナル処理の終了したファイルが分散ファイルである時に、ジャーナル処理がローカルで正常に終了した場合には、ENDJRNPfコマンドの配布が試みられます。たとえ配布要求が正常に実行されなくても、ローカル・ファイルはジャーナル処理されません。さらに、ジャーナルおよびファイル名が指定されていて、ファイルが配布された場合には、ファイルがローカルでジャーナル処理されなくても、ENDJRNPf要求の配布が試みられます。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-アクセス・パス・ジャーナル処理終了(ENDJRNP)
- 統合ファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理終了(ENDJRN)
- その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)

制約事項:

- コマンドに指定されたファイルの中のメンバーは、コマンドの実行中は、いかなる理由にかかわらず、使用することはできません。
- 一時変更は、FILEパラメーターにリストされているファイルには適用されません。
- FILE(*ALL)を指定した場合には、ジャーナル名を指定しなければなりません。
- ジャーナル名およびファイル名のリストを指定する場合には、すべてのファイルは、指示されたジャーナルに対して現在ジャーナル処理されていないなければなりません。
- 指定するジャーナルはリモート・ジャーナルでなければなりません。
- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ *SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

変更がジャーナル処理されなくなる最大50の物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 現在指定したジャーナルに対してジャーナル処理しているすべての物理ファイルは、以後その変更がジャーナル処理されません。

修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル

ファイル名

変更がジャーナル処理されなくなる物理データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナル (JRN)

現在指示されたファイルの変更がジャーナル処理されているジャーナルの名前を指定します。

単一値

***FILE** ジャーナルは、指定のファイル名からシステムによって判別されます。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

現在指定されたファイルの変更がジャーナル処理されているジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ENDJRNPfの例

ENDJRNPf FILE(MYLIB/MYFILE)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILEのすべてのメンバーに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。このコマンドの実行後に行われた変更はジャーナル処理されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： ENDJRNPf

***ESCAPEメッセージ**

CPF6959

オブジェクト&1は現在ジャーナル処理されていない。

CPF6970

ファイル&1に作成されたアクセス・パスはジャーナル処理中である。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF703B

アクセス・パスのジャーナル処理の暗黙の終了が正常に実行されなかった。

CPF703C

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703D

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703E

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF7031

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF7032

ENDJRNPfまたはENDJRNP命令が正常に実行されなかった。

CPF7033

メンバー&3のジャーナル処理の開始または終了が正常に行われなかった。

CPF7034

&2のファイル&1の論理的な損傷。

CPF704C

ジャーナル処理がローカルで終了されたが、分散要求は正しく実行されなかった。

CPF704D

ENDJRNPFCOMMANDが正しく実行されなかった。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

回線回復終了 (ENDLINRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線回復終了(ENDLINRCY)コマンドは、特定の回線に対する自動的エラー回復手順を終了します。このコマンドの実行後に何かのタイプの障害が起った場合には、システム操作員に照会メッセージが送られます。

回線に対するエラー回復手順を再開するためには、回線回復手順再開(RSMLINRCY) コマンドを使用してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	行	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

行 (LINE)

回復手順を停止する通信回線の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ENDLINRCYの例

ENDLINRCY LINE(NYC2)

このコマンドは、NYC2という名前の回線に対してのエラー・リカバリー手順を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDLINRCY

***ESCAPE** メッセージ

CPF2704

回線記述&1が見つからない。

CPF5917

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF5932

回線&1をアクセスすることができない。

CPF5933

回線&1がオンに構成変更されていない。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

モード終了 (ENDMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード終了(ENDMOD) コマンドは、特定の拡張プログラム間通信機能(APPC)リモート・ロケーションの単一モードまたはすべての活動モードを終了（非活動化）します。モード開始(STRMOD)コマンドを実行してモードを開始するまで、そのモードは非活動状態になったままです。このコマンドを使用して、特定のリモート・ロケーションのすべてのセッションを終了し、活動交換接続を切断することができます。また、ユーザーはリモート・システムで要求済みだが、まだ実行されていない活動の処理方法を指定することもできます。

このコマンドの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

制約事項: このコマンドは、リモート・ロケーションのCLIENT ACCESS/400モード(QPCSUPP)を終了（非活動化）するためには使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 1
DEV	装置	名前, *LOC	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR, *ALL	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
CPLPNDQRS	保留された要求の完了	*NO, *YES	オプション

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

1つまたは複数のモードを終了するリモート・ロケーションのリモート・ロケーション名を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

装置記述名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** 装置記述はシステムによって決められます。

装置名 装置記述名を指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

終了するモードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

***ALL** リモート・ロケーションによって現在使用中のすべてのモードが終了します。

BLANK

モード名 (8文字のブランク文字からなる) が使用されます。

モード名

モード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であって、使用することはできません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** ローカル・ロケーション名はシステムによって決められます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

このロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションに対する特定のローカル・ロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーション名を指定します。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションと一緒に使用されるリモート・ネットワーク ID を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** システムがリモート・ネットワーク ID を選択します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワーク識別コードが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク識別コード(ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

使用されるリモート・ネットワーク ID を指定してください。

[トップ](#)

保留された要求の完了 (CPLPNDRQS)

リモート・ロケーションが保留中の作業を完了することができるか、あるいは保留された作業を開始可能になる前に終了しなければならないかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 要求した活動は、現在リモート・ロケーションで進行中であれば完了することができます。要求したがりリモート・ロケーションで開始されていない活動は実行されません。

***YES** モードの終了前に、要求したすべての活動を完了することができます。

[トップ](#)

ENDMODの例

```
ENDMOD RMTLOCNAME(APPCRLOC) MODE(APPCMOD)
```

このコマンドは、リモート・ロケーションAPPCRLOCに対してAPPCMODという名前のモードを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: ENDMOD

***ESCAPE** メッセージ

CPF598B

1つまたは複数のモードで&1コマンドが正常に実行されなかった。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan